

富山石文化研究所調査研究報告 13

Report 13 of archaeological and  
historical research at TSCL

# 富山市石工桑原亀太郎

## 石造物調査報告書

Investigative report of stonework of maison Kuwahara Kametaro  
at Toyama town.



富山市山王町日枝神社境内  
阿形狛犬 (1925年)

2023

富山石文化研究所

—Toyama Stone Culture Laboratory—

# 例 言

- 1 本書は、富山石文化研究所が実施した、富山市石工 桑原亀太郎に関する石造物の集成及び調査研究報告である。
- 2 現地調査から報告書作成に至るまでに、次の方々のご指導・ご助言・ご協力を得た。記して謝意を表します。  
内田 均 尾田武雄 勝山敏一 亀田正夫 小林高範（故人） 酒井省三（故人）  
酒井靖春 佐藤武彦 沢辺大輔 西井龍儀 野垣好史 平井一雄 藤田富士夫  
間野 達 安田良榮（故人）  
清水山万藝寺 石造物管理者関係者一同（順不同、敬称略）
- 3 本書の執筆は、古川知明（本研究所代表）が行った。
- 4 刻銘翻刻における「/」記号は、同一面における改行を意味する。
- 5 註は文末に一括した。

## 目 次

I 調査の概要	2	(9) 共作状況	31
II 研究史	2	(10) 分布状況	33
III 石造物の概要		(11) 刻銘	33
(1) 全体概要	2	(12) 石材	37
(2) 石碑	2	(13) 店・工房の位置	40
(3) 狛犬	10	(14) 出自等	40
(4) 鳥居	18	V 石工桑原亀太郎の評価	41
(5) 社標	19	おわりに	41
(6) 手水鉢	21	註	41
(7) 燈籠	23	文献一覧	45
(8) 墓石	24	石造物一覧表	46
(9) 石仏	25	Abstract	52
(10) 花立	26	石造物実測図	53
(11) 竿立	26	石造物写真	64
IV 考察		石工銘刻銘 拓影・実測図	92
(1) 製作数・種類・年代の動向	26	石工銘刻銘 写真	109
(2) 神社石造物の組み合わせ	27		
(3) 石碑の動向	27		
(4) 四角型石碑の変化と評価	27		
(5) 稲井石製縦型碑について	29		
(6) 狛犬の変化と評価	29		
(7) 小型狛犬	29		
(8) 手水鉢の変化と評価	31		

## I 調査の概要

近世石工の調査・研究は、本研究所においてこれまで主体的に進めてきた。特に富山城下町に在住した富山町石工は、近世後期に宝篋印塔製作において力量を発揮した。1773年（安永2）から95年間に15人の石工名を確認している<sup>(1)</sup> これらのうち2人は明治以降も引続き製作を継続した。

一方、明治初期以降に製作を開始した石工は、昭和前期までに113人がいる<sup>(2)</sup>。

本稿では、明治前期から昭和前期に石造物製作を行った富山町石工桑原亀太郎について、石造物製作の実態を明らかにすることを目的とする。

## II 研究史

石工桑原亀太郎についての資料は数少ない。

『明治の富山をさぐる—総曲輪を中心として—』では、総曲輪四ノ組東部に住んだ人々の一人に、日清戦争前から住んだ石屋として「桑原亀太郎」の名をあげている<sup>(3)</sup>。四ノ組東部は現在の総曲輪3丁目に当たる。1899年（明治32）8月の総曲輪大火では、四ノ組西部のキリスト教会（日本基督教会総曲輪講義所）横の「桑原の分家」の手前で火の手が止まったとする<sup>(4)</sup>。よって総曲輪には桑原の石屋が2軒あったことになり、亀太郎は四ノ組東部の総曲輪通りに本家として店を構えていた。

尾田武雄氏による富山県内の石工銘調査では、3件の桑原亀太郎銘が報告された<sup>(5)</sup>ほか、狛犬調査成果では、桑原亀太郎銘3例を報告した<sup>(6)</sup>。

小林高範氏による狛犬分布調査成果では、桑原亀太郎銘9例、推定品5例を確認した<sup>(7)</sup>。狛犬の作風は、尾が太い蠟燭状・木葉状の2種の存在を指摘した。

このほか京田良志氏らや市町村教育委員会による石造物調査で取り上げているものがあるが、石工銘の解読までに至っていない。これらの文献は一覧において紹介する。

## III 石造物の概要

### (1) 全体概要

亀太郎の石造物は在銘品158例（表1-1）、推定品39例（表1-2）の計197例がある。

種類には、石碑・狛犬・鳥居・社標・燈籠・手水鉢・墓石・石仏・花立・竿立がある。

製作比率は、石碑が71例（36.0%）、狛犬が57例（28.9%）と主体であり、両者で全体の6割超を占める（図1）。

製作年代は1878年（明治11）から1931年（昭和6）の54年間である。推定品を含めると1875年（明治8）から57年間である。

石材は、花崗岩・安山岩・砂岩・凝灰岩・粘板岩である。花崗岩が最も多い。石材の詳細については後段で行う。以下本文中記載の番号は表1の通し番号を示す。

### (2) 石碑

71例（36.0%）があり、石造物の内最も高い割合である。刻銘品は63例、推定品は8例である。

①形態 石碑とは、事績・事跡等を伝承するため文字を彫った石のことをいい、記念碑・顕彰碑・慰霊碑・文学

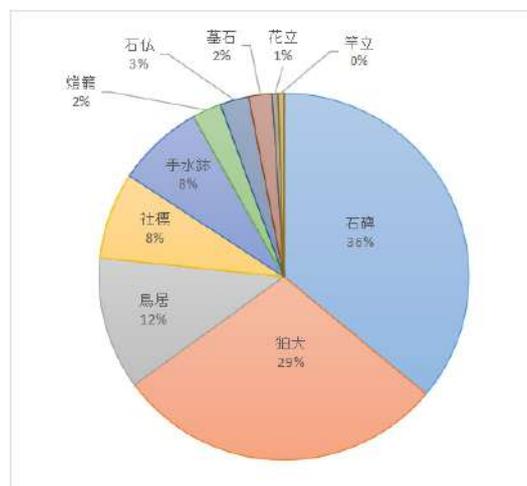


図1 種類別構成比

碑・墓石などがある。ここでは墓石以外を対象とする。

自然石型 17 例・四角型 20 例・方柱型 3 例・縦板形 27 例・駒型 1 例・造形型 3 例があり、縦板型が最も多い。

自然石型（表 1-3）は、玉石や自然石を利用するもの。玉石等を原形のまま碑面とする「積石<sup>(8)</sup>」と、半割した割面を碑面とする「半割石」に分けられる。積石は 7 例、半割石は 10 例で、半割石が多い。

駒型（表 1-3）は、近世墓石の一型式である駒形墓石<sup>(9)</sup>の形態とほぼ一致する。

四角型（表 1-4）は、縦長四角形を基本形とする。厚みは薄い。上面は弧状となる楕形または水平である。碑面は正面で、上面・側面は平滑面である。裏面は平坦に整形するものと、顕著なノミ痕を残すものがある。台座は横長方柱形のものが多い。他に支柱や台座に装飾を加えるものがある。

方柱型（表 1-5）は、断面方形の柱状で、頂部は四角錐で尖るものが多い。台座は方形である。

縦板型（表 1-6）は、粘板岩を縦長の碑としたもの。中世の板碑と近似するもので、頂部を三角形状に尖らせるものが多い。台石は横長球状の自然石が多い。粘板岩以外のものは板状型という。

造形型（表 1-7）は、割石に刀を浮彫したもの、兵隊像の特殊なもの。

②年代 最初期の 1878 年（明治 11）から 1928 年（昭和 3）まで、ほぼ全期にわたり製作した。

自然石型は、1878 年から 1919 年（大正 8）まで 42 年間にわたる。

四角型は、1895 年（明治 28）から 1911 年（明治 44）まで 17 年間にわたる。

方柱型は、1908 年（明治 41）から 1922 年（大正 11）まで 14 年間にわたる。

縦板型は、1915 年（大正 4）から 1930 年（昭和 5）まで 16 年間にわたる。

単品の駒形は 1881 年（明治 14）、造形型は 1906 年（兵隊像）、1928 年（刀）である。

③石材 安山岩は、自然石型 8 例、四角型 1 例、駒形 1 例、造形型 1 例の 11 例があり、石碑全体の 15.5%を占める。自然石型のうち積石が 5 例（62.5%）と多い。常願寺川産立山天狗山石・八川石、神通川産神通川石がある。

花崗岩は、自然石型 6 例、四角型 19 例、方柱型 3 例、造形型 1 例の 29 例があり、石碑全体の 40.8%を占める。自然石型では、1897 年（明治 30）以後は使用しない。四角型は、明治 29 年以降はすべて花崗岩である。方柱型・造形型は全て花崗岩である。磁鉄鉱系は早月川花崗岩・大熊山花崗閃緑岩、チタン鉄鉱系は西日本産花崗岩である。

砂岩は、自然石型 3 例、造形型 1 例があり、石碑全体の 5.8%を占める。明治 30～40 年代のみ使用する。神通川産猪谷石がある。

粘板岩は、縦板型に限定して使用し、石碑全体の 38.0%を占める。青黒～黒灰色を呈し硬質で、板状に剥離することが特徴で、天然スレートとも呼ばれる。県内には産出せず、「仙台石」とも通称する宮城県石巻市産稲井石を用いるものが多いとみられるが、他所産の粘板岩の可能性もある。

④目的 石碑造立の目的は、記念碑・顕彰碑・慰霊碑・歌碑・その他に分類できる。

A 記念碑 施設工事完了を記念して造立されたものに、耕地整理 5 例、用水 2 例、神社石造物 2 例がある。行事等を記念して造立されたものに、大正天皇即位記念 1 例、第一回国勢調査 1 例がある。名跡の由来を解説したもの 4 例がある。記念碑は、石碑全体の 21.1%を占める。

B 顕彰碑 故人・個人の功績等を顕彰したもので、「頌徳碑」とも呼ばれる。

浄瑠璃師匠の顕彰 4 例、偉業者の顕彰 11 例がある。顕彰碑は、石碑全体の 21.1%を占める。

C 慰霊碑 日清・日露戦争の従軍・戦没者を慰霊したもの 34 例がある。このうち「忠魂碑・義勇奉公碑」6 例があり、それ以外は個人または少数名の碑である。このほか、水害被害者追悼碑が

1 例ある。慰霊碑は石碑全体の 49.3%を占める。

D 歌碑 俳句を刻んだもの 1 例がある。

E その他 名号塔 1 例、筆塚碑 1 例がある。

### ⑤個別解説

1 は、自然石半割石で、平滑な碑面中央に「勝岡竹吉塚」<sup>(10)</sup>と行書で陰刻する。その左右に門人とみられる人々と周施人の氏名を楷書で彫る。石工銘は正面右下に楷書で彫る。側面は四角く彫り、造立年を彫る。本体は八川石、台座は花崗岩類自然石を横置きする。

2 は、浄瑠璃節の常磐津家元弟子とみられる常磐津文字末吉<sup>(11)</sup>の顕彰碑である。本体は、花崗岩玉石を矢穴割りした方形割石である。上面に礫面が残る。碑面中央に名を行書体で彫る。碑面左上部に矢穴痕 1 が残る。矢穴は台形状である。矢穴の大きさは、上辺 4 寸・下辺 2 寸・深さ 3 寸（以下×寸で表記する）である。右面の割面には矢穴痕 3 が残る。碑面側から矢穴割したものである。近世期石垣石材にみる四分割技法と共通する<sup>(12)</sup>。矢穴痕は、上から 2.5×2×2、3×2×2.5、3×2×2 で、台形・半円形状である。矢穴間隔は礫面側から 6 寸、4.5 寸、8.5 寸である。石工銘は碑面右下方にあり、「石亀」と屋号様の表記とし、行書体で彫る。石碑における「石亀」の表記はほかに 3 例がある。台座は玉石である。

3 は、個人による小型の名号塔である。本体は頂部に礫面を残す。左側面に矢穴 3 を残し割面のままである。矢穴の大きさは、3×2×1.5、矢穴間隔は 6 寸、4.5 寸、4 寸である。右側面は下部に矢穴 2 を残し、上半はハツリ整形を行う。台座も矢穴を残す割石で、上面に矢穴 3、正面側面に矢穴 1 を残す。四分割技法である。矢穴の大きさは、上面が 3×2×2.5、3.5×2×3 で、矢穴間隔は 2.5 寸、1.5 寸と短い。正面は 3.5×2×2 である。

4 は、瑠璃師匠とみられる長坂六代目竹本田組太夫<sup>(13.14)</sup>の顕彰碑である。駒形である。碑面に額を二段に掘り下げ、中央に大きく組大夫の名を草書で彫る。額の上に家紋「丸に木瓜」紋の浮彫、額下には蓮華座を陰刻する。切石台座には、正面に門人 10 人の名と末尾に石工銘を楷書体で彫る。

5 は側面の大部分と裏面に礫面を残す。半割石の割面を平滑にし碑面とする。正面上部に横長の篆額を浅く彫り、「犁車<sup>(15)</sup>元祖」と陽刻する。その下には「野沢先生碑」と隷書体で大きく彫る。碑に隷書体を用いるのは本例が初である。石工銘は正面左下に楷書体で彫る。台座は花崗岩自然石で、上面を浅く彫り下げて本体を置く。

6 は、浄瑠璃の義太夫節の師匠とみられる豊沢団寿<sup>(14)</sup>の顕彰碑である。自然石を四分割以上し、割面を残す。正面碑面は平滑面とし、文字部分は、浅く額を彫り、中に隷書体で大きく名前を陰刻する。額の両側には門人の名を隷書体で彫る。石工銘は正面左下に隷書体で彫る。台石は 6 石の花崗岩切石を組む。

8 は、自然石をそのまま使う。正面上部に横長の額を浅く彫り、「白林鼎寿水」と楷書太字で陽刻する。その下の礫面に大きく「筆塚」<sup>(16)</sup>と楷書体で深く彫る。文字内部には緑色の顔料が残り、着色していたとみられる。石工銘は左側面自然面下部に楷書体で彫る。

12 も 8 と同形態で、上部の額には「征清戦死」と隷書で陽刻し、その下に戦死者名を楷書体で彫る。側面・裏面に造立年代・世話人・石工名等を彫る。石工銘は、以後定型となる「富山市石工 桑原亀太郎」の初例である。

13 (図 2) は、四角型で初の戦没碑である。頂部は平らで、両端は丸い。正面・左右側面を平滑面とする。裏面は割面のままで凹凸が顕著である。正面碑面は、上部に横長の篆額を浅く彫り、「征清軍人」と太字で陽刻する。その下に戦死者名を隷書体で彫る。左右側面には楷書体で願主・戦死

日・石工銘を彫る。石材は安山岩である。台座は横長の切石である。

この形態が、以後における四角型の個人戦没碑の定型となり、石材は花崗岩に代わっていく。

14は頂部が突出する自然石で、正面上部の額は「征清軍人」と楷書体で陽刻する。裏面に世話人多数を彫る。揮毫者は裏面にある村長とみられる。石工銘は右側面に楷書体で彫る。

15は、定型化した花崗岩製の四角型個人戦没碑である。正面上部の篆額は「征清軍人」と陽刻し、戦死者名は隸書体である。縦長長大で、玉石積基壇を築く。周囲に玉垣を設ける。石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。

19は、帯状の長石が嵌入する花崗閃緑岩を使う。半割石の割面を平滑にし碑面とする。正面上部の横長の篆額には「桓桓于征」<sup>(17)</sup>と陽刻する。揮毫者は前田利同<sup>(18)</sup>である。その下は、沈線で大しく四角に囲み、中に「征清軍人姓名碑」の表題と碑文を彫る。文字は楷書体である。石工銘は裏面自然面下部に彫る。

22は、神通川石の河川転石による自然石の戦没碑で、共同墓地内に所在する。正面上部の横長の篆額に「征清軍人」と浮彫し、下に名前を陰刻する。造立年・石工銘は裏面下部に楷書体で彫る。

23の自然石型は、正面上部の篆額はなく、戦死者は「越中志士」と冠し隸書体2行で彫る。揮毫者は林有造<sup>(19)</sup>である。石工銘は裏面自然面左端に彫る。基壇は大きな自然石を多数組み、拝所部分まで立石を広げ、小燈籠や小手水鉢を配置する。大型忠魂碑・義勇奉公碑ではこのような配列が多い。

24は、碑面中央に六字名号を楷書で大きく陰刻し、その左右に階級・戦死者名を彫る。石工銘は側面下部に彫る。

25は、板状に割った石材の正面に四角い額を彫り下げ、その中に銘文を彫る。右に「爪先瑩記」の表題があり、長照の謹書により浅野家<sup>(20)</sup>墓地の由来を長文で記す。左端末尾に造立年（明治35年）・謹書者名を彫る。裏面も額を彫り下げ、その中に寄進者名多数を彫る。末尾に「桑原亀太郎刻」と楷書体で彫る。その左下方に小さな額を彫り、明治37年に墓地を整備したことが追記された。そこには富山市石工谷村信由<sup>(21)</sup>が担当したことを記す。墓地内には墳墓上に墓石・手水鉢・燈籠等があり、その下手前の拝所には龍文をあしらった花立・線香立のほか、燈籠・手水鉢等がある。これらの石造物群を谷村が製作したということか。本体石材は濃灰色堆積岩で石質不明、下の台座はチタン鉄鉱系花崗岩である。本体は後出する稲井石粘板岩ではないことから、これと区別するため「板状型」と表記することとする。

27～30の四角型個人戦没碑は、戦死年月日を記すが、造立年はない。戦死翌年・翌々年頃に造立されたものが多いことから、これらもそのような年代と思われる。これらは正面上部の横長の篆額に「陸軍歩兵」等階級を浮彫し、その下は中央に隸書体で戦死者名、左右に戦死年月日や戦死場所を記す。石工銘は本体左側面下部に記すものが3基あり、29のみは本体下基礎正面左端に彫る。もとは裏面にあったものが180度回転して移設されたものとみられる。

32（図2）は、薄い板状の四角型で、上辺両端は弧状に抉る。正面上部には横長の篆額を二段に彫り、「故（姓名）君之碑」と陽刻する。その下には碑文を隸書体で9行にわたり彫る。本体下には雲形の支柱2基を間隔を空けて置き、本体を受ける。支柱下端には弧状の浅い抉り込みがある。支柱下に長方体の台座を横置きする。上面はわずかに皿状に盛り上がる。台座右側面に石工銘を彫る。同種のものに47がある。

33の四角型は、戦死者2人を並べて隸書体で陰刻する。篆額はなし。石工銘は本体左側面下部に隸書体で彫る。

34の四角型は、楷書体で戦没者情報を彫る。揮毫者は上官である。篆額はなし。石工銘は本体左側面下部に楷書体で彫る。

35の四角型は、正面上部に2段に篆額を彫り、軍所属階級を陽刻する。正面碑面は隸書体である。石工名は正面左下に「文字 富山市石工 桑原亀太郎」と隸書体で彫る。隸書体文字は亀太郎が書いたものであることを示す。石碑本体も他の亀太郎のものと同じであり、文字のみが亀太郎作ということではない。

36・37は旧広田村の従軍者の慰霊碑群である。広い敷地に石積や景石を配置する中に石碑がある。七福神や宝船を擬したという。作庭者は「庭師由川健太郎」である。36は神通川産砂岩「猪谷石」の河川転石の半割石で、碑面上部に額を浮彫し、中に「軍人」と楷書で浮彫する。37は猪谷石の河川転石の巨石をそのまま使用したもので、正面中央に「義勇奉公碑」と篆書体で大きく彫る。左下には「希典書」とあり乃木希典<sup>(22)</sup>の揮毫とされる。石工銘は本体裏面下部に彫る<sup>(23)</sup>。

38の四角型は、7行で碑文を彫るため高さが高い。正面上部に篆額を彫り、「頌徳之碑」と陽刻する。撰者は辻尚郎<sup>(24)</sup>、書者は水上滉である。石工銘は本体右側面下部に隸書体で彫る。台座は2段で、上段は本体全体を差込むため上面に方形のホゾ穴を彫る。下段は切石組である。

39(図2)の四角型は、32・47同様、本体上辺両端を弧状に抉る。4面とも碑面で、縁辺を沈線で縁取る。上部の篆額は、四隅を弧状に抉って浅く彫り、周囲を沈線で同形に囲む。額内は細かいハツリを行い、正面は「蹟烈千〔火+木〕」、裏面は「心月星碧」と陽刻する。その下の楷書体の碑文の冒頭は篆額字作者名があり、正面は陸軍大将乃木希典、裏面は陸軍大将大島久直<sup>(25)</sup>である。碑面には46人の戦死者の氏名経歴等を記す<sup>(26)</sup>ことから、碑は単独石碑よりも横長である。台座は、本体同様、上面と側面計5面の縁辺を沈線で縁取る。上面を浅く彫り、本体を置く。石工銘は台座裏面右端に楷書体で彫る。石積基壇上に箱型の花立2基(図6)を置く。

44は、方柱型の戦没碑である。頂部は水平で左右が丸い。四角型の古式の形態を踏襲する。正面に長く戦没者の氏名等情報を楷書で彫る。揮毫者は上官である。側面に造立年・願主・石工名を彫る。

47(図2)は、本体・支柱が32と類似する。本体は頂部が三角形に尖る。上端両側を弧状に抉る。碑面上部に横に隆起線を設け、その上に「耕雲受生」と篆書体で四字を陽刻する。その下には篆書丸字で大きく「頌徳碑」と陰刻する。万藝寺13世巧雲住職<sup>(27)</sup>の顕彰碑である。揮毫者は山田兵庫<sup>(28)</sup>である。本体下には雲形支柱2基を置く。本体を差し込む受部は32より大きい。中台正面には「諸門人同建」と篆書体で陽刻し、左側面に石工銘がある。「富山市」は縦書き、「石工」・名は左書きである。裏面には「特志者」10人の名を楷書体で彫る。その中に亀太郎の名前がある<sup>(23)</sup>。その下には連子窓の下段中台を置く。切石組台座は2段で、上段の上辺隅角は丸める。亀太郎は石工として石碑製作を請負ったが、特志者として寄付も行った。下段正面には連子窓の装飾がある。基礎は切石組2段で、上段の上面隅角を丸める。その下には玉石積基壇がある。

48は、半割石の割面を碑面とし、上部に隅丸方形の額を彫り、「長岡建鳥居記」と隸書体で陽刻する。富山藩主前田家墓所長岡御廟所入口の鳥居脇に置かれた。裏面には平滑面に造立者・石工名を楷書で陰刻する。

51は、粘板岩(稲井石)を使用した最も古い縦板型である。不整台形の縦長の碑で、表裏面二刻銘がある。正面は上部に方形の篆額を彫り、中に「耕地整理」と太丸字で縦書2行で陽刻する。その下に「記念碑」と大きく篆書体で陰刻する。揮毫者は富山県知事井上孝哉<sup>(29)</sup>である。裏面には造立年・関係者名簿・石工名を楷書で彫る。石工銘は末尾左下にある。

52 の四角型は、頂部は水平で両端が丸い。額はない。正面の揮毫「日清日露戦役記念碑」は陸軍中将神尾光臣<sup>(30)</sup>である。裏面・側面も平滑面に加工し、出征者名・造立年を楷書で彫る。側面下部の石工名は隸書体で彫る。

53 は、52 と並んで立つ。方柱型で、正面の揮毫「日清日露戦役忠魂碑」は神尾中将である。側面に戦死者名、裏面に造立年・石工名がある。石工名は隸書体で彫る。

54 の定型化した四角型は、上部に隅丸方形の篆額を彫り、中に「土肥翁寿蔵碑」<sup>(31)</sup>と太丸字で2行に陽刻する。その上には円形に二段に深く彫り込む。内部の下面は水平であり、小石仏を置いたものか。碑文は13行と長いため碑の高さは高い。碑文書者は河合豊、篆額の揮毫者は前田利鬯<sup>(32)</sup>である。側面に造立年月日、石工名を彫る。石工銘は楷書体である。

59 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部には篆額の中に「磯部富士」と行書体で浮彫する。その下に由来を10行で楷書で彫る。石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。

69 の縦板型は、頂部が三角形状である。正面上部には隅丸方形の篆額を彫り、中に「疆理碑」<sup>(33)</sup>を変形丸文字で陽刻する。碑文は19行の長文にわたり、作成者は山田兵庫である。翻刻は廣瀬誠博士が行い、現地に解説板が立つ。裏面には関係者161人の名を楷書で彫る。石工銘は末尾左下に楷書で彫る。

80 の縦板型は、頂部は弧状である。正面には丸文字篆書体で「吉田欽一郎先生謝恩碑」<sup>(34)</sup>と陰刻する。額はない。裏面には方形に彫った平滑面に造立者・造立年月日を楷書体で彫る。石工銘は側面に楷書体で彫る。

82 の縦板型は、頂部が山形となる。碑は正面上部に「御大典記念」と大きく左書き楷書体で彫り、その下の碑文は、楷書体縦書き13行で「的場の清水」の由来を記す。末尾に「光忠謹書」とある。裏面は部分的に方形に平滑面を彫り、造立年・造立者を楷書体で彫る。石工銘は、裏面左下に方形に彫った平滑面に楷書体で彫る。碑は自然石積基壇上に置かれ、小石燈籠を伴う。

83 の縦板型は、頂部が山形となる。正面上部には隅丸方形の額を彫り、中に「御大典記念」と丸文字篆書体で陽刻する。大正天皇の即位記念<sup>(35)</sup>である。その下に方形に彫り下げた平滑面に碑文を楷書体で彫る。裏面下部に石工銘を楷書体で彫る。

84 の縦板型は、頂部が山形となる。碑は正面上部に「久世央君之墓碑」と大きく左書き丸文字篆書隸書体で陽刻する。その下の碑文は、楷書体縦書き11行で功績を示す。久世央は加賀藩和算学の大家となり、明治以降も県職員として奉仕した<sup>(36)</sup>。裏面中央に造立年、その左下に石工銘を隸書体で彫る。

85 の縦板型は、最も遠距離となる岐阜県飛騨市宮川町に置かれた。元坂下村役場前に置かれていたが現在地に移転した。全面が平滑整形され長方形である。正面には「追悼碑」と行書で大きく彫る。揮毫は総持寺素童<sup>(37)</sup>である。裏面は水害被害者名<sup>(38)</sup>・造立年月日を楷書で彫る。石工名は、正面左下と、裏面左下末尾に楷書で彫る。本体1石に石工銘を2つ彫る例はこれが唯一である。

98 の縦板型は、頂部が山形となる。上部に二重の額を彫り、中に「切芳碑」と太字行書で陽刻する。篆額筆者は二条基弘<sup>(39)</sup>である。碑文は18行で隸書で彫る。石工銘は正面左下末尾に隸書体で彫る。大型切石基壇上にある。

100 は八川石玉石に俳句を行書体で彫る。「風月会員芳塲」<sup>(40)</sup>が句作者で、台座は玉石である。

104 の縦板型は、頂部が山形となる。正面上部の額は「耕地整理」と太字行書体で陽刻する。その下には「記念碑」と行書体で大きく彫る。両揮毫は小池義範<sup>(41)</sup>である。

107 の縦板型は、頂部が山形となる由来碑である。正面上部の篆額は「敬以直内」と太字で陽刻

する。碑文の冒頭は「有沢神明社靈太之記」とあり 11 行を楷書体で彫る。碑文は野上弘の書である。裏面は造立年・石工銘で、楷書体で彫る。

115 の縦板型は、頂部が整った三角形である。正面上部の額は 2 段に彫り、「頌徳」と太字行書体で陽刻する。その下に「中川勘太郎翁碑」と楷書体で彫る。東園基光<sup>(42)</sup>の揮毫である。裏面は方形に平滑面を彫り、造立年・造立者を楷書体で彫る。石工銘は左下に隷書体で彫る。

122 の方柱型は、頂部が水平、その四辺が丸い。正面に楷書で「第一回国勢調査記念碑」<sup>(43)</sup>と陰刻し、揮毫は「国勢院総裁小川正ノ吉書」<sup>(44)</sup>と左面にある。右面には四方町の調査結果、裏面には調査員名を楷書で彫る。石工銘は裏面最下部に楷書で彫る。

124 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部の篆額は「刀嶽君碑」<sup>(45)</sup>と陽刻する。碑文は 13 行で楷書で彫る。本願寺富山別院の橘有〔益+β〕の書である。裏面は方形に彫り下げた平滑面に発起人名・設計者名を楷書で彫る。設計者とは基壇石積等の配置をさすが、移転し当初の姿は不明である。石工銘は右側面割面に楷書で彫る。

127 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部の額は 2 段に彫り、「銀納用水」と太字楷書体で陽刻する。その下には「記念碑」と楷書体で彫る。杉原村村長黒田竹次郎の書である。裏面は方形に彫り下げた平滑面に役員名を楷書で彫る。石工銘はその末尾左下に楷書で彫る。副碑があり、碑文の「銀納用水碑記」は経緯を記す。台石は自然石である。

128 の縦板型は、頂部が山形である。正面には「忠魂碑」と大きく楷書体で彫る。揮毫者は陸軍大将川村景明<sup>(46)</sup>で、正面左端に名を彫る。左側面中ほどには石割の際の棒ドリル跡が残る。その下に石工銘を楷書体で彫る。台石は自然石である。

129 の縦板型は、頂部が山形である。正面には戦没者名を楷書で彫る。揮毫者は海軍大将鈴木貫太郎<sup>(47)</sup>で、正面左端に名を彫る。左側面中ほどの棒ドリル跡の下に、造立年月・石工銘を隷書体で彫る。台石は自然石である。

130 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部には隅丸長方形の額を彫り、「表彰碑」と楷書体で陽刻する。その下には表彰内容を縦書き行書体で彫る。表彰状を転記したものである。表彰者は万藝寺 12 世巧巖住職<sup>(48)</sup>である。裏面は造立年月日、造立者を行書体で彫る。石工銘は裏面左下に隷書体で彫る。台石は自然石である。

136 の縦板型は、頂部が不整形の弧状である。正面上部には隅を内湾した篆額を彫り、中に「合婚記念」と丸太字で浮彫する。その下の碑面は方形に浅く彫り下げ、15 行で碑文を楷書で彫る。内容は刀尾神社の由来である。額外左端に篆額揮毫者前田利為<sup>(49)</sup>の名を彫る。裏面は造立年月日、造立者を行書体で彫る。石工銘は左側面割面に楷書体で彫る。

137 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部は篆額を彫り、中に「墓乾碑」と陽刻する。額の下には、方形に沈線で囲んだ中に碑文を楷書で彫る。その下には沈線で囲んだ中に造立者（寄進者）名多数を彫る。碑文は井田の由来及び忠魂碑の経緯で、山田兵庫<sup>(28)</sup>による。裏面は方形に彫り下げた中に、造立年・世話人名を楷書で彫る。その枠外の左下に石工銘を楷書で彫る。

138 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部は篆額を二重に彫り、中に「耕地整理」と 8 楷書で陽刻する。その下には「記念碑」と楷書で大きく彫る。揮毫者は野村素介<sup>(50)</sup>である。爵位氏名の下に落款を彫る。裏面は方形に彫り下げ、事業成果・関係者名、造立年月日を楷書体で彫る。末尾左下に工事担当者名と石工銘を並べて楷書体で彫る。台石は長方体に粗加工した花崗岩である。

146 の縦板型は、頂部が山形である。正面上部は篆額を二重に彫り、中に「古沢用水」と太字楷書体で陽刻する。篆額揮毫者は田健治郎<sup>(51)</sup>である。その下に「紀年碑」と楷書体で彫る。裏面は

方形に彫り下げ、「古沢用水碑記」とする由来文を13行で彫る。撰者・書者は辻尚邨<sup>(24)</sup>である。枠外左下に石工銘を楷書で彫る。石工は「鑄工」と表記する。裏面の一部にドリル跡が1か所残る。

148の縦板型は、頂部が山形である。正面上部の額は「耕地整理」と太字行書体で陽刻する。その下には「記念碑」と行書体で大きく彫る。揮毫は前田利定<sup>(52)</sup>である。裏面は方形に彫り下げ、上段に事業経緯の説明21行の碑文、下に関係者氏名がある。碑文は山田兵庫<sup>(28)</sup>による。石工銘は左面割面に隷書体で彫る。台石は自然石巨石である。

149は造形型である。越中刀工佐伯則重<sup>(53)</sup>の顕彰碑で、長方体に粗加工した石材の正面に刀身のうち茎を写実的に浮彫する。目釘穴と「嘉暦三年八月日則重作」の銘を彫る。側面に造立者、裏面に石工銘を楷書体で彫る。亀太郎は「亀山」とし、亀字は象形文字様とする。台座は自然石である。

150の縦板型は、頂部が山形である。正面には「竹本鶴登代」と行書体で彫る。義太夫節師匠か。裏面中央に横長のドリル跡を残し、その下を平滑にして造立年、門人・家族・世話人らの名を楷書体で彫る。石工銘は左下末尾に「石工 石亀」と楷書体で彫る。台石は新調されている。

154(図2)の縦板型は、頂部が整った山形である。正面碑文は、基端から15cmより上を平滑に加工し彫る。正面上部には長楕円形の額を彫り、中に「陰徳陽報<sup>(54)</sup>」と太字楷書体で陽刻する。額字は文部大臣田中隆三<sup>(55)</sup>の揮毫である。額下には中央に丁子梅鉢紋の陰刻、その左右に対称に唐草文を線刻する。その下の「献呈／高松梅治先生」<sup>(56)</sup>と2行の隷書体文字は白上佑吉<sup>(57)</sup>の揮毫である。正面下部は揮毫者、「記念松由来碑」と題する由来文・造立年月・造立者を楷書で彫る。裏面は加工痕を顕著に残し、3か所を方形に彫り下げて中に刻銘する。上方には慶応大学総長林毅陸の揮毫による「一誠以貫百行」<sup>(58)</sup>、下中央には関係者名簿、左下には石工銘と「乱積師 堀田庄之助」を並べて楷書体で彫る。乱積師は石碑基壇及びその周辺の配石を設計工事した者をいうが、旧状は失われ再整備されている。

156の縦板型は、頂部が弧状である。乃木希典の揮毫による篆書体の「忠魂碑」を正面に大きく彫る。左側に希典書と添書する。裏面には1904～1905年日露戦争、1932年第一次上海事変、1941年太平洋戦争の戦没者の名を楷書体で彫る。石工銘は右側面割面に楷書体で彫る。台座は、矢穴列を残す花崗岩半割石である。その下に巨岩玉石を積み基壇とする<sup>(59)</sup>。1906～1907年頃の造立で、1932年以降は追刻と推定される。

157の縦板型は、上辺がほぼ水平で、156基壇石の一つと新たに置いた玉石との2石を基礎石とし、ホゾ穴をあけて本体を立てる。正面には、1894～1895年日清戦争、日露戦争戦没者名を彫る。石工銘は左側面に楷書体で彫る<sup>(60)</sup>。字形は156とほぼ同一である。1906～1907年頃の造立で、1932年以降は追刻と推定される。

以下は推定品である。

162の自然石型は、安山岩転石の割面を加工せず碑面としたものである。上部は大きく手前に反る。碑文は、上部に造立年を2行、その下に「征清紀年碑」と隷書体で大きく彫る。字形から亀太郎と推定した。

165～168・171は四角型で、1906～1907年造立の戦没碑である。頂部は水平で両端が丸い、もしくは弧形である。碑面上部に篆額を彫り、戦没者名等を隷書体で彫る。字形から亀太郎と推定した。このうち171(図2)の篆額は「征■軍人」とあるが、空白部には「露」の字があり、削り取ったとみられる。一部に痕跡を残す。完成以後に行われた行為だが、理由は不明である。

169・170の造形型は、兵隊像である。ともに1906年造立の戦没碑である<sup>(60)</sup>。169は立山天狗

山石の自然石半割石の割面中央に像を浮彫したもの、170は猪谷石の丸彫像である。いずれも副碑があり、169には安山岩製の四角型石碑、170には花崗岩製の四角型石碑である。いずれも頂部は平らで、両端は丸い。兵隊像は作風が異なることから、いずれかが亀太郎、もう一体が別石工と思われるが、確定できないためここでは両者とも報告しておく。

### (3) 狛犬

57例(28.9%)がある。このうち刻銘品は42例、推定品は15例である(表1-8)。

神社参道に置かれた参道狛犬と、神社奥殿前に置かれた小型狛犬がある。参道狛犬が主体で、小型狛犬は4例(7.0%)である。参道や奥殿前の左右に、阿形・吽形の2基が一对で置かれる。本稿では2基を1例と数える。

本稿における解説は、ねずてつやによる分類<sup>(61)</sup>・上杉千郷による分類<sup>(62)</sup>を基準とする。

①形態 阿形・吽形はほぼ同形態で、口の開閉の違いだけのものが多い。標準型の巻き毛型で、通称「岡崎型」である。参道狛犬は、拝殿に向かって右は阿形、左は吽形である。

顔は斜めに入口側を向く。顔は水平が多いが、わずかに上・下を向くものがある。波打つ横耳が特徴的であるが、初期は長い垂れ耳も少量ある。阿形では、上顎に大きな犬歯、口中には舌がある。歯や舌は形状が多様である。下顎の歯は不明瞭もしくは無いものが多い。たてがみは大きな渦で、背に延びる毛は直毛のものが多い。足・体軀は筋肉質でがっしりしている。尾の先は、蠟燭の峰と呼ばれる山形、尾下部は左右数段に分かれ先が渦となるものと、尾下部の流れ毛を交差させて表現するものに大別される。盤台は方形で厚みがある。基礎は、盤台より大きな長方体の切石で、盤台と基礎の間に薄い板石(以下中台という)を加えるものもある。基礎正面には阿形に「奉」、吽形に「納」と隷書体で彫るものが多い。基礎下には玉石・加工割玉石・切石基壇を伴う。

②年代 刻銘品は1889年(明治22)から1926年(大正15)の38年間にわたる。推定品を加えると1879年(明治12)から1928年(昭和3)まで49年にわたる。製作期間は石碑に次いで長い。

③石材 本体の石材には、花崗岩類・安山岩・砂岩・凝灰岩がある。

花崗岩類は最も多く33例があり、狛犬全体の57.9%を占める。早月川花崗岩・西日本産花崗岩があり、帯磁率からみてほとんどが西日本産チタン鉄鉱系花崗岩が主体である。六甲御影石が主体とみられる。

安山岩は11例があり、狛犬全体の19.3%を占める。常願寺川産八川石、常願寺川産とみられる角閃石安山岩がある。

砂岩は10例があり、狛犬全体の17.5%を占める。神通川産猪谷石6例、氷見・高岡産太田石(岩崎石・藪田石)1例、島根県産来待石1例があり、猪谷石が多い。

凝灰岩は、緑色凝灰岩3例がある。いずれも本殿前奉納の小型品で、越前産笏谷石である。

石材の使い分けも見られる。本体・基礎で石材を使い分けているものがある。

本体を猪谷石、基礎を八川石とするものが1例(7)、本体を猪谷石、基礎を西日本産花崗岩とするものが1例(160)、本体を西日本産花崗岩、基礎を早月川花崗岩とするものが1例(64)ある。本体を亀太郎、台座を魚津町石工貫和捨次郎<sup>(63)</sup>が分担して製作した。

### ⑤個別解説

7は、顔が神社入口方向(斜め前)を向き、顎を上げる。耳は左右に離れ、波打つ垂れ耳である。先端は三角形でやや上を向く。上顎の歯は丸く、最奥と犬歯は大きい。下顎は丸く二段である。舌は下唇上に出す。前足はほぼ直立する。尾下部は左右2段に分かれる巻き毛である。尾上部の峰は小さい。盤台下に中台を置く。基礎は3段の切石積である。上段は正面には楷書体で吽形「奉」・

阿形「納」と彫る。阿形左面に造立年（明治 22 年）・同裏面に石工銘を楷書体で彫る。中段は板石を敷く。下段は板石 4 枚で箱形に組む。基壇は近年の新補品である。本体は猪谷石、基礎は八川石である。

9 は、顔が斜め前を向く。阿形は口を大きく開ける。耳は左右に離れ、波打つ短い垂れ耳である。目は丸く瞳孔がある。上顎は一番奥の歯が大きく尖る。歯列は四角い。口全体に薄い舌があり、下顎は左右に 4 本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。前足は直立する。尾上部の峰は三つがまとまる。尾下部は左右 3 段に分かれ先端は渦である。盤台は、阿形正面に「若連中」と横書き楷書体で彫る。吽形正面には横書きで造立年（明治 25 年）、同裏面の石工銘は縦書きで「富山市／石工」、横書きで「桑原亀太郎」と楷書体で彫る。基礎は 2 段の切石積である。上段は阿形左面に「奉」・吽形右面に「納」と楷書体で彫る。下段は板石 2 石を置く。石材は猪谷石である。基壇は新補である。

10 は報告<sup>(6)</sup>に基づくが現物が確認できない。

11 は、顔がわずかに斜め前を向き、上体が拝殿側に傾く。耳は左右に離れ、長い垂れ耳である。上顎は、一番奥の歯が大きく尖る。歯列は四角い。下顎の歯列の上に三角形の大きな舌先を出す。下顎下面には髭とみられるギザギザの線刻がある。前足はほぼ直立する。尾は全体が高く、尾下部は細く左右 5 段に分かれ渦である。尾上部の峰は太く高い。盤台は薄い。基礎は 2 段の切石積である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は楷書体で彫る。吽形右面に寄附者名、阿形左面に造立年（明治 27 年）、吽形右面に寄附者名、同左面に石工銘を楷書体で彫る。下段は板石である。それより下の基壇は近年の新補品である。石材は島根県松江市産の来待石である。

17 は、顔がほぼ正面を向き、顎を上げる。耳は左右に離れ、波打つ短い垂れ耳である。目は丸く大きい。歯列は上下が薄く、連続的に縦線を入れるのみである。下唇中央は山形である。前足は直立し短い。尾は大きい。尾上部の峰は太く高い。尾下部は細く左右 3 段に分かれ渦である。基礎は 2 段の切石積である。基礎正面の阿形「奉」・吽形「納」は楷書体で彫る。石工銘・造立年（明治 29 年）は吽形の基礎右側面に彫る。その下は割玉石積基壇である。本体・基礎とも猪谷石である。

21 は、顔が斜め前を向く。体軀は細身である。阿形は口を大きく開ける。耳は左右に離れ、波打つ短い垂れ耳である。上顎は一番奥の歯が大きく尖る。歯列は四角い。下顎の表現は、内側前面に薄い舌、その左右に 4 本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。前足はほぼ直立する。尾上部の峰は小さく背中に付く。尾下部は細く左右 4 段に分かれ渦である。盤台は厚い。盤台下に中台を置く。基礎は 3 段の切石積である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隷書体で彫る。阿形左面に造立年（明治 31 年）、吽形右面に奉納者名を楷書体で彫る。石工銘は吽形左面に楷書体で彫る。段下に加工割玉石積基壇がある。切石基壇より上はチタン鉄鉤系花崗岩、加工割玉石積基壇は神通川石である。花崗岩製狛犬のうち最も古い。

26 は、顔が斜め前を向く。耳は左右に離れ、波打つ短い垂れ耳である。上顎の歯列は三角形で尖る。一番奥と奥から 3 本目の歯が大きい。下唇中央は山形で、下顎に歯列はない。口内には山形の舌がある。前足はやや前に出す。尾上部の峰は小さく太く丸い。尾下部は 2 列 3 段の渦で、流れ毛はない。盤台は厚い。基礎は方形の 1 石である。正面の阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字で彫る。阿形左面に造立年（明治 36 年）、吽形右面に寄進者名、裏面に石工銘を楷書体で彫る。本体・基礎とも猪谷石である。それより下は新補である。

40 は、顔が斜め前を向き、体軀をやや前横に傾ける。耳は左右に離れ垂れ耳である。目は丸く大きい。上顎の歯列は三角形状で均一である。下顎の歯列はない。口内の舌は山形である。前足はほぼ直立する。尾全体は小ぶりである。尾上半の峰は大きい。尾下部は左右 2 段に分かれる渦である。

盤台は厚い。基礎は2段の切石積である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隸書体で彫る。阿形左面に造立年（明治40年）、右面に石工銘を楷書体で彫る。基壇は加工割玉石積で高い。基礎以上はチタン鉄鉍系花崗岩、加工割玉石積基壇は神通川石である。

41は、顔がやや斜め前を向く。耳は左右に離れ、長い垂れ耳である。上顎の歯列は狭く、均一に縦線で区切る。下顎の歯列も同様で、下唇中央が山形である。舌はないか僅かな横方向の隆起である。前足はほぼ直立する。尾上部の峰は長く大きい。尾下部は左右3段に分かれ側面で渦となる。盤台下に中台を置く。基礎は切石一石である。正面には草書体で吽形「奉」・阿形「納」と彫る。阿形右面に「世話人」として「小台網中／引網中／手持網中」、同裏面に寄進者名と石工銘を草書体で彫る。吽形裏面に造立年（明治40年）、左面に「世話人」として「舂下■中／納屋持中／市場商人中」を草書体で彫る。基壇はコンクリートの新補である。本体・基礎とも藪田石である。

42は、顔が斜め前を向く。頭は大きく、体軀は筋骨隆々である。耳は頭頂寄り、短い横耳である。目は山なりである。上顎の歯列は三角形で均一である。下顎の歯列は20同様左右に4本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。口内の下は大きな山形である。下顎下面には10同様ギザギザの線刻がある。前足は前に出す。尾は大きく、峰は三つがまとまる。尾下部は2列3段の渦で、流れ毛はない。両側面にも二段の巻き毛がある。盤台は厚い。基礎は切石積2段である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隸書体で彫る。阿形左面に造立年（明治41年）、吽形の右側面に縦書き楷書体で「神明社／寄附」、裏面に石工銘を隸書体で彫る。ここまでの石材はチタン鉄鉍系花崗岩である。基礎下は加工割玉石積の基壇である。神通川石・安山岩等多種を用いる。

43は、顔が斜め前を向く。耳は頭頂に寄り、やや上を向く横耳である。楕円形の目尻は上がる。上顎の歯は三角形で少なく、2本の犬歯がある。下顎に歯列はない。舌は山形の大きな突起である。前足は前に出す。尾の峰は横に広い。尾下部の渦は後面に2列2段、左右に各1列2段である。盤台は厚い。盤台下に中台を置く。基礎は切石積3段である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隸書体で大きく彫る。阿形右面に造立年（明治41年）・寄進者名を縦書き楷書体で彫る。吽形左面に石工銘を隸書体で彫る。中断は板石、下段は板石を箱型に組む。ここまでの石材はチタン鉄鉍系花崗岩である。それより下は新補である。

46は顔が斜め前を向く。耳は頭頂に寄り、やや上を向く横耳である。楕円形の目尻は上がる。上顎の歯は三角形で少なく、2本の犬歯がある。下顎の歯列はない。口内の下は大きな山形である。前足は前に出す。尾の峰は横に広い。尾下部の渦は後面から側面にかけて2列2段ある。盤台は厚い。基礎は2段の切石積である。上段には正面に阿形「凱旋」・吽形「紀年」、阿形左面「奉」・吽形右面「納」と隸書体で彫る。阿形右面には縦に石工銘、上に横書きで造立年（明治41年）を楷書体で彫る。阿形吽形とも裏面に戦役者名多数を彫る。下段は板石を横置きする。ここまでの石材はチタン鉄鉍系花崗岩である。それより下は新補である。

50は、顔が斜め前を向く。耳は頭頂に寄り、やや上を向く横耳である。楕円形の目尻は上がる。上顎の歯列は三角形で少なく均一である。口内の下は大きな山形である。前足は前に出す。尾の峰は横に広い。尾下部の渦は後面から側面にかけて2列2段ある。盤台は厚い。盤台下に中台を置く。基礎は切石積3段である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隸書体で彫る。阿形裏面に造立年（明治42年）・石工銘を縦書き楷書体で彫る。中・下段は切石である。ここまでの石材はチタン鉄鉍系花崗岩である。それより下は切石積基壇である。

55は、顔が斜め前を向く。頭頂の横耳は後ろを向く。上顎の歯列は三角形で少なく、最奥歯がやや大きい。口内の下は大きな山形である。前足は前に出す。尾の峰は横に広い。尾下部の渦は2

段で、上段は側面にかけて巻き、下段は左右に流れて側面で巻く。基礎は3段の切石積である。上段は阿形畔形とも正面に「奉納」、裏面に「本郷下新村／氏子中」と横書き隷書体で彫る。畔形右面に造立年（明治44年）を縦書き隷書体、阿形右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。中段は板石、下段は板石を箱型に大きく組む。その下には二段の切石組基壇がある。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

56(図3)は小型品である。神社奥殿前に置く。本体の特徴は46に似るが、顔はやや上を向く。盤台はやや厚く、側面に刻銘を彫る。阿形正面に「奉」・畔形正面に「納」を隷書体で彫る。阿形通路面（左側面）に寄進者名、畔形右側面に造立年（明治44年）、阿形裏面に「富山市石工」、畔形裏面に「桑原亀太郎」と石工銘を分けて彫る。基礎はない。石材は緑色凝灰岩の笏谷石である<sup>(64)</sup>。

60は、顔がやや斜め前を向く。頭上部の耳は横耳で、頭頂面はほぼ一直線となる。口を大きく開ける。上顎の歯列は三角形状で、犬歯と最奥の歯が大きい。下顎の歯列は丸く小さく、奥歯は21同様輪郭を低く浮彫する。舌唇は前へ出す。口内の舌は円形で平たい。前足はやや細く、前へ出す。尾は大きく、尾の峰は太い。尾下部の渦は、裏面に2列2段、左右側面に3段の計10がある。盤台は厚い。基礎は2段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・畔形「納」を隷書体で彫る。阿形左面に造立年（大正3年）、畔形右面には寄進者名、同裏面左方に石工銘を楷書体で彫る。寄進者には「米国帰朝記念」の付記がある。下段は板石敷石を敷く。以上は八川石である。基礎下には加工割玉石積基壇がある。石材は神通川石である。

62は、顔がやや斜め前を向く。頭頂部の横耳は後ろ向きで耳先は上がる。目は細い。口を大きく開ける。上顎の歯列は三角形状で、大きく均一である。下顎の歯列は奥歯3本の輪郭を低く浮彫するのみである。舌は低い山形である。尾の峰は太い。尾下部の渦は、裏面に2列1段と、左右に流れて側面に2段の計6つがある。盤台下の基礎は2段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・畔形「納」を隷書体で彫る。阿形左面に造立年（大正4年）・右面に石工銘、畔形右面に寄進者「長附青年団」と楷書体で彫る。下段は板石2石を敷く。以上は八川石である。基礎下には神通川石の加工割玉石積基壇がある。

65は、顔がやや斜め前を向く。頭頂部の横耳は後ろ向きで耳先は上がる。鼻下の巻いた髭が強調される。口を大きく開ける。上顎の歯列は三角形状で少なく、最奥の歯がやや大きい。下顎は、中央に山形の舌があり、その左右に3本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。前足は太く前へ出し、爪は大きい。尾は流れ毛で、阿形では裏面中央で鍵手状に重なる。流れ毛の先端は左右の後ろ足側面に及びくねる。尾頂上は丸い。尾下部左右には毛汜文<sup>(65)</sup>の巻き毛がある。畔形の流れ毛は基本的に同様であるが構成が多少異なる。盤台は厚い。中台は3段で階段状に小さくなる。基礎は方台形で、断面丸形の節（または敷茄子）が上から3分の1と下とにある。上の方台部には阿形左面に「奉」・畔形右面に「納」を隷書体で彫る。阿形裏面に造立年（大正4年）、畔形裏面に「御大典記念」と横書き隷書体で彫る。上の節下で別石となる。下の方台部は、阿形裏面に寄進者名複数・石工銘、畔形裏面に寄進者名を縦書き楷書体で彫る。畔形左面に「魚津町／石工貫和捨次郎」と石工銘を彫る。下の節は別造りである。節上部は高さのある匙面である。基壇は板石2段組である。石材は、帯磁率により、本体がチタン鉄鉱系花崗岩、基礎以下が磁鉄鉱系花崗岩で早月川花崗岩である。このことから本狛犬は、本体を亀太郎、基礎・台座を捨次郎が分担して製作したと考えられる。捨次郎の石工銘が通路から見えない箇所にも別彫したこともそれを裏付ける。なお、捨次郎の工房は早月川花崗岩産地の早月川に近く、彼の主石材であった。

72の本体は65と同形態である。石材は八川石である。基礎は3段の切石積である。上段正面に

は阿形「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。阿形裏面に造立年（大正 5 年）・石工銘を縦書き楷書体で彫る。吽形右面に寄進者名を縦書き楷書体で彫る。中段は板石 2 石を横置きする。上面周囲は僅かに向くりとなる。下段は板石 1 石で上面周囲は向くり屋根状となる。基壇は切石積である。

74 は、72 と同形態である。基礎は 2 段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。阿形裏面に造立年（大正 5 年）・石工銘、吽形裏面に「青年会」を縦書き楷書体で彫る。下段は板石 1 石を横置きする。上面周囲は僅かに向くりとなる。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は安山岩等多種の加工割玉石積である。

75 は、72 の本体と同形態である。盤台下には中台がある。基礎は 2 段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。吽形裏面に造立年（大正 6 年）・寄進者名、阿形裏面に寄進者名・石工銘を縦書き隷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は新補品である。

76 は、72 と同形態である。基礎は 2 段の切石積である。基礎刻銘は、上段正面に阿形「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。吽形右面に造立年（大正 6 年）、同裏面に寄進者名、阿形裏面に寄進者名・石工銘を縦書き楷書体で彫る。下段は板石 1 石を横置きする。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は、上に切石を敷き、その下は高い切石積基壇である。基壇の石材歯安山岩である。

77 は、75 と同じ形態・基礎構造である。吽形右面に造立年（大正 6 年）、阿形右面に石工銘を楷書体で彫る。吽形裏面に寄進者名を彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は安山岩等多種の加工割玉石積である。

78 は、72 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形左面に造立年（大正 6 年）、阿形裏面に寄進者名複数、同右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は、安山岩板石の下に安山岩切石積がある。

87 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形左面に造立年（大正 7 年）・同裏面に「六十一歳／紀念」、阿形裏面に寄進者名・同右面に石工銘を楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は新補品である。

89 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形左面に造立年（大正 7 年）、阿形右面に石工銘を縦書き隷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は神通川石の加工割玉石積である。

91 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形左面に造立年（大正 7 年）・同裏面に寄進者名複数、阿形裏面に寄進者名複数を縦書き楷書体で彫る。阿形右面に石工銘を縦書き隷書体風楷書体で彫る。以上の石材は八川石である。下の基壇は新補品である。

95 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形左面に造立年（大正 8 年）、阿形右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。基礎 2 段目は板石 2 石である。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下に各辺を割玉石、内側を小玉石とする石積基壇がある。

96 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形裏面に造立年（大正 8 年）を縦書き隷書体、阿形右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は、安山岩板石敷の下に安山岩切石積がある。

106 は、75 と同じ形態・基礎構造・石材である。基礎刻銘は、阿形裏に「辰尾／青年団」、吽形裏に造立年（大正 9 年）、「北海道江別町」の寄進者名、同左面に石工銘を楷書体で彫る。下の基壇は新補品である。

109 は、75 と同じ形態・基礎構造である。基礎刻銘は、吽形裏面に造立年（大正 9 年）・寄進者名、阿形右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。下の基壇は、花崗岩板石の下に花崗岩切石積である。

110 は、75 と同じ形態・基礎構造である。一回り小さい中型品である。基礎刻銘は、吽形裏面に造立年（大正 9 年）、阿形裏面に寄進者名、同右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は花崗岩切石積である。

114 は、65 と同じ形態・基礎・基壇構造である。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は楷書体太字である。阿形裏面には銅製銘板を嵌め込む。銘板には造立年（大正 10 年）・「東京市有志」・寄進者名多数がある。吽形左面に石工銘を楷書体で彫る。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

116 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は楷書体太字である。阿形裏面に造立年（大正 11 年）・寄進者名を縦書き楷書体、吽形左面に石工銘を隷書体で彫る。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

117 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。吽形右面に造立年（大正 11 年）、阿形右面に石工銘を隷書体で彫る。石材は、本体猪谷石、中台・基礎はチタン鉄鉱系花崗岩、基壇は花崗岩である。

118 は、72 と同じ形態・基礎構造である。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。吽形裏面に造立年（大正 11 年）・寄進者名、阿形裏面に寄進者名・石工銘がある。刻銘は石工銘が楷書体、それ以外は隷書体である。以上の石材は猪谷石である。基壇は加工割玉石積で、新補か。

119 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。前足はやや細い。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。吽形裏面に造立年（大正 11 年）、阿形裏面に寄進者名、同右面に石工銘を隷書体で彫る。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

123 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。前足はやや細い。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。吽形裏面に寄進者名、阿形裏面に造立年（大正 11 年）・寄進者名、同右面に石工銘を隷書体で彫る。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

125 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。吽形裏面に造立年（大正 12 年）、阿形裏面に石工銘を縦書き隷書体で彫る。基礎以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩、基壇は安山岩である。

131 は、阿形は 75 と同形態で、吽形は頭上に角が付く。盤台下には中台がある。基礎は 2 段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。阿形は左面に「御成婚記念」、同裏面に寄進者名、同右面に石工銘を縦書き隷書体で彫る。吽形は左面に造立年（大正 13 年）、同裏面に寄進者名を縦書き隷書体で彫る。下段は板石 1 石で上面周囲は向くり屋根状となる。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は凝灰岩切石積で、上には凝灰岩板石を敷く。

147 は、75 と同じ形態・基礎・基壇構造である。体軀はやや細身である。吽形に角はない。基礎刻銘は、正面に阿形「奉」・吽形「納」は楷書体太字である。阿形は左面に「初老」、同裏面に複数寄進者名、同右面に石工銘を縦書き楷書体で彫る。吽形は右面に「記念」、左面に造立年（大正 15 年）、同裏面に複数寄進者名を縦書き楷書体で彫る。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。

158 は、顔が斜め前を向き、顔をやや上げる。頭は丸く、耳は左右に離れ垂れ耳である。目は楕円形で瞳孔がある。上顎の歯列は三角形状で、犬歯と一番奥の歯が大きい。下顎の歯列は 21 同様左右に 4 本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。口内の下は大きな山形である。前足はやや前に出す。尾

上半の峰は大きい。尾下部は左右3段に分かれる渦で、下に向けて渦は大きくなる。基礎は切石1石で、阿形左面に「奉」、吽形右面に「納」を隷書体で彫る。阿形右面・吽形左面に同じ寄進者名を縦書き隷書体で彫る。本体・基礎は猪谷石、下の加工割玉石積基壇は神通川石である。

以下は推定品である。

160は、顔が斜め前を向き、顔をやや上げる。耳は左右に離れ垂れ耳である。目は楕円形で瞳孔がある。上顎の歯列は、前歯が方形、左右は三角形状で、犬歯が尖り大きい。口内の下は山形で、下顎は左右に4本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。前足はほぼ直立する。尾裏面はほぼ垂直である。上部の峰は上3分に1とやや小さく、尾中下部は左右4段に分かれる渦である。基部は細い。本体の石材は猪谷石である。基礎は3段の切石積である。上段の刻銘は、阿形正面は「奉納」と横書き楷書体、左面は「船頭中」と縦書き楷書体、裏面は造立年（明治12年）、吽形正面は「奉納」と横書き楷書体、右面は「船中衆」、裏面は世話人複数を縦書き楷書体で彫る。中・下段は板石2石を敷く。石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。その下の基壇はコンクリートである。狛犬全体で最も古い。

163は、顔が斜め前を向く。頭は大きく、体躯は筋骨隆々である。耳は短い横耳である。上顎の歯列は三角形状で均一である。下顎の歯列は20同様左右に4本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。口内の下は大きな山形である。前足は前に出す。前足の裏面は未加工で平滑にしてある。尾は大きく、峰は三つがまとまる。尾下部は2列2段の渦で、流れ毛はない。両側面にも二段の巻き毛がある。盤台は厚い。基礎は切石1石である。阿形正面に「奉」・吽形「納」を隷書体で彫る。吽形の右側面（参道面）に造立年（明治38年）を横書き楷書体で彫る。基壇は切石1石である。側縁を1寸程度平滑に縁取り、平面を粗ハツリする「江戸切り」技法を用いる。本体・基礎の石材は早月川花崗岩、基壇の石材は安山岩である。

164は、顔がわずかに斜め前を向く。耳は左右に離れ、波打つ短い垂れ耳である。上顎の歯列は少なく、三角形で尖る。下顎の表現は、内側前面に薄い舌、その左右に4本ずつ歯の輪郭を低く浮彫する。前足はほぼ直立する。尾上部の峰は太く丸い。尾下部は4列2段の渦で、流れ毛はない。盤台はやや薄い。本体の石材は立山天狗山石である。基礎は2段の切石積である。上段の刻銘は阿形正面「奉」・吽形正面「納」は楷書体で彫る。吽形裏面に造立年（明治39年）・寄進者名を楷書体で彫る。下段は板石2石を敷く。基壇は、板石を敷いた下に板石を箱型に組む切石組である。基礎下段と基壇は八川石である。安山岩製狛犬のうち最も古い。

172は、顔が斜め前を向く。耳は波打つ横耳である。楕円形の目尻は上がる。上顎の歯列は三角形や丸形で少なく均一である。口内の下は大きな山形である。前足は前に出す。尾の峰は横に広い。尾下部の渦は後面から側面にかけて4列2段ある。基礎は2段の切石積である。上段正面の阿形「奉」・吽形「納」は隷書体で彫る。吽形左面に寄進者名、阿形右面に造立年（明治40年）を縦書き楷書体で彫る。下段は切石複数を敷くである。ここまでの石材は八川石である。基壇は最上段に神通川の割玉石を並べ、その下は安山岩等の玉石積であるが、崩れている。

175は小型品である。神社奥殿前に置く。本体の特徴は56に似る。盤台下に中台を置く。基礎は切石2段である。上段基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体である。阿形左面に造立年（明治42年）、吽形右面に寄進者名を縦書き楷書体で彫る。寄進者は富山市在住の菊地太平である。菊地太平は富山町石工である。下段基礎は上面がやや向くり状である。石材は緑色凝灰岩の笏谷石である。

176は、耳が左右に離れやや垂れ耳である。顔付きは推定品172に似るが、耳が異なる。尾は蝟

燭形で、尾下部は2段の立体感に乏しい渦である。このような渦は、42・43に類例がある。盤台はやや厚い。基礎は2段の切石積である。上段正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隸書体である。阿形左通路面に寄進者名、吽形右通路面に造立年（明治43年）を縦書き楷書体で彫る。石材は八川石である。

刻銘品では、明治41年以降はすべて横耳であり、本例はやや異質である。尾の渦も明治41年以前の形態であり、合せて考えると別石工の可能性も否定できない。

178は、175同様奥殿前に置く小型品である。本体高さ15寸幅11.5寸で、本体の特徴は171に似る。盤台はやや薄い。盤台の上四辺は面取りを行う。基礎は2段の切石で、一石で造る。上段基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隸書体である。阿形左面に造立年（明治45年）、吽形左面に寄進者名を縦書き楷書体で彫る。上下段とも四隅縦辺は面取りを行う。石材は笏谷石である。

179は、同年の60に似る。基礎は2段の切石積である。上段正面には阿形「奉」・吽形「納」を隸書体で彫る。阿形左面に造立年（大正3年）、吽形右面に「吉岡村／氏子中」と縦書き楷書体で彫る。石材は八川石である。基壇は新補である。

180は、明治40年（1907）の40・41に似る。尾下部は左右3段に分かれ、流れて左右で2つに渦巻く。1段は流れる。基礎は2段の切石積である。上段は板石2枚を縦に合せる。阿形吽形とも正面に「奉納」、裏面に造立年（大正4年）を横書き楷書体で彫る。下段は切石4石で組む。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は神通川石の加工割玉石積である。基礎の年代は、本体の形態的類似年代と8年程度異なる。本体は亀太郎作の確実性が高いこと、基礎形態・正面刻銘形態（文字・字体）が他と異なることからみて、造立時から8年後に基礎を作り直したと考えておく。

181は中型品である。頭上部の耳は横耳で、頭頂面はほぼ一直線となる60と似るが、製作はこれより6年遅い。尾は大きい。尾上部の峰は太く高い。尾下部は細く左右2段に分かれた渦である。盤台は厚い。基礎は切石1石である。基礎正面の阿形「奉」・吽形「納」は隸書体で彫る。造立年（大正9年）は阿形の基礎左側面（通路面）に彫る。その下はコンクリート基壇である。本体・基礎とも八川石製である。

182は中型品である。本体は同年の124と似るが、上顎の歯列は三角形で少なく、犬歯が大きい。その奥の歯はない。下顎は、中央に山形の舌があり、その前に6本の三角形の歯を浮彫する。尾下部の流れ毛は中央で明瞭に分かれず、入り混じる。阿形と吽形の渦巻は位置が異なる。基礎は2段の切石積である。上段基礎正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は楷書体である。阿形裏面に造立年（大正12年）を縦書き楷書体、その左に寄進者名を横書き楷書体で彫る。吽形裏面に寄進者名を彫る。下段は切石4石で組む。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は新補である。本体の細部の作りは当時の標準形態とやや異なっており、別石工の可能性も残る。

184は、182に似るが、下顎の歯はない。尾裏面は平らで、巻き毛は3段11個の渦巻を配置する。基礎は方形で、正面刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は楷書体である。阿形裏面に造立年（大正13年）、その左に寄進者名複数、吽形裏面に寄進者名複数縦書き楷書体で彫る。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は玉石積である。同年頃の尾部形態と異なっており、182同様別石工の可能性も残る。

187は、正面は76に似るが、尾は流れ毛で147に似た意匠である。最下部に側面渦巻1段がある。基礎は2段の切石積である。上段正面の刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隸書体太字である。阿形裏面に寄進者名、吽形裏面に造立年（大正14年）・「銀婚式記念」と縦書き隸書体で彫る。下段は板石2石を敷く。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は新補石である。

189 は、75 に似る。尾は上部流れ毛、下部 2 列 2 段の渦となる。基礎は 2 段の切石積である。上段正面の刻銘は、阿形「奉」・吽形「納」は隷書体太字である。阿形裏面に寄進者名、吽形裏面に造立年（昭和 3 年）を縦書き隷書体で彫る。下段は板石 2 石を敷く。以上の石材はチタン鉄鉱系花崗岩である。基壇は花崗岩切石積である。

197 は、175 同様神社奥殿前に置く小型品である。60 と全体様式が似ており、1914 年頃の製作と推定される。石材は安山岩と推定される。

なお、前に亀太郎と推定されていた<sup>(7)</sup> 富山市婦中町下饗田八幡社狛犬、富山市楡原八幡社狛犬は、上記特徴と異なることから亀太郎ではないとみられる。

#### (4) 鳥居

刻銘品 23 例（11.7%）がある（表 1-9）。

①種類 神社参道の入口に置かれるものが多い。神明形式と明神形式の二つがある。

神明鳥居は、円柱材により構成するもので、最上部の笠木は横一直線とし、柱は直立する。貫は柱の内側のみとする。

明神鳥居は、角材により笠木・島木の横木とし、両端に反りを付ける。柱は円柱で、斜め内側を向け内転びとする。貫は角材で、柱の外側に大きく突き出す。中央に額束を付けるものが多い。

神明鳥居は 7 例（30.4%）がある。

明神鳥居は 16 例（69.6%）がある。

明神鳥居が主体的といえる。

②年代 1913 年（大正 2）から 1931 年（昭和 6）の 19 年間にわたる。

③石材 全て花崗岩である。岩石帯磁率はすべて  $1 \times 10^{-3}$ SI 以下で、西日本産チタン鉄鉱系花崗岩のうち六甲御影石とみられる。

#### ④個別解説

57 の神明鳥居は、鳥居のうち最も古い。柱は斜め内側を向く内転びで、転びの角度は小さい。向かって左柱裏に造立年月、その下方に石工銘をともに隷書体で彫る。石工名は大きく彫り、「石匠」と表記する。根巻は亀腹であるが、後補品である。元の台石とはモルタルで接着する。

64 は明神鳥居のうち最も古い。笠木は左右 2 石で作る。中央接合部の継手は段継ぎである。笠木と柱の間には台輪を置く。貫上の楔は柱内側のみである。扁額は無い。向かって右柱の下方裏右に石工銘を楷書体で彫る。根巻は亀腹で、2 石を組み合わせる。台石は上面に円形受座を削り出す。

66 は 64 と類似構造である。相違点は、笠木両端の反りが大きい、貫上の楔は柱の両側にある、の 2 点である。扁額の額縁は花頭文様である。

69 の神明鳥居は、柱の内転びの角度は 57 より小さい。左柱裏内側下方に石工銘を楷書体で彫る。根巻は方形の安山岩自然石を使用する。

73 は、66 と同構造である。扁額の額縁は変形花頭文様<sup>(66)</sup> である。右柱上部裏に「奉納」、左柱裏上半に造立年月を隷書体で彫る。石工銘は左柱裏下方内側に楷書体で彫る。根巻は埋もれているが亀腹とみられる。

79 は、66 と似る。根巻・台石は土に埋もれ状況は不明である。扁額の額縁は花頭文様である。Y やや小型の鳥居である。中央天端で高さ 3.15m である。

88 の明神鳥居は、65 と同構造である。扁額の額縁は花頭文様である。石工銘は右柱裏下方に楷書体で彫る。その上の造立年は隷書体で深く彫る。台石形状は不明。

90 は、69 同構造で、柱上部裏に「奉納」を一字ずつ隷書体で彫る。左柱裏の造立年月は隷書体

で彫る。石工銘は右柱裏下方に隷書体で彫る。根巻以下は埋まる。

97 は、66 と同構造である。扁額は無い。右柱裏に造立年・寄進者を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏外側下方に楷書体で彫る。根巻は亀腹で2石を組み合わせる。台石は方形である。

101 は、66 と同構造だが、笠木両端の反りは63と同程度で小さい。扁額の額縁は変形花頭文様である。左柱裏に造立年、右柱裏に寄進者を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏下方に楷書体太字で彫る。

102 は101と同構造である。扁額の額縁は細かい花頭文様である。右柱裏に造立年を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏下方に楷書体で彫る。

103 は101と同構造である。扁額の額縁は花頭文様である。右柱裏に造立年・「氏子中」と隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏下方に楷書体で彫る。

112 は66と同構造である。扁額の額縁は変形花頭文様である。右柱裏上に隷書体で造立年、その下方に寄進者を楷書体で太字で彫る。石工銘は右柱裏内側下方に楷書体で彫る。寄付者は「本村出身北海道寄付者」である。

126 は66と同構造で、中型品である。扁額の額縁は花頭文様である。左柱裏に造立年、右柱裏に寄進者を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏下方に隷書体で大きく彫る。

132 は66と同構造である。扁額は銅製で、額縁は細かい花頭文様である。右柱裏に「御成婚記念<sup>(67)</sup>」、左柱裏に造立年を大きく隷書体で彫る。石工銘は右柱裏下方に隷書体で彫る。亀腹の根巻は左右とも2:1:1に三分割しているが、これは何らかの原因で割れたためである。

133 は69と同構造である。左柱裏に「大正十三年行幸記念<sup>(68)</sup>」、右柱裏に「氏子中」と大きく隷書体で彫る。石工銘は左柱裏下方に隷書体で彫る。根巻は亀腹で、1石で作る。安山岩である。

134 は69と同構造であるが笠木は長い。左柱裏に造立年、右柱裏に寄進者を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏外側下方に隷書体で大きく彫る。根巻・台座はコンクリートに埋まり不明である。

140 は134と同構造で、刻銘も同様である。石工銘は128より小さい。

141 は66と同構造である。扁額の額縁は細かい変形花頭文様である。左柱裏に造立年、右柱裏に寄進者名を隷書体で大きく彫る。石工銘は左柱裏外側下方に隷書体で彫る。根巻は亀腹で1石で作る。台石は埋まっており不明である。

143 は66と同構造である。扁額は無い。左柱裏に造立年、右柱裏に「氏子一同建之」と大きく隷書体で彫る。石工銘は右柱裏下方に隷書体で彫る。根巻は亀腹で1石で作る。台石は埋まっており不明である。

144 は66と同構造である。笠木両端の反りは特に大きい。扁額は無い。左柱裏に造立年、右柱裏に寄進者名を隷書体で大きく彫る。石工銘は右柱裏下方に隷書体で彫る。石工銘は「石匠」と表記する。根巻は亀腹で2石で作る。台石は埋まっており不明である。

153 は134と同構造である。左柱外側に造立年、右柱外側に寄進者名を隷書体で彫る。石工銘は右柱外側下方に「石工桑原亀山」と隷書体で彫る。

155 は66と同構造である。扁額の額縁は変形花頭文様である。左柱裏上半に造立年、右柱裏下部に寄進者名、その下に石工銘を隷書体で大きく彫る。石工銘は「富山石匠 桑原亀山」で、「亀」は象形文字様、「山」は篆書体風である。根巻は亀腹で1石で作る。柱台座部分の周囲に溝を巡らせる。

#### (5) 社標

15例(7.6%)がある。このうち刻銘品は14例、推定品は1例である(表1-10)。

①種類 石や自然石を利用する自然石型 1 例と、断面四角形の方柱型 14 例があり、方柱型が主体である。

自然石型は、半割した割面を碑面とする半割石である。正面碑面に社格・社名を彫る。

方柱型は、正面に社格・社名を彫る。残る三面に造立年・奉納者名・石工名等を彫る。頂部は四角錐形に尖らせる。頂部角は 130° から 155° に分布し、平均 141.5° である。基礎は、頂部に四角形のホゾ穴を彫り社標本体を差し込む。箱形と自然石を用いる自然石形があり、前者が多い。箱形の基礎には一段のものと同段のものがあり、後者が多い。

自然石型は極少で、基本的には方柱型が定型的である。いずれも県内産早月川花崗岩は用いず、搬入材である六甲御影石で製作する。

形態は、1920 年（大正 9）頃を境に、頂部角が大きくなる、すなわち低くなる傾向にある。

②年代 刻銘品は、1897 年（明治 30）から 1928 年（昭和 3）の 32 年間にわたる。自然石型が最も古い。方柱型は、1908 年（明治 41）に出現し、以後継続する。

③石材 自然石型は、安山岩玉石である。

方柱型はすべて花崗岩である。帯磁率はすべて  $2 \times 10^{-3}$ SI 以下のチタン鉄鉱系花崗岩で、六甲御影石とみられる。

方柱型の基礎は箱形で、本体と同じ花崗岩を用いる。自然石形は安山岩自然石を用いる。

#### ④個別解説

20 は、唯一の自然石社標である。安山岩玉石の半割石型である。碑面は割面で、中央に隷書体で社名を彫る。揮毫は前田利同<sup>(18)</sup>である。石工銘は、左側面自然面に楷書体で彫る。台座は礫岩の自然石である。社標のうち最も古い。

45 は、上部が折損し、頂部形態は不明である。正面に隷書体で社名を彫る。揮毫は水上滉である。右面には造立年と「東廓中」、左面に発起人、下部右に「水上滉謹書」、左に石工銘を楷書で彫る。基礎は箱形である。方柱型のうち最も古い。

49 は、頂部が四角錐である。頂部角は 138° である。正面は、上部に 2 文字の陽刻「■社」とあったが削り取られている。その下には社名を行書体で彫る。揮毫は富山県知事宇佐美勝夫<sup>(69)</sup>である。左面に造立年・揮毫者、裏面に寄進者、その下に石工銘を隷書体で彫る。石工名末尾に「刻」を加えている。基礎は 2 段である。

81 は、四角錐の頂部角が 130° で、方柱型のうち最も頂部が高い。社名は隷書体である。石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。基礎は 2 段である。上段の上面はやや盛り上がる。

86 は、四角錐の頂部角が 140° である。社名は楷書体で、石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。基礎は安山岩玉石で、上面に方形ホゾ穴を穿ち、本体を差し込む。

92 は、四角錐の頂部角が 135° である。社名は楷書体で、石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。基礎は花崗岩玉石である。

99 は、四角錐の頂部角が 140° である。社名は楷書体で、石工銘は左側面下部に楷書体で彫る。寄進者は北海道小樽区住人で、滑川市出身者と推定される。基礎は箱形で、高さが高い。

108 は、四角錐の頂部角が 140° である。「村社」は篆書体、社名は隷書体である。左面下部に石工銘を隷書体で彫る。基礎は箱形で、上面はわずかに盛り上がる。

111 は、四角錐の頂部角が 145° である。「村社」は隷書体陽刻、社名は篆書体陰刻である。右面下部に石工銘を隷書体で彫る。基礎は二段で、上段は箱形、下段は新調されたものである。

113 は、四角錐の頂部角が 155° で、方柱型のうち最も頂部が低い。「指定／村社」は篆書体陽

刻、社名は隸書体陰刻である。裏面下部に石工銘を楷書体で彫る。基礎は安山岩自然石である。

120 は、四角錐の頂部角が 140° である。社名は草書体で陰刻する。左面下部に石工銘を隸書体で彫る。基礎は箱形で、上面はわずかに盛り上がる。

139 は、四角錐の頂部角が 150° である。社名は楷書体陰刻である。左面下部に石工銘を楷書体で彫る。基礎は箱形で、上面はわずかに盛り上がる。下はコンクリート段状整形を加える。

145 は、四角錐の頂部角が 140° である。「村社」は篆書体陽刻だが削り取っている（写真右）。社名は行書体陰刻である。裏面下部に石工銘を隸書体で彫る。石工は「石匠」と表記する。基礎は箱形で、上面はわずかに盛り上がり、隅棟には稜がある。



145 陽刻削平部分

151 は、四角錐の頂部角が 145° である。社名は楷書体陰刻で、「村社」は太字である。裏面左下部に石工銘を楷書体で彫る。石工は「工匠」と表記し、富山市は付けない。基礎は箱形で、上面はわずかに盛り上がる。下はコンクリートで固める。

183 は推定品である。同年同所狛犬が亀太郎作と推定されることから、本例も亀太郎作と推定した。社名は楷書体で陰刻する。基礎は箱形である。

#### (6) 手水鉢

神社参道の手水舎に置かれた手水鉢（水盤）である。

15 例（7.6%）がある。このうち刻銘品は 7 例、推定品は 8 例である（表 1-11）。

①種類 自然石型と箱型がある。

自然石型は、自然石・玉石の上面に円形・楕円形の水鉢を穿つもの 3 例、自然の窪みを水鉢とするもの 1 例がある。

箱型は 10 例があり、主流である。横長の逆台形で、上面に隅丸方形の浅い水鉢を設ける。排水溝は、水鉢底中央から真下に貫通するもの 7 例、奥側面に貫通するもの 2 例、ないもの 1 例がある。正面側面に「奉納」「清洗」「清心」「清浄」「済浄」の文字を大きく陽刻・陰刻する。字体は多様である。基部はすぼまる。下に棒状切石 2 石を離して台石とし、その下に切石を敷くもの、獅子頭を四隅に置くものがある。

②年代 刻銘品は、1915 年（大正 4）から 1928 年（昭和 3）の 14 年間にわたる。推定品を加えると 1875 年（明治 8）から 54 年にわたる。

③石材 花崗岩・安山岩・砂岩・赤玉石がある。花崗岩が最も多く、10 例の帯磁率はすべて  $1 \times 10^{-3} \text{SI}$  以下で、西日本産チタン鉄鉱系花崗岩のうち六甲御影石とみられる。安山岩は 3 例で、常願寺川産八川石である。砂岩は 1 例で、神通川産猪谷石である。赤玉石の産地は不明である。

#### ④個別解説

67（図 4）は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する排水孔がある。正面は方形の額を彫り「清洗」と行書体太字で陽刻する。額内はハツリ痕を残す。下端は花頭状に彫る。稜の面取りは丸面である。右面に造立年（大正 4 年）・「朝鮮全羅北道」・寄進者名を隸書体で彫る。寄進者は 1910 年日韓併合条約締結以後渡韓した人物とみられる。石工銘は左側面奥寄りに隸書体で彫る。下内側に長方体枕石 2 本を台石として横置きする。

68（図 4）は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する排水孔がある。側面は直立に近い。正面に 2 段に「御大典記念／奉納」と隸書体で陰刻する。下端は花頭状に彫る。稜の面取り

は角面取りである。右面中央に造立年(大正4年)、後背面に寄進者名(個人名・船主名)、左面奥寄りに石工銘を楷書体で彫る。下両端に長方体切石2本を台石として横置きする。

93は、凹凸の顕著な八川石自然石を利用する。水鉢部分は中央の大きな窪みを利用するが、底の加工の程度については不明である。正面には縦に行書体で大きく「清心」、後背面は右に縦書きで造立年(大正7年)、その左に「下吉川在郷軍人」の横書きの下に寄進者複数の個人名、その下に石工銘を楷書体で彫る。

121(図4)は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央から奥側に溝を彫り、奥側面上部に貫通する排水孔がある。正面は「清心」と横書き行書体太字で陽刻する。下端は水平である。稜の面取りは角面で、水鉢縁も行う。右面に縦書き隷書体で造立年(大正11年)・寄進者名複数、左面に世話人複数と末尾に石工銘を彫る。下両端に長方体枕石2本を台石として横置きする。

135(図4)は箱型で、隅丸方形の水鉢には排水孔はない。正面は「清心」と横書き行書体太字で陽刻する。下端は水平である。稜の面取りは上面外縁のみ角面取りする。左面に寄進者名複数と末尾に造立年(大正13年)、右面奥側に石工銘を隷書体で彫る。下内側に長方体枕石2本を台石として横置きする。側面等の鉄錆が顕著であるが、地下水使用による付着とみられる。

142(図4)は箱型で中型品である。隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する排水孔がある。このほか底奥側に斜めの小孔があり、貫通しているか不明であるが、排水孔の可能性はある。後者は当初のものか。正面は「奉納」と横書き隷書体太字で陰刻する。下端は花頭状に彫る。稜の面取りは上面外縁は角面、縦四辺は丸面、水鉢縁はしゃくり面取りである。後背面に造立年(大正14年)・寄進者名複数・石工銘を縦書き楷書体で彫る。

152(図4)は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する小径の排水孔がある。正面は「奉納」と横書き隷書体太字で陰刻する。下端は大きく花頭状に彫る。稜の面取りは上面外縁のみ角面取りである。後背面に右から造立年(昭和3年)・「御大典記念」・「氏子一同」・石工銘を縦書き隷書体で彫る。下内側に長方体切石2本を台石として横置きする。正面の「奉納」の文字は142と相似形である。

以下は推定品である。

159(図4)は箱型で小型品である。製作年代は明治8年で、手水鉢のうち最も古い。側面は直立に近い。上面には楕円形の水鉢がある。小石で埋められ排水口の存在は不明である。正面に楷書体で「奉納」と彫る。後背面に奉納年月を楷書体で2行に彫る。文字間の排水穴は近年の新補作業である。下端は二段の花頭形に彫る。本体下の両端には長方体の枕石を2石置く。同所にある4年後の狛犬160(推定品)の基礎に彫った「奉納」の文字と相似形である。この手水鉢の前には上端隅角を丸めた板石が立つ。枕石の下に敷く板石を再加工したものか。

174(図4)は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に真下に貫通する小径の排水孔がある。左上面に断面半円形の排水溝がある。正面は「奉納」と横書き隷書体太字で陰刻する。142・152と字体が少し異なるが同一人物の筆跡である。下端は大きく二段に花頭状に彫る。稜の面取りは角面である。後背面に造立年(明治42年)・寄進者個人名を縦書き楷書体で彫る。下には板石を横置きする。

185は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する小径の排水孔がある。正面は「奉納」と横書き隷書体太字で陰刻する。「奉」は異体字である。下端は小幅の箱状に彫る。稜の面取りは丸面である。後背面に造立年(大正13年)・寄進者名複数を楷書体で彫る。風化が著しい。文字・下端形状が他と異なり、別石工の可能性を残す。

186は凹凸の顕著な八川石自然石を利用する。水鉢は円形に深く彫る。正面には隷書体横書きで

「奉納」と彫る。「納」の書体は142・174と異なる。後背面に「日清日露帝勲者」名多数・造立年（大正13年）を彫る。同所に置かれた縦板型石碑128（刻銘品）は戦没者忠魂碑で、本例はそれに付属するものとみられる。

188は大熊山花崗閃緑岩玉石を利用し、水鉢は円形に深く彫る。正面に「奉納／初老記念」と横書き隷書体で彫り、左方に造立年（大正15年）・寄進者名を縦書きする。「奉納」の字体は174に似る。

194は猪谷石玉石を利用し、水鉢は隅丸方形に深く彫る。正面は額を彫り「奉納」と横書き隷書体太字で彫る。「奉納」の字体は174に似る。年代不明。

195は安山岩玉石利用し、水鉢は楕円形に彫る。水鉢の底中央に、真下に貫通する小径の排水孔がある。後付けの可能性はある。正面には横書き楷書体で「奉納」とある。年代不明。

196(図4)は箱型で、隅丸方形の水鉢の底中央に、真下に貫通する小径の排水孔がある。また水鉢底奥壁寄りの中央右に、側壁に貫通する排水穴がある。いずれかが後に穿たれた穴とみられる。正面は額を彫り、中に「済浄」と横書き隷書体丸太文字で陽刻する。稜の面取りは角面で、水鉢縁は匙面である。下面四隅には獅子頭に加工した台石4基を置く。台石は花崗岩製。年代不明。

#### (7) 燈籠

神社参道に置かれた燈籠である。参道の左右に2基一対で置く。本稿では2基を1例と数える。

5例(2.5%)がある。このうち刻銘品は3例、推定品は2例である(表1-12)。

①種類 笠の平面形が多角形となり脚が付く、いわゆる雪見燈籠と、部材の平面形が四角形となる四角型燈籠とがある。後者は竿が撥型となる、いわゆる神前形である。後者が多い。

②年代 刻銘品は、1905年(明治38)から1920年(大正9)の16年間にわたる。推定品を加えると1927年(昭和2)まで23年にわたる。

③石材 推定品も含め、花崗岩が主体である。帯磁率はすべて $2 \times 10^{-3}$ SI以下のチタン鉄鉱系で、西日本産である。

安山岩は推定品のうち明治期の2基である。常願寺川産とみられる。

#### ④個別解説

31(図5)は、笠の平面形が八角形となる雪見燈籠である。宝珠・笠・火袋・中台・脚・台座からなる。笠上面には扁平な宝珠があり、頂部は棒状に突出する。笠はやや向くり状である。火袋は隅角が丸い正方体で、側面に隅丸方形二段の火口を設ける。内部は一段高い。火袋天井は削り貫く。中台平面は六角形で、上の受座は1段である。側面の1面に「奉納」と楷書で彫る。中台下半は皿状である。脚は上部がすぼまる四角柱形で、対する二面が平面、残る二面が中空となる二脚である。中空部分は花頭状に二段に彫る。正面上部に「常燈明」と彫る。平面側右面には、造立年・寄進者名、左面奥に石工銘を楷書体で彫る。脚の下には二段の切石組台座がある。

63(図5)の神明形は、宝珠・笠・火袋・中台・竿・基礎からなる。宝珠は先端が棒状に突出する。宝珠下の請花にあたる部分には輪状の突起が廻る。その下は伏鉢で、笠上面の伏鉢台座は円形である。笠は向くり屋根で、降棟の下半勾配は急激に小さくなる。軒は辺の中央部分が低く、両端に向けて反り上がる。軒端面は内傾し、軒両端出隅部分で60度である。軒反りはない。火袋火口は方形二段に彫る。天井部は削り貫かず残す。中台は側面下部四隅が下に小さく突出する。下半部は皿状である。竿は上下端に薄い方形皿状の受座が付く。上部1/3で最も括れる。基部の開きは大きい。竿の正面には「献燈」と楷書体旧字で彫る。向かって左燈の竿裏面に造立年月、右燈の竿裏面に石工銘を楷書で彫る。基礎の上半は向くり形で、四隅は小さく上に突出する。この突出は中台

四隅の突出に対応している。基壇は切石組1段で、その下に切石積基壇がある。

105 (図5) の神明形は、宝珠の先端が大きく尖る。請花に当たる部分は無文皿状である。その下に算盤形の伏鉢がある。笠上面の伏鉢台座は方形で厚い。笠の特徴は63と似る。また下面に火袋受部を方形に彫り込む。火袋火口は内側四隅を残し、天井部を刳り貫かず残す。竿の正面には「献燈」と隷書体で彫る。上部1/3で最も括れる。基礎上部の向くり部の高さは63より高い。四隅上部は小さく上に突出する。石工銘は向かって右燈の基礎側面に楷書体で彫る。基壇は3段の切石組である。

161 (図5) は神明形の推定品である。宝珠の先端は大きく尖る。宝珠下には短い欠首がある。その下に方形の伏鉢、露盤となる。露盤の高さは高い。笠の軒は両端に向けて反りが63・104より緩やかである。その他の笠の特徴や、火袋・中台・竿・基礎の特徴は63・105と似る。竿正面の「献燈」は楷書体で彫る。基壇は3段の切石組である。その下にはコンクリート基礎がある。

177 (図5) は神明形の推定品である。宝珠の先端は大きく尖る。宝珠と請花は別造りである。請花の主弁は4葉で、2段の円弧による花頭状である。主弁間に三角形の間弁がある。主弁・間弁とも端部に幅広の縁取りがある。主弁の内側は細かいハツリ痕を残す。笠・中台・竿・基礎の特徴は63・105と似る。火袋の隅角は丸く、火口内部は隅角を残す。竿正面の「献燈」は隷書体で彫る。文字は105と少し異なる。基礎正面には額を二段に彫り、「海外渡航記念」と篆書体丸文字で陽刻する。基壇は4段の切石組である。全高は最も高く、353.9 cmである。

## (8) 墓石

4例(2.0%)がある(表1-13)。

①種類 縦板型・無縫塔型・舟形石仏型・突頂方柱型が各1例ずつある。

縦板型は、石碑の縦板型と同型式である。

無縫塔型は、中世以来の僧籍者墓石の典型的な型式である。

舟形石仏型は、個人墓である。突頂方柱型<sup>(70)</sup>は、家族墓である。

②年代 1913年(大正2)から1918年(大正7)の6年間にわたる。

③石材 縦板型は粘板岩で、稲井石である。

無縫塔型は花崗岩で、帯磁率は $1 \times 10^{-3}$ SI以下の西日本産チタン鉄鉱系花崗岩とみられる。

舟形石仏型は、本体猪谷石、台座西日本産チタン鉄鉱系花崗岩と別々の石材である。

突頂方柱型は、中粒～粗粒のチタン鉄鉱系花崗岩である。

## ④個別解説

58は縦長の板状墓石で、頂部は不整形な山形である。正面のみ平滑にし、中央に俗名<sup>(71)</sup>、右に忌日、左に造立者を揮毫者筆跡で彫る。石工銘は右側面下部に楷書体で彫る。墓石前には、幅4寸奥行4寸高10.5寸の方形花立がある。上部を浅く彫り込み、中央に円柱形の穴がある。明灰色の粗粒花崗岩で、チタン鉄鉱系花崗岩である。

61は家族墓所で、幅4.06m奥行4.18mの広さがある。三段の切石積基壇の上に外柵・墓石・花立・燈籠一対がある。入口階段は新調されている。入口には太い尖頂方柱形の門柱2本があり、かつては鉄製扉があったが欠失している。両開きの内開門扉の車輪溝が敷石上面に彫られている。外縁には8本の尖頂方柱形の柱が巡り、柱間には家紋を浮彫した羽目板石を組入れて外柵としている。墓石の墓標は突頂方柱型である。正面に「宮本家累世墓」、右側面に造立年(大正3年)、左側面に造立者名を彫る。墓標下には蓮台・饅頭形(敷茄子)・正面に家紋を浮彫した基礎・かろうとがある。蓮台の請花は単弁8葉で、上下二段計16葉で、立体的である。基礎左面奥側に石工銘を隷

書体で彫る。墓石前には花立を置く。正面中央に額を彫り中に家紋を浮彫する。中央上面には弁脈のある蓮弁を施した小水鉢を置き、左右には穴のある花立部とする。小水鉢は一体造りである。燈籠は尖頂方柱形で、上部に長方形火口を4面に設ける。入口門柱の後方外側に置く。石材はすべて中粒～粗粒花崗岩で、黄色のカリ長石を含み、一部サビ色が顕著である。岐阜県産花崗岩か。

71は、浄土真宗浄蓮寺<sup>(72)</sup>の住職墓である。墓標は無縫塔型である。頂部の突起は小さい。正面に「俱会楽」<sup>(73)</sup>、右に「中興第二十二世釈祐海法師／子孫累葉墓」、左に大正7年の造立年がある。高さ4尺。下に蓮台・饅頭形(敷茄子)があり、一体で造る。蓮台は主弁8葉間弁8葉の計16葉で、主弁・間弁ともに8本の弁脈があり半立体的である。饅頭形は円盤形で無文である。その下に反花と方形基礎があり、一体で造る。反花は蓮台の請花と同形態である。基礎正面には波濤文を浮彫する。中央に大きな波、両側に波頭を描く。基礎下には切石を二段に敷く。基礎右側面正面側に石工銘を隷書体で彫る。その下には2段の基壇がある。上段は切石組基壇で、外面を反った板石と隅石を組み合わせて台形に組む。外面には亀甲形に筋彫りし、表面を研って亀甲積石垣に見えるようにしている。その下は割玉石積基壇で、神通川産神通川石の玉石を半割加工して1尺9寸の高さに積む。切石組基壇より上はすべて花崗岩で、石工銘のある基礎は、細粒～中粒でサビ色が顕著なチタン鉄鉱系花崗岩である。61同様岐阜県産花崗岩か。

94は、舟形石仏型の個人墓石である。本体・蓮台・饅頭形・基礎・台座からなる。本尊は十八臂の千手観音菩薩坐像である。胸腹前は六臂で、上は左右に未開敷蓮華を持つ。中は合掌、下は両手で薬壺を持つ。光背左手の持物は、上から日輪・梵篋・澡瓶・払子・縹索である。光背右手の持物は、上から宝輪・宝剣・鉞斧・金剛杵・蒲桃(葡萄)か・数珠である<sup>(74)</sup>。円形の掛仏を付けた宝冠を被り、微笑する。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。光背の頂部は三角に尖り、わずかに前傾する。光背上半の余白が大きい。蓮台の請花は、元来主弁8葉・間弁8葉の計16葉の企画であるが、後ろ側の主弁3葉分は省略している。主弁・間弁とも6本の弁脈があり、半立体的である。饅頭形・基礎葉一体で造る。饅頭形は円盤形で無文である。基礎は方形で、上部は向くり形である。正面に院号戒名・忌日を三列で隷書体で彫る。右側面に楷書体で造立年(大正5年)、右側面に隷書体で造立者名を彫る。石工銘は右側面正面寄りに楷書体で彫る。台座は切石横置きである。墓石前には水鉢・花立が一体となった花崗岩製花立が置かれるが、当初のものか不明。

## (9) 石仏

5例(2.0%)がある。刻銘品1例、推定品4例がある(表1-14)。

①種類 刻銘品は笠付円盤形1例である。推定品には、丸彫石仏形2例、舟形2例がある。

②年代 刻銘品は1897年である。推定品を加えると1908年まで12年にわたる。

③石材 刻銘品である笠付円盤形は猪谷石である。推定品は猪谷石・八川石である。

### ④個別解説

18は笠付円盤形で、唯一の刻銘品である。新調された石造堂内にあり、元来あった自然石笠石は欠失している。本体は、円盤形の本体を一段彫りくぼめ、中央に蓮華座に載った聖観音菩薩坐像を浮彫する。主尊の宝冠は唐草を配し、複数の髻を結う。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。右手は施無畏印、左手は開敷蓮華を持ち、右足を左膝に乗せ半跏趺坐する。蓮華座の蓮弁は、主弁3葉・間弁2葉の計5葉で、6本の弁脈を彫り半立体的である。蓮華座の下には祥雲文を一行に彫る。円盤縁帯は無文<sup>(75)</sup>である。円盤本体の上部左右と下の基礎には祥雲文浮彫を配する。本体は全て最近着色されている。台座は長方体で、正面右に造立年(明治30年)、世話人名、正面左に石工銘を楷書体で彫る。石工は亀太郎と安川勇輔の共作である。共作品は本例が唯一

である。正面刻銘は元来裏面であった可能性がある。台座は本体と同じ猪谷石である。

以下は推定品である。

173 は舟形で、円柱笠付の石造祠堂内に置かれる。主尊は合掌姿の地藏菩薩立像である。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。蓮台は主弁 2 葉で平面的である。光背右に造立年（明治 41 年）を楷書体で彫る。石材は八川石である。

191 は丸彫で、左足を下げて右足を乗せた半跏像の地藏菩薩である。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。錫杖は鉄製の模造品である。顔は大きい。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。両足は蓮華座に乗る。全体は磐座に乗る。本体下には方形の蓮台がある。主弁 8 葉間弁 8 葉の計 16 葉で、主弁は二段である。蓮台は原形か不明である。石材は八川石。造立年代は不明。

192 は舟形で、主尊は合掌姿の地藏菩薩立像である。顔・耳は体軀に比して大きい。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。円光は大きい。石材は八川石である。造立年代は不明。

193 は丸彫で、左足を下げて右足を乗せた半跏像の地藏菩薩である。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。錫杖は鉄製の模造品で欠失する。大きな後光が付く。顔は大きい。鼻は直線的で細長く低い。口は小さく顎は丸く膨らむ。両足は蓮華座に乗る。蓮弁は弁脈 4 本があり、半立体的である。全体は磐座に乗る。本体は猪谷石である。本体下には方形台座があるが詳細は不明。

#### (10) 花立

別造りの花立で刻銘のあるものを取り上げた。石碑や墓石に奉献された小品も多くあるが、各項において触れた。1 例がある（表 1-15）。

16（図 5）は、石碑 15 の前に奉献されたもので、六角柱形である。幅 8 寸高さ 20.5 寸である。上面を丸面とし、中央を径 6 寸に丸く彫りくぼめ、底に径 1.1 寸の穴を穿つ。上面から穴底までは 5 寸である。側面三面には縦書き楷書体の陰刻がある。元来の左面が正面となっている。旧正面には「献花」、旧右面には造立年（明治 29 年）、旧左面には「寄附人 石亀」と彫る。石材は安山岩。本体下には厚さ 0.5 寸で少し大きい板石を置く。その下の台座は、亀腹形の上面に六角形の本体受座を浮彫する。全形は埋まっており不明。石材は猪谷石である。

#### (11) 竿立

神社拝殿の両脇に置かれる方台形の竿立である。このような竿立は富山県西部の神社石造物に多く見られる様式である。1 例がある（表 1-15）。

190 は、拝殿の軒下に置かれる。上面に円形の穴を彫り、中央をさらに深く彫る。深さ不明。正面に隷書体太字で、右が「奉」左が「納」と彫る。一対で「奉納」となる。字形は同年の手水鉢 152 と相似形である。右側の右面に造立年（昭和 3 年）／「御大典記念」と隷書体で彫る。正面下端は、手水鉢 185 同様小幅の箱状に彫る。中～粗粒のチタン鉄鉱系花崗岩である。同地神社にはこの 6 年前に在銘狛犬 123 が奉納されている。

### IV 考察

#### (1) 製作数・種類・年代の動向

明治から昭和前期に刻銘が見える富山市石工のうち、製作数が最も多いのは桑原亀太郎である。石造物種類は、神社石造物（鳥居・社標・狛犬・燈籠・手水鉢・竿立）が 6 割弱を占め主体である。そのほかは記念碑・慰霊碑としての石碑が多い。

製作数が多数にのぼる富山市石工には、亀太郎のほかに田中伸太郎・村木孝之がいる。田中伸太郎は、明治 35 年から昭和 14 年まで 57 例がある。推定品も含めると 66 例となる。種類は神社石造

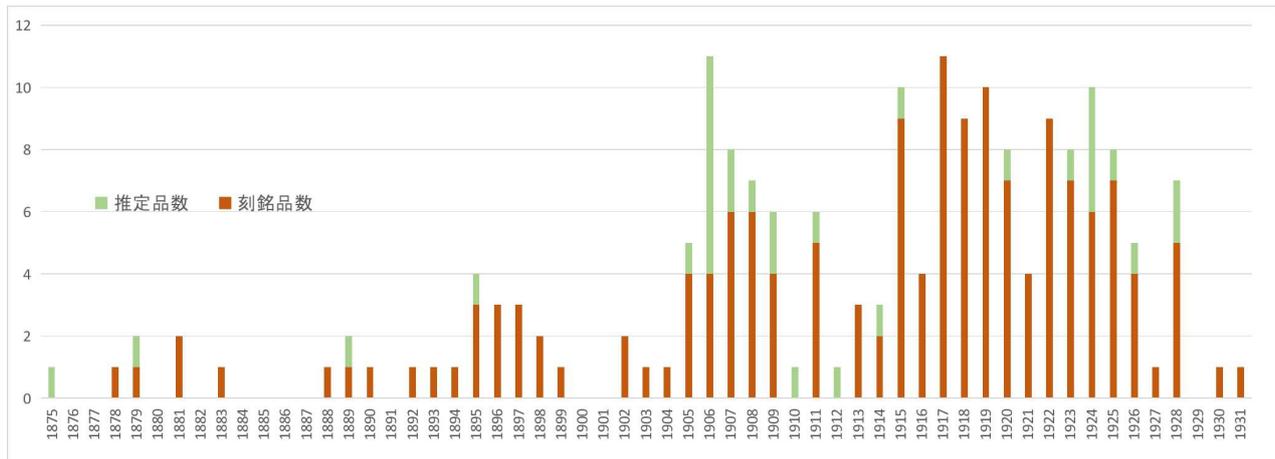


図7 石造物製作数の推移

物に限られる。村木孝之は、大正3年から昭和5年まで53例の神社石造物を製作した。推定品も含めると60例となる。亀太郎は刻銘品のみでも158例があり、格段に多いといえる。

製作数は、初期においては少なく、無い年も多い。1900年から1905年は少ない。1905年以降増えるが1910・12年には一時的に激減する。その後は年4～10例程度が継続する。減となる期間は戦時と重なるところが多く、その社会的影響かもしれない(図7)。晩年は少ない。

### (2) 神社石造物の組み合わせ (表2)

神社石造物とは、鳥居・社標・狛犬・燈籠・手水鉢・旗立の6種で、亀太郎は神社石造物を多数製作した。石造物全数の60%を占める。

神社石造物は、1889年から1931年まで73社へ置かれた。

最も多いのは狛犬43社(58.9%)で、1889年から開始した。鳥居は24社で1913年からである。

1種のみを設置は59社(80.8%)で、そのほとんどは狛犬である。よって亀太郎は狛犬の評価が高かったといえる。2種設置は12社、3種設置は1社、4種設置は1社である。

複数設置の場合、当初から2種を設置したもの3社、後年追加したもの14社がある。

最初の設置から4年以内に追加があったものは7社、7年以上後に追加したものは5社で、最長36年である。

### (3) 石碑の動向

慰霊碑は、日清・日露戦争を契機に戦役碑・戦没碑の造立が増加し、石碑製作の需要が増えた。他の石工も同様であったとみられる。亀太郎においては明治28年から開始し、明治44年まで17年間に石碑全体の60.6%が集中する。この時期の種類は自然石型・四角型・方柱型で、前半は自然石型、後半は四角が多い。

その後大正6年以降は稲井石による縦板型が主体となる。

### (4) 四角型石碑の変化と評価 (図8)

四角型石碑は、慰霊碑・顕彰碑に用いられる。1895年から出現し、1911年まで17年間に認められる型式である。

頂部形状により分類すると、頂部両端に欠込みのないもの(I)、欠込みのあるもの(II)に大別される。Iは、頂部が平坦で、両端を丸面とするもの(A)、頂部を弧状とするもの(B)がある。

初期年代	所在地	狛犬	社標	燈籠	鳥居	手水鉢	旗立
1889	富山市婦中町中名・熊野神社	●			○1925		
1892	富山市上袋・神明宮	●					
1893	富山市本郷中部・二上神社	●					
1894	富山市八尾町武道原・春日社	●					
1896	立山町沢端・神明社	●					
1897	富山市八尾町三田・白鳥神社		●				
1898	富山市八尾町下新町・八幡社	●					
1903	富山市上袋・神明社	●					
1905	富山市岩瀬白山町・諏訪神社			●		○1915	
1905	立山町座主坊・刀屋宮	●			○1917		
1907	富山市婦中町外輪野・神明社	●					
1907	富山市岩瀬入船町・恵比寿社	●					
1908	富山市中老田・加茂社	●					
1908	富山市太郎丸本町・土宮神社	●					
1908	富山市泉町2丁目・金刀比羅神社		●				
1908	射水市作道・道神社	●					
1909	富山市四方・四方神社		●				
1909	富山市婦中町道島・牛嶽社	●					
1911	富山市大泉本町・本泉神社	●					
1911	砺波市東保・五社神社	●					
1913	富山市上袋・神明社				●		
1914	富山市下堀・八幡神社	●					
1915	富山市長附・神明宮	●					
1915	富山市婦中町朝日・滝神社			●			
1915	舟橋村海老江・熊野神社				●		
1915	富山市山王町	●					
1915	富山市婦中町安田				●		
1915	富山市八幡・八幡社					●	
1915	富山市古沢・神明社				●		
1916	富山市婦中町田屋・杉原神社	●	○1918				
1916	鴻川町下梅沢・加積郷神社		○1919		●		
1916	高岡市上麻生・八幡社	●					
1917	富山市小黒・神明社	●					
1917	富山市中川原・神明社	●					
1917	射水市七美中野・神明社	●					
1917	立山町二ツ塚・神明社	●			○1924		
1917	富山市婦中町安田・八幡社		●				
1918	富山市八尾町福島・蔵王社	●	○1921				
1918	富山市古作・貴船神社				●		
1918	富山市粟島・神明社	●					
1918	富山市下赤江・神明社	●	○1922		●	○1922	
1918	富山市水橋開発・日吉神社		●				
1918	富山市婦中町下吉川・越乃神社				○1921	●	
1919	富山市町村・山室神社	●					
1919	富山市杉谷・八幡社	●		○1920			
1919	富山市婦中町余川・天満宮				●		
1919	富山市文珠寺・武部神社				●		
1919	立山町虫谷・八幡宮				●		
1919	富山市窪本町・八幡社				●		
1920	富山市宮保・熊野神社	●					
1920	富山市婦中町小泉・神明社	●	●			○1928	
1920	上市町女川・薬師神社	●					
1920	富山市安養坊・八幡社		●				
1920	富山市婦中町板倉・八幡宮	●					
1921	射水市加茂・加茂神社	●					
1922	富山市打出・貴船神社	●					
1922	富山市西二保・日枝社	●					
1922	富山市八尾町石戸・八坂社	●					
1922	射水市殿村・殿村神社	●			○1924		
1922	砺波市東石丸・東石丸神社	●					●
1923	立山町高原・天満宮	●					
1923	富山市山王町・日枝社境内社				●		
1924	富山市久郷・日枝神社	●			●		
1924	富山市八尾町大杉・神明社				●		
1925	富山市奥田・奥田神社		●				
1925	富山市婦中町広田・神明宮				●		
1925	富山市片掛・八坂社					●	
1925	富山市上赤江・三川神社				●		
1926	富山市八尾町井田・白山社		●		●		
1926	上市町西種・白山神社	●					
1928	富山市西宮・西宮神社		●				
1928	富山市八尾町新田・神明社				●		
1931	富山市岩瀬荒木町・琴平神社				●		

凡例  
●初期一括  
○後年追加  
後年複数  
初期複数

表2 神社石造物一覧

I Aが最も多く、推定品も含め 15 例がある。このうち碑面上部の篆額がないものは最末期の 1 例のみである。I Bは 1 例のみである。

IIは 3 例がある。1906 年から 1908 年の 3 年に 3 例のみがある。頂部は三角形に尖ることが共通する。本体を支える 2 個の雲形台座は 2 基がある。1908 年の 47 は基礎意匠を凝らしており、最も装飾性が高い。

I には石工銘のないものも多い。他の石工にも見えるが少数である。II は他の石工にはなく亀太郎特有の型式といえる。

#### (5) 稲井石製縦型碑について

稲井石は、明治末の 1909 年から使用を開始した。1915 年以降は石碑の主たる石材となっている。他の石工の採用状況を見ると、富山市石工では、伊藤茂が 1908 年、大正期 1921 年以降に村木孝之・楠野森次郎・菊地太平・前田藤吉・宮本重治らと増え、普及を見せる。常願寺川石工では 1916 年森元■次郎が最初であるが、普及するのは昭和に入った 1928 年以降である。

このように稲井石は、明治末期、伊藤茂と亀太郎が最初に使用し、以後大正後期以降次第に各石工に普及していったことがわかる。

#### (6) 狛犬の変化と評価

狛犬は、1889 年から刻銘品が見える。推定品はその 10 年前の 1879 年に 1 例があり、これは石碑製作開始以年代と近い。以後定量的に製作が継続した。概ね 3 期の変化が把握できる（図 9）。

【I 期】 初期の形態は、目が丸く、耳が左右にあり垂れ耳が主体である。尾は上部蠟燭の峰、下部渦巻で、渦巻の位置や個数は多様である。石材は、砂岩が多く、花崗岩は少ない（16.7%）。

【II 期】 1908 年から亀太郎特有の形態が確立した。体躯は筋肉質で顔が大きい。耳は短い横耳で、目は平たい。口を大きく開け、口角は丸い。尾の下半は左右に分かれる流れ毛の先は渦巻である。石材は花崗岩が半数、残りは安山岩・凝灰岩で、砂岩はない。凝灰岩はこの時期のみである。

【III 期】 1915 年からは、尾下部の左右に分かれる流れ毛から、S 字状に交差する流れ毛に意匠が変化する。咩形に角があるものは 1924 年の 1 例のみである。石材は、花崗岩が主体で、砂岩・安山岩が少数ある。

以上の変化に基づき、年代不明の刻銘品 158 は、I 期のうち 1894 年から 1907 年の間の製作と推定される。

#### (7) 小型狛犬

神社奥殿前に奉納された小型狛犬は、4 例 8 対がある。56・175・178 は笏谷石である。196 の石材及び年代は不明である。

亀太郎における笏谷石の使用は、この小型狛犬に限定され、他の種類には使用されていない。1909 年から 1912 年までの短期間のことである。

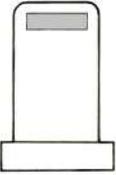
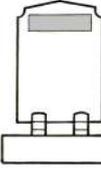
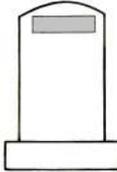
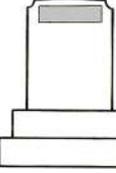
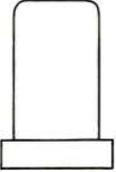
年代	I		II
	A	B	
1895			
1906			
1907			
1911			

図 8 四角型石碑の編年

西暦	耳	口	尾
1879	159	159	159
1889	7	7	7
1894	11	11	11
1896	17	17	17
1898	21	21	21
1903	28	26	171
1907	41	46	46
1908	43	43	43
1911	42	46	50
1914	50	62	60
1915	65	65	65
1917	78	78	90
1918	90	113	113
1921	105	124	105
1922	122	124	130
1923	124	146	130
1926	146	146	186 145
			183
			175
			43
			77

凡例  
 ・数字は表1-1, 1-2と一致する。  
 ・写真の上辺と四層の上辺は、原則  
 ほぼ一致している。

図8 狛犬部位別編年図

1909年の175は、菊地太平が亀太郎に製作を依頼し奉納したものである。菊地は富山市石工の一人で、鳥居や石碑などの大型品を多く製作した。小型狛犬等の細工は得意ではなかったようである。狛犬の奉納年代は、菊地太平が石工として刻銘を入れはじめる1918年の9年前である。したがって見習中もしくは石工になる以前に奉納したことになる。太平は亀太郎の狛犬奉納を契機として石工への道を進んだ可能性もある。

1911年の56には石工銘があるが、翌年の178に石工銘はない。

### (8) 手水鉢の変化と評価

手水鉢の刻銘品で最も古い67は1915年であるが、推定品とした159はこれより40年古い1875年製で、かつ石造物全体のうち最古の例となる。推定品で次のものは1909年であり、これとも34年間の空白がある。他の石造物期間と比べ異様に長いといえる。159を亀太郎と推定した根拠は、形態の類似と、同所にある推定品の狛犬159基礎刻銘との同一筆跡である。狛犬は1879年の刻銘があり、形態的にも同年に位置づけても問題がない。よって158もそれほど年代的なずれはないとみてよいことになる。40年もの空白期間が生じた理由については、亀太郎の作例でないことも視野に入れて説明の必要があることを提起しておく。

形態は多様であり、特徴的な変化を見出し難い。全期間ではないが、代表的な特色として、下辺の花頭形装飾及び隷書体の「奉納」文字の2点を挙げることができる

手水鉢正面の文字は、陽刻が多い。隷書体による「奉納」が主体であるが、1915年から1922年の間にはそれ以外の二文字語「清洗」「清心」「清浄」が採用されている。これは1914年から1918年の第一次世界大戦及び1919年から1922年のシベリア出兵の戦時期に該当しており、煩惱や罪がない六根清浄という仏教語の意を込め戦勝あるいは兵士の清廉さを祈願する意味も込め用語を選んだのであろうか。

台石については、推定品の195のみ例外的に獅子頭とみられる彫刻品を置いている。当初からの付属品かどうかについては、同所の狛犬46も亀太郎の製作であり、横長の目の表情などが類似することから、46と同じ1908年頃の当初形態と推定しておく。

### (9) 共作状況

共作の形態には、①共同作業のもの、①部材を別々に担当するものがある。

①には石仏18の1例のみがある。共作者は安川勇輔である。

安川姓の石工は、常願寺川右岸中流の西大森二ツ屋村（現立山町西大森）出身で、神通川右東猪谷（現富山市猪谷）に移住した石工もいるという<sup>(76)</sup>。安政以降4人の安川姓の石工名が確認されている<sup>(77)</sup>。勇輔はその関係者と考えておきたい。

亀太郎は、基本的には単独製作者であった。したがって安川勇輔との共作は異例といえる。石仏は、常願寺川石工特有の笠付円盤型である。亀太郎にとっては製作実績のない形態であったこと、また亀太郎自身石仏製作実績が少なく得手ではなかったとみられることから、特異な石仏製作にあたり、一時的に常願寺川石工の手を借りたと考えられる。安川勇輔が以後単独あるいは亀太郎の共作者として見えないことは、亀太郎の元で継続的に修業していた弟子ではないことを示唆する。

②には狛犬65の1例のみがある。本体を亀太郎、台座を魚津町石工貫和捨次郎が分担して製作した。石材は本体西日本産花崗岩、台座は早月川花崗岩である。早月川花崗岩は、貫和の工房の近くの早月川河川敷で原石を獲得でき、貫和は他の石造物においても主体的石材として使っていた。よって、それぞれの工房において製作し、現地で組み合わせたと推定される。

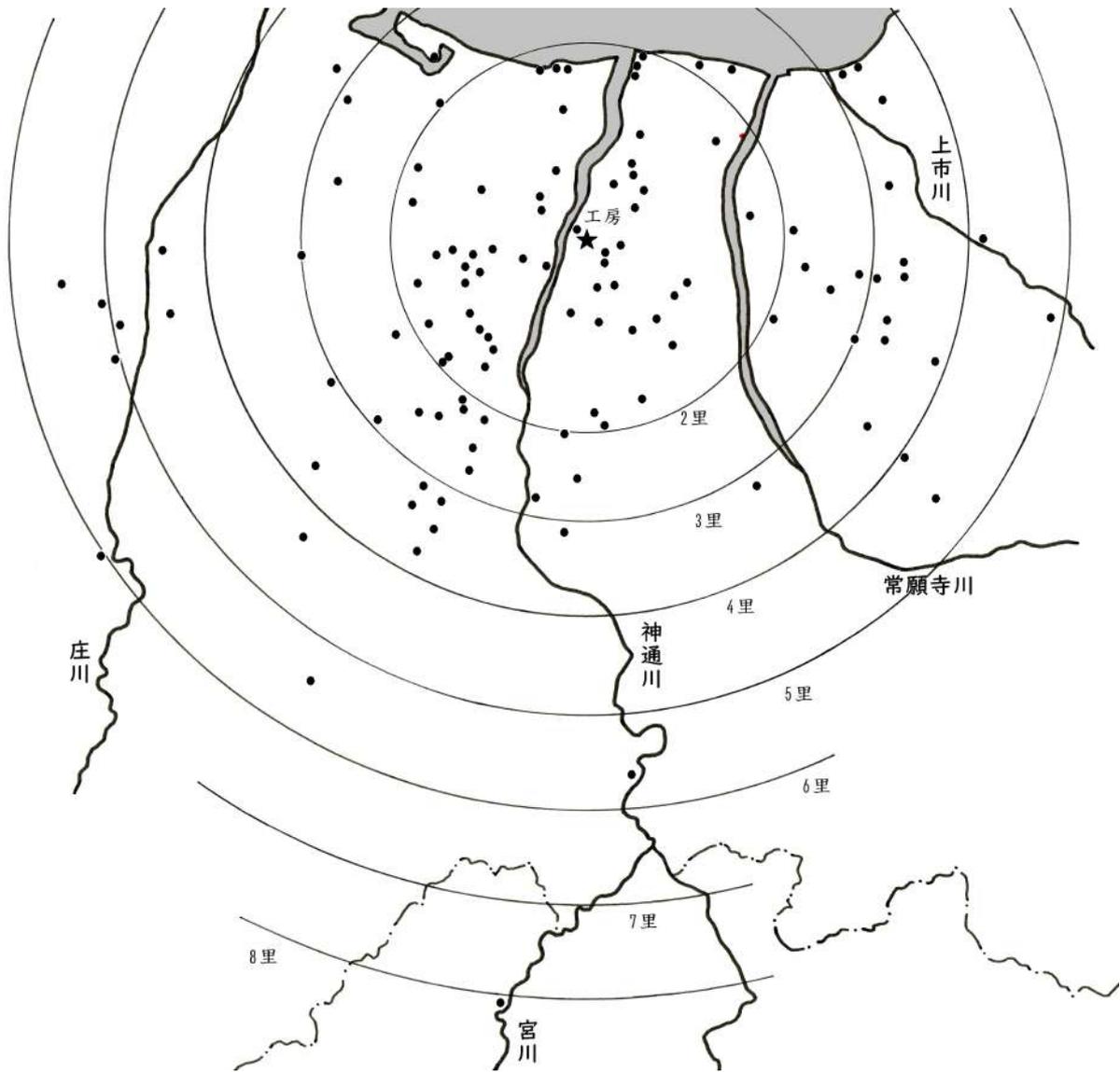


図 10-1 石造物の分布

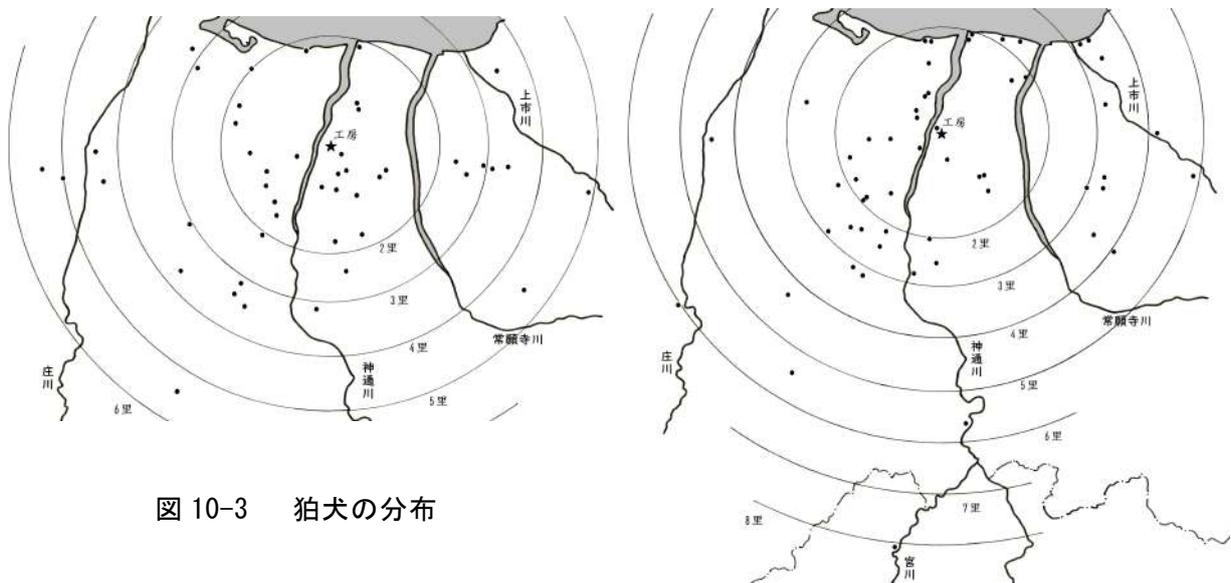


図 10-3 狛犬の分布

図 10-2 石碑の分布

このほか、36・37の義勇奉公碑群では、「庭師由川健太郎」の併記がある。庭師とは石碑土台の石組や庭石の配列の設計施工者であり、七福神を意図して石碑・景石群を配列したものである。亀太郎はこのうち石碑本体2基の製作のみを担当したとみられる。由川の本拠地は不明である。

亀太郎の作風に近似する狛犬には、富山市石工開上金治の作例がある。前記小林報告<sup>(7)</sup>でも亀太郎と推定したもののいくつかは開上金治である。開上金治は「山室駅前」<sup>(78)</sup>に店あるいは工房があり、刻銘品は1928年から1930年に4例、推定品は1920年から1927年まで7例がある。亀太郎との大きな相違は、下顎が丸く膨らむ、前足が短い、筋肉質の表現が薄い、等があげられる。開上金治の狛犬製作年代は、亀太郎の晩年と重なることから、亀太郎の下で修業した可能性がある。

なお、小型狛犬175は、富山市石工菊地太平が奉納したものである。菊地太平は1918～1932年に鳥居・石碑・社標等計11例を製作している。工房所在地は不明である。太平以後に見える富山市石工菊地太作は子とみられる。菊地と亀太郎との関係性は、同じ富山市石工であったが、共作品がないことから師弟関係を積極的に裏付けることはできない。よって亀太郎に製作を依頼し買い求めたものであろう。菊地には狛犬製品がなく、狛犬製作を得意としなかったのがその理由と考えられる。

### (10) 分布状況

石造物の分布は、富山平野・射水平野・砺波平野及び神通川上流部に及び、富山県・岐阜県飛騨市に及ぶ。その範囲は東西40km、南北40kmである。この範囲の中央北部に工房が位置している(図10-1)。分布の最遠となるのは工房から南に32km離れた岐阜県飛騨市宮川町桑野の85である。

刻銘品の所在状況は、工房から2里圏内に73例46.5%、3里圏内に111例70.2%である。推定品を含めると、2里圏内に92例46.7%、3里圏内に134例68.0%である。よって、工房の近在地で多くが消費されたといえる。

石碑の分布(図10-2)は、富山市婦中町・八尾町野井田川沿い、富山市打出から滑川市の海岸部、上市町・立山町の白岩川沿いに集中する傾向がある。全体として4里以内である。

狛犬の分布(図10-3)は、上記よりやや広く、6里以内である。石碑の分布が希薄であった神通川右岸中流域に多く、海岸部は希薄である。

3里以上の遠隔地では、射水市域に狛犬・手水鉢が比較的多いといえる。

### (11) 刻銘

刻銘品158例について検討する。このうち石工名はあるが年代が不明なものは3例がある。

#### ① 石工名(表3・図11)

石工銘は、本拠地・職種・氏名を表記するもので、基本形は「富山市石工 桑原亀太郎」と1行または2行で縦書きする。基本形のものは115例(72.8%)があり、それ以外は多様に変化する。

#### A 本拠地表記

店または工房は富山町惣曲輪(総曲輪)にあった。

当初は、「富山惣曲輪」「外惣曲輪」と「石工」を併記せず表記するもの、あるいは「富山石工」とした。1895年頃からは「富山市惣曲輪」「富山市総曲輪」など「市」を加えるものが増える。基本形である「富山市石工」は1892年を初現とし、1895年頃から主流となる。

晩年は富山市を付記しないものが多く、「富山石工」とするものも1例みられる。

「富山市石工」の表記は、「富山市」「石工」を続けて一行で表記するものが基本であるが、「富山市」で改行し、「石工」を次行にする例が少数ある。1895年から1915年の間に7例がある。

和暦	西暦	富山市	富山	外窓曲輪	総曲輪	惣曲輪	石工	石匠	工匠	鑄工	刻	石亀	亀山	楷書体	隷書体	行書体	備考
明治	11	1878															
	12	1879															
	13	1880															
	14	1881															
	15	1882															
	16	1883															
	17	1884															
	18	1885															
	19	1886															
	20	1887															
	21	1888															
	22	1889															
	23	1890															
	24	1891															
	25	1892															
	26	1893															
	27	1894															
	28	1895															
	29	1896															
	30	1897															
	31	1898															
	32	1899															
	33	1900															
	34	1901															
	35	1902															
	36	1903															
	37	1904															
	38	1905															
	39	1906															
	40	1907															
	41	1908															
	42	1909															
	43	1910															「富」異体字
	44	1911															
大正	1	1912															
	2	1913															
	3	1914															
	4	1915															
	5	1916															
	6	1917															
	7	1918															
	8	1919															
	9	1920															
	10	1921															
	11	1922															
	12	1923															
	13	1924															
	14	1925															
昭和	1	1926															
	2	1927															
	3	1928															
	4	1929															
	5	1930															
	6	1931															

表 3 石工名表現

## B 職種表記

本拠地の次に、職種を記す。基本形の「石工」部分である。当初「富山石工」と表記し、1892年から「富山市石工」が加わる。その後1906年から「富山市石工」が定形化し、晩年頃まで続く。

その他の表記として、「富山市石匠」・「石匠」・「富山市鑄工」・「工匠」がある。

「富山市石匠」は前期の1913年から晩年まで8例がある。「石匠」は1923年から1930年まで3例がある。「富山市鑄工」は1926年に1例がある、「鑄（せん）」は彫る・穿つの意味がある。

「工匠」は1928年に1例がある。いずれも後期から晩年に多い。

このほか、名前の末尾に「刻」と付記するものが中～末期に3例がある。

## C 店名・雅号表記

氏名の表記は、姓・名を基本とするが、「石亀」とするもの、名を「亀山」とするものが見える。

「石亀」は、最初期の1879年から1902年まで4例があり、晩年の1928年に1例がある。石碑に多い。この「石亀」は店名または通称か。

名を「亀山」とするものは、晩年の1928年から1931年に4例があり、石碑・鳥居に偏る。うち2例は「亀」字を象形文字風にする（149・155）。「亀山」は雅号か。

## D 文字方向

縦書き1行または2行で表すものがほとんどである。

横書きは2例のみである。9は狛犬盤台側面、47は石碑中台側面で、前者は「富山／石工」、後者は「富山市」を縦書きとし、それ以外を横書きとする。いずれも天地幅が狭い横長面であり、刻銘面の形状の制約により横書きにしたとみられる。

## E 刻銘場所

石工銘は、石造物正面から見て見えない位置に彫るものがほとんどである。

石碑では、本体に彫るもの59例92.2%、台座に彫るもの5例7.8%で、本体に彫るものが多い。

自然石型石碑は、16例全て本体に彫る。刻銘場所は、正面下部4例、側面下部6例、裏面下部6例である。

四角型・方柱型石碑は、本体に彫るもの15例78.9%、台座に彫るもの4例21.2%である。本体の刻銘場所は、正面下部2例、側面下部12例、裏面下部1例で、側面が多い。台座の刻銘場所は正面1例、裏面1例、側面1例である。

縦板型は、26例全て本体に彫る。刻銘場所は、裏面下部17例、側面下部9例、正面下部の裏面下部の両方に彫る特殊なもの1例があり、裏面が多い。側面は1919年以降増加する。

位牌型は台座正面、造形型は本体裏面下部に彫る。

狛犬では、基礎側面に彫る。例外的に本体の盤台に彫るもの1例がある。阿形に彫るものは28例で71.8%と多く、吽形は11例28.2%である、阿形では、裏面10例35.7%、右側面18例64.3%で後者が多い。右側面は後半期に多い。

鳥居では、片方の柱下部の裏面または外側面に彫る。

社標では、本体下部の裏面・側面に彫り、後者が多い。側面に彫るものは、寄進者の名の下に小さく彫るものが多い。

燈籠では、雪見燈籠は脚、神前形は竿・基礎に彫る。

手水鉢では、裏面または左右側面に彫る。

## ②書体・字形

書体は楷書体・行書体・隷書体がある（表3）。

当初は楷書体で全期を通じて見られる。1888年から隷書体が出現し、1907年以後隷書体が多くなり主体となる。行書体は1919年に1例のみある。

字形は、いくつかの特徴を挙げることができる（表4）。

「石」は、①通常字形と②口の上に「、」や「一」を付記するものがあり、前者が多い。後者は後出的である。

「工」は、①通常字形、②「ユ」形、③「互」形のものがある。通常字形が主体である。「ユ」形は後出的である。「互」形は隷書体に特有で、1911年以降に見える。

「桑」は、①通常字形と②異体字「𠂔」がある。異体字はやや後出的ではあるが両方ともほぼ全期にある。

「原」は①通常字形と、②3角目の「、」のない異体字がある。通常字形はやや後出的ではあるが両方ともほぼ全期にある。

「亀」は、①通常字形、②3～6角目の日部分を口に省略するもの、③旧字体、④略字体、⑤図形と多様である。通常字形は全期を通じてある。②はやや後出し1917年まで見える。③は②より後出し1922年まで見える。④画数を減らした略字体は後期に2例のみある。⑤は象形文字風の図形とするもので、晩年に2例のみある。

「郎」は、①通常字形、②旧字体がある。②は1906年頃から見える。「亀」字より後出する。

和暦	西暦	石		工			桑		原		電				郎		
		通常	点あり	通常	二形	互形	通常	異体字	通常	点なし	通常	日部分口	旧字体	略字体	図形	通常	旧字体
明治	11	1878															
	12	1879															
	13	1880															
	14	1881															
	15	1882															
	16	1883															
	17	1884															
	18	1885															
	19	1886															
	20	1887															
	21	1888															
	22	1889															
	23	1890															
	24	1891															
	25	1892															
	26	1893															
	27	1894															
	28	1895															
	29	1896															
	30	1897															
	31	1898															
	32	1899															
	33	1900															
	34	1901															
	35	1902															
	36	1903															
	37	1904															
	38	1905															
	39	1906															
	40	1907															
	41	1908															
	42	1909															
	43	1910															
	44	1911															
大正	1	1912															
	2	1913															
	3	1914															
	4	1915															
	5	1916															
	6	1917															
	7	1918															
	8	1919															
	9	1920															
	10	1921															
	11	1922															
	12	1923															
	13	1924															
	14	1925															
昭和	1	1926															
	2	1927															
	3	1928															
	4	1929															
	5	1930															
	6	1931															

表 4 字形表現

③その他文字 (図 12)

特徴的な文字に「奉納」がある。狛犬基礎正面に、阿形「奉」、吽形「納」と彫るものがほとんどで、ほかに盤台に彫るもの、基礎 1 石に「奉納」と 2 文字を彫るもの、燈籠中台に彫るものがそれぞれ少数ある。

推定品のうち疑念のある 158 を除く全体の傾向を見ると、書体は楷書体・行書体・隸書体があり、隸書体が主体である。当初は楷書体であるが、1898 年から隸書体を開始し、以後隸書体が主体となるが、楷書体も一定程度存続する。行書体は前期にあり少ない。

「奉」字は、隸書体において 2 つの字形がある。「ハ」部分の上が離れるものと「へ」のようにくっつくものがある。前者が主体であり、後者は 1917 年から 1920 年に 4 例と少ない。

「納」字は、糸偏が楷書体のものと、下が 3 点となる行書体風となるものがあり、前者が主体である。隸書体では象形文字風になるものが少数ある。行書体風のものには楷書体・行書体に多い。「内」部は、「人」部分の下の両方の撥ねが、縦線の内側におさまるものと外に出るものがある。当初は前者であるが、1908 年から後者が隸書体で出現し、以後後者が主体となる。

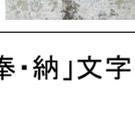
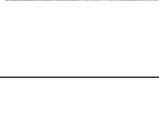
西暦	奉		納	
	楷書体	隸書体	楷書体	隸書体
1889				
1892				
1898				
1903				
1907				
1908				
1915				
1916				
1921				
1924				
1926				

図 12 「奉・納」文字の変化

## (12) 石材

### ①石材の分類

使用石材については、Ⅲ石造物の概要においてすでに石材名を表示したところであるが、以下岩石別に分類し、石材の詳細説明を行う。

石材として用いる岩石には、花崗岩類・安山岩類・砂岩類・粘板岩類・凝灰岩類がある。

#### A 花崗岩類

県内産 2 種類、県外産 2 種類がある。

**早月川花崗岩** 富山県東部の飛騨帯のうち、早月川上流域に産出する花崗岩である。桜色・灰色・白色のカリ長石を含み、中粒・粗粒花崗岩である。早月川上流域から中流域の河川敷において 1～数mの垂角礫・円礫形態で獲得できる。昭和 40 年代まで上流域の上市町蓬沢付近において石垣用石材が切り出されていた。帯磁率 (Magnetic Susceptibility) <sup>(79)</sup> は、 $5\sim 20\times 10^{-3}$ SI Unit の磁鉄鉱系花崗岩である <sup>(80)</sup>。西日本産花崗岩にも肉眼観察で類似した岩相の石材があるが、帯磁率により識別することが可能である。考古学では「早月石」の名称がある <sup>(81)</sup>。亀太郎においては初期から使用したが、西日本産花崗岩が増えところから順次減少し、1916 年以降は使用していない。

**大熊山花崗閃緑岩** 富山県東部の飛騨帯のうち、立山の熊山から大日岳、奥大日岳にかけて分布する花崗閃緑岩である。早月川上流域・常願寺川等に流出しており、それらの河川敷で垂角礫・円礫形態で獲得できる。数cm以上の暗色包有物を含無ことが顕著な特徴である。帯磁率は、 $7\sim 25\times 10^{-3}$ SI Unit の磁鉄鉱系花崗岩である。利用は少ない。

**西日本産花崗岩** 畿内から瀬戸内地域で産出する細粒～中粒の花崗岩で、黒雲母や、桜色・橙色・黄色・灰色のカリ長石を含む。帯磁率は  $4\times 10^{-3}$ SI Unit より小さいチタン鉄鉱系花崗岩である。富山においては、江戸時代富山藩主前田家墓所長岡御廟所の藩主墓石・墓前燈籠・家臣寄進燈籠に多用された。これは西日本のうち「六甲花崗岩」に同定されている <sup>(82)</sup>。これは、江戸時代いわゆる「御影石」のブランド名で広く流通していた石材である。長岡御廟所では加工済の製品 (部材) を

搬入したものであるが、亀太郎においては原石状態で搬入し、富山の工房で加工したものである。

初期に少数を使用したか、1905年以降本格的に使用された。

**美濃産花崗岩** 岐阜県中津川市周辺から産出する赤茶色（サビ色・鉄サビ色などと通称する）の花崗岩で、「恵那錆石」・「恵那みかげ」・「蛭川みかげ」と呼ばれる。帯磁率は $1 \times 10^{-3}$ SI Unitより小さいチタン鉄鉱系花崗岩である。同定を行っていないため推定としておく。亀太郎においては後期の墓石にのみ見られる。

## B 安山岩類

県内産で、3種がある。

**八川石** 常願寺川上流域から産出する安山岩で、常願寺川河川敷において獲得できる。特徴的なものは白色長石を含むものであるが、斑晶（含有物）が少ない青灰色・暗赤色の安山岩もこれに含める。中世以来石仏・墓石の主体的石材であり、近代まで常願寺川流域で墓石等の石材として多用された。考古学においては八川石と呼ぶが、厳密な岩相を規定しておらず、立山天狗山石を除く常願寺川産安山岩全般を指すものと捉えておく。亀太郎においては全期を通じ散漫に使用する。

**立山天狗山石** 常願寺川上流の立山カルデラ内の天狗山周辺で産出し、そこから流出して常願寺川中流河川敷において円礫で獲得できる。八川石とともに中世以来石仏・墓石の主体的石材であった。立山天狗山石は考古学における石材名称であり、岩石学上は天狗山溶岩・天狗溶岩等と呼ばれるものに相当する。亀太郎においては少数である。

**神通川石** 神通川上流から産出する安山岩で、白色の長石を多く含む。石基は青灰色である。神通川河川敷において円礫の状態で見られる。考古学では「神通川石」と呼ぶ。近世以降玉石・割玉石の石積・石垣用石材として使われ、加工品は石碑以外少ない。亀太郎においては少数である。

## C 砂岩類

県内産3種、県外産1種がある。

**猪谷石** 神通川上流神通峡の富山市猪谷から飛騨市横山一帯において山中礫として産出する。神通川に流出し、中流まで大型河川礫として獲得されていた。細～中粒砂岩で、2012年に命名された<sup>(75)</sup>。帯磁率は $0.2 \times 10^{-3}$ SI以下である。飛騨街道沿いの近世石仏・墓石・神社石造物に多用された。中世後期に利用が始まったとみられる。亀太郎においては初期から1922年までの使用である。

**藪田石** 富山県西部の高岡・氷見海岸部に所在する細粒砂岩で、シルト岩とも分類されている。これと隣接して所在する岩崎石（太田石）同様、石灰質である。中世以来石仏・墓石に多用された。亀太郎においては少数の使用である。

**来待石** 島根県松江市産の凝灰質砂岩である。灰緑色で、風化により褐色化する。帯磁率が高い。県内産の（仮称）脇谷石<sup>(83)</sup>の一部と類似するが、帯磁率により識別可能である。

## D 粘板岩類

県外産で、1種がある。

**稲井石** 宮城県石巻市稲井町から産出する青黒～黒灰色の粘板岩（天然スレート）で、仙台石・井内石とも呼ばれる。本稿でいう縦板型石碑はこの石材を使用しており、また墓石にも使われる例が多い。亀太郎においては墓石への使用は2例と少ない。

## E 凝灰岩類

県外産で、1種がある。

**笏谷石** 福井県福井市の足羽山（旧石谷山）周辺から産出する緑色凝灰岩（Green Tuff）で、「越前石」とも呼ばれる。帯磁率は $3 \sim 10.5 \times 10^{-3}$ SIである。江戸時代富山藩主前田家墓所長岡御廟所

和暦	西暦	花崗岩系				安山岩系				砂岩系			粘板岩 稲井石	券谷石		
		早月川	西日本	美濃	その他	八川	天狗山	神通川	その他	窪谷	穀田	来待石				
明治	8	1875		1												
	9	1876														
	10	1877														
	11	1878					1									
	12	1879	1	1												
	13	1880														
	14	1881	1													
	15	1882														
	16	1883	1													
	17	1884														
	18	1885														
	19	1886														
	20	1887														
	21	1888	1													
	22	1889					1			1	1					
	23	1890				1										
	24	1891														
	25	1892									1					
	26	1893														
	27	1894											1			
	28	1895				1	1			4						
	29	1896	1				1				1					
	30	1897				1				1	1					
	31	1898	1													
	32	1899							1							
	33	1900								1						
	34	1901														
	35	1902								1						
	36	1903									1					
	37	1904		1												
	38	1905	3	2										2		
	39	1906	7	1			1	2			1					
	40	1907	2	2			1				2	1				
	41	1908		6			1									
	42	1909		3							1			1	1	
	43	1910					1									
	44	1911		4			1								1	
	大正	1	1912												1	
		2	1913		1										2	
		3	1914		1			2								
		4	1915	1	8			1							1	
		5	1916		3											
		6	1917		6										4	
		7	1918		6	1					2					
8		1919		7						1					2	
9		1920		5			2								1	
10		1921		3											1	
11		1922		6							2				1	
12		1923		3											4	
13		1924		8						1					1	
14		1925		6											2	
昭和	1	1926		3						1				1		
	2	1927												1		
	3	1928		5										1		
	4	1929														
	5	1930													1	
	6	1931		1												
	7	1932														
			19	93	1	3	14	2	30	1	13	11	1	1	26	3
				116									13		26	3

表 5 石材別使用年代・数量

の藩主墓縁石・拝所敷石に使用された<sup>(82)</sup>ほか、近世から近代に廟所・石仏・狛犬・燈籠が多く製品として搬入された<sup>(84)</sup>。亀太郎においては小型狛犬3例のみ使用している。原石状態で搬入し、富山の工房で加工したものである。

## ②石材使用状況

使用石材について、岩石別に割合を示したものが図13である。本体の石材を基準としたが、四角型石碑・狛犬・墓石については本体と基礎が異なる石材を使っているものがあることから、その場合のみそれぞれをカウントした。

花崗岩類が全体の61.3%を占め、そのうち80.2%は西日本産のチタン鉄鉱系である。石造物全

体から見ても 49.5%と半数である。富山産の早月川花崗岩は少ない。

安山岩類は 15.3%を占め次に多い。うち八川石が 46.7%と約半数である。

稲井石は 13.3%、砂岩類は 6.6%である。砂岩類のうち猪谷石は 84.6%である。

石材ごとの使用期間を示したのが表 5 である。概要は前項参照。

### (13) 店・工房の位置

亀太郎の店は、前述のように富山市総曲輪通り（現在の総曲輪 3 丁目）にあった。このことは石造物の初期の刻銘に「外惣曲輪」とあることから裏付けられる。外惣曲輪は、富山城三ノ丸南外堀に面した街区を指している。分家の位置はこれより西の総曲輪 4 丁目にあたる。当時の復元地図によると、桑原石屋分家の店は通常の町屋 1 区画程度であった。明治 36 年の大火は免れたことから、大火以後店は継続したとみられる。

石造物刻銘によれば、亀太郎の刻銘の最終年代は昭和 6 年であり、推定品も含めると昭和 7 年である。昭和 20 年の家屋名地図<sup>(85)</sup>の総曲輪 3 丁目に名前は確認できない。ただし昭和 40 年代に、場所は不明であるが総曲輪地内に店が存在していたようである。店では玉盃など小物を製作・販売し、一角で小品を作る作業場があったという<sup>(86)</sup>。この店は本家・分家のいずれか不明であるが、小規模ながら経営を続けていたとみられる。現在店は存在しない。

亀太郎が鳥居・社標など大型神社石造物を多数製作していたことから推測すると、大型石材を置き、かつ作業を行った工房は、外総曲輪の店の場所ではなく、別の場所に広い敷地が確保されていたとみるべきであろう。

以上のことから、桑原亀太郎は、石商として外総曲輪に店を構え、別の近傍地に工房を有していたと推定される。

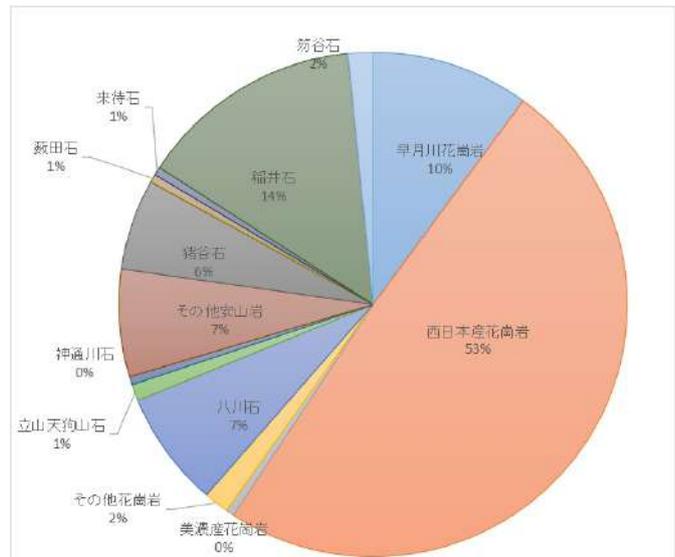
### (14) 出自等

亀太郎の出自については記録がなく不明である。総曲輪に店を構えたことしかわからない。

立山町下段に桑原姓が多く、この内一人の寄進した狛犬が同地に奉納されているが、ゆかりがあったのが、偶々同姓だったのかはわからない。

亀太郎について明らかになった事項をまとめたのが表 6 である

なお、富山市鹿島町鹿嶋神社境内の大正 4 年石碑に見える「深埜



亀太郎」は、別人と思われる。

## V 石工桑原亀太郎の評価

富山市石工桑原亀太郎は、明治前期から昭和前期まで、50年以上にわたり活躍した石工である。石碑及び神社石造物のうち狛犬を多く製作した。

石碑は伝統的な自然石型によっていたが、日清日露戦争による戦没碑の需要増に伴い、新しく板状の四角型石碑を手掛けるようになり、これが主流となった。四角型には四角形のもの、それに多様な装飾を加えたものがあり、共に年代的な変遷が認められる。いずれも亀太郎を特徴づける独自の形態といえる。独特なものとして同期の日露戦争兵隊像がある。

その後石碑は稲井石による縦板型に移行した。稲井石の使用は富山市石工で最も早いうちの一人である。記念碑・顕彰碑が増加する一方で、縦板形による第一次大戦戦没碑の需要は少なかった。

狛犬は亀太郎の最も得意としたものである。巻き毛を特徴とする岡崎型を昇華させていき1908年頃、亀太郎独特の容姿を完成させた。筋肉や体幹のバランスの表現が写実的で、頭部の大半を占めるような大きく開けた口が大きな特徴である。その形態は開上金治に継承されたとみられる。

石材は、当初富山産の早月川花崗岩・八川石・猪谷石を使っていたが、次第に西日本産花崗岩など搬入石材を多く使うようになった。

刻銘のある石造物は150例以上、推定品も加えると200例近くにもなる。ここに掲載しなかった推定品も多数存在し、今後さらに増えるものと思われる。これだけ多数の製作数を確認できる富山市石工は他におらず、突出している。

亀太郎の技量は広く知られていたようであり、広範囲に石造物が分布する。最も遠方のものは飛騨南部にまで及ぶ。近世後期において常願寺川石工中川甚右衛門が同様に広範囲の分布が確認されているが、近代には石工数が飛躍的に増えており、それを考慮すると亀太郎のような広範囲の分布は特殊な例といえよう。それだけ亀太郎の力量が広範囲に流布していたといえる。

以上のように桑原亀太郎は近代を代表する富山市石工の一人であると評価できる。

## おわりに

近代における石工の個別研究は、日本石仏協会・北陸石仏の会尾田武雄氏らが在地ブランド石材である庄川産金屋石を扱う井波石工・金屋石工を対象にこれまで進めてこられたところである。それ以外の地域についての動向は、これまでほとんど触れたものはない。今回の調査成果が今後の近代石工研究の基礎資料となれば幸いである。

## 註

- 1 古川知明 2012「近世富山町石工について」『富山市の遺跡物語』第13号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 2 筆者の調査による。一部は、尾田武雄 1996「富山県内の「石工銘の石造物」一覧」『北陸石仏の会研究紀要』創刊号 北陸石仏の会、及び注5・6・7でも報告されている。
- 3 水間直二 1979『明治の富山をさぐる—総曲輪を中心として—』
- 4 八尾正治・水間直二・山岸曙光 1974『総曲輪懐古館』巧玄選書8 巧玄出版
- 5 尾田武雄 1998「富山県内の「石工銘の石造物」一覧補遺1」『北陸石仏の会研究紀要』第2号 北陸石仏の会
- 6 尾田武雄 1999「富山県の野にある狛犬」『北陸石仏の会研究紀要』第3号
- 7 小林高範 2016「野にある狛犬について」『大山の歴史と民俗』第19号 大山歴史民俗研究会・2017「野にある狛犬について(2)」『大山の歴史と民俗』第20号 大山歴史民俗研究会

- 8 かわらいし。浜田青陵 1929『博物館』に用例がある。京田良志編 1976『富山市石仏石塔等調査中間報告書』第1冊～第3冊(1979)では「礧石」の用語を用いるが、1983『日本の石仏』5北陸編では「川石」の用語を用いている。
- 9 池上悟 2007『石造供養塔論攷』ニューサイエンス社 p170 墓石分類図などによる。
- 10 明治15年「東岩瀬宿方浦方組合心得」に、宿方として2人の勝岡氏がいる(佐藤豊信 1982「『東岩瀬宿方浦方組合心得』について」『東岩瀬郷土史会会報』別冊1 東岩瀬郷土史会)。竹吉との関係は不明である。
- 11 浄瑠璃節諸派のうち常磐津文字太夫を創始とする常盤津節一派で、家元弟子は「文字」を継承した。末吉は諸記録に見えない。出身が稲荷町か。
- 12 古川知明 2019「第2章 石割技術」『富山城跡本丸石垣解体修理発掘調査報告書 附編一本丸・西ノ丸の工事立会一』富山市教育委員会
- 13 五福校下自治振興会編 1991『五福郷土史』
- 14 義太夫年表近世篇刊行会編 1982『義太夫年表近世篇』第3巻下(嘉永～慶応) 八木書店
- 15 犁車(鋤車)は、牛馬に牽かせて土を耕起する犁に車輪を付けたものか。車鋤と呼称する農具は、明治34年に名越重熙が特許を取得しているが、犁車と同種のものかは不明である。
- 16 筆塚とは、使い古した筆を埋めて供養する塚。筆子塚ともいい寺子屋の師匠を偲ん記念碑を建てる場合もある。
- 17 中国最古の周代の詩篇で、のち儒教の基本経典とされた『詩経』の語句。孔子が門人の教育の為編纂したともいう。
- 18 1856-1921。第13代富山藩主のち富山藩知事。伯爵。
- 19 1842-1921。政治家。自由民権運動家。逓信大臣・農商務大臣を歴任した。
- 20 浅野家は、富山藩御扶持人十村家で、12代当主長太郎は貴族院議員・越中銀行頭取となり、明治31年墳墓改造に着工したという。婦中町史編纂委員会編 1967『婦中町史』1784頁、『富山県姓氏家系大辞典』1992角川書店344頁。
- 21 谷村信由は、富山橋北(愛宕町付近)に工房を有した石工で、明治20年(1887)射水市榎田神社境内顕彰碑に「谷村石店」が見える。その後富山市四方神社境内鳥居(造立年不明 日露戦争1904-1905以後か)には信由の名がある。石造物刻銘は少ない。
- 22 1849-1912。陸軍軍人。日露戦争の旅順攻撃を指揮した陸軍大将として著名。昭和天皇の教育係も担当した教育者。
- 23 婦中町婦人ボランティア講座(ふるさと愛護コース)編『ふるさと碑(ひ、いしぶみ)と拓本』婦中町教育委員会 1989
- 24 1875-1935。号撲堂。教育者。埼玉県川越図書館長、富山市八人町尋常高等小学校長、富山市立図書館長、高岡市立図書館長を勤めた。第1回国勢調査員も務めた。1928『富山県知名人物大鑑』第一輯他
- 25 1848-1928。陸軍軍人。乃木の下で旅順攻撃に参加。陸軍大将のち近衛師団長等を勤めた。
- 26 小杉町女性ボランティア講座いしぶみコース編『小杉町の”いしぶみ”』第二集 小杉町教育委員会 1993
- 27 富山市婦中町広田にある浄土真宗本願寺派清水山万藝寺。13世巧雲住職は小学校訓導を勤め、教え子により頌徳碑が造立された。表彰後広田村門徒が石碑130を造立した。
- 28 1869-1943。八尾尋常小学校長、杉原村会議員などを歴任。「婦負郡教育史」を刊行した。詩文家として漢詩を作った。続八尾町史編纂委員会編 1973『八尾町史 続』、1992『角川日本姓氏歴史人物大辞典16 富山県姓氏家系大辞典』角川書店。
- 29 1870-1943。官僚・政治家。1917-1919に16代富山県知事。のち衆議院議員。
- 30 1855-1927。陸軍軍人、華族。第一次大戦の青島攻撃の指揮者として知られる。
- 31 土肥翁とは土肥豊亮。上段村戸長、村会議員(1895-1920)、郡会議員を勤めた。『上段村誌』1935。寿蔵碑とは、故人の業績を生前に顕彰する目的で刻んで建てた碑をいう。
- 32 1841-1920。大聖寺藩14代藩主、のち藩知事。子爵。
- 33 疆は国境あるいは国土をいう。疆理図は国土図の意味。
- 34 1884年より富山市立浜黒崎小学校訓導・校長として在任し、『浜黒崎郷土史資料』を著して郷土史料編纂に努めた。
- 35 天皇の即位儀礼を御大典と呼ぶ。大正天皇は大正4年(1915)11月10日である。
- 36 古川喜代吉 1942「久世央先生の墓碑に就いて」『高志人』第7巻11号 高志人社
- 37 1842-1920。石川素童。1905年から曹洞宗大本山総持寺貫主、1906年から曹洞宗管長。

- 38 1914年8月13日旧坂下村を大雨による土砂崩れにより死者36人、負傷者8人が出た。翻刻は『宮川村誌』通史編上862頁。
- 39 1859-1928。華族。宮中顧問官、貴族院議員。
- 40 1881年(明治29)に結成された滑川町(現富山県滑川市)の俳諧結社。寺家村(現滑川市寺7家町)の俳人吉田芳塙を中心に結成。会誌『凡人』を刊行した。
- 41 上段村長。囲碁棋士『稲垣兼太郎君之伝』1891作者。
- 42 1875-1934。内務・警察官僚。政治家。華族。官選富山県知事。貴族院子爵議員。
- 43 第1回国勢調査は1920年(大正9)10月1日に実施された。
- 44 内閣府国勢院は1920年設立、10月に第1回調査を行った。初代総裁は小川平吉。碑字は誤ったか。
- 45 「刀嶽君」とは塚原庄十郎である。日清・日露の二度戦役で出征し、中新川郡会議員、五百石町助役を勤めた。謡曲の師匠でもあった。石碑は弟子らが造立した。五百石区域小学校長会郷土史研究部編『五百石地方郷土史要』1935、塚原勉編『大石原村史』2004。
- 46 1850-1926。陸軍軍人、華族。元帥陸軍大将。
- 47 1868-1948。海軍軍人、政治家。海軍大将、第42代内閣総理大臣のち枢密院議長。
- 48 浄土真宗本願寺派教校空華校総監を勤めた12世巧庵住職は、富山藩合寺令に抗し自寺も含め回復に尽くした。その功績により立教開宗七百年記念に当たり本願寺から表彰を受けた。
- 49 1885-1942。陸軍軍人、陸軍大将。旧加賀藩前田家16代当主。侯爵。
- 50 1842-1927。長州藩士、官僚、政治家、男爵。晩年は書家として素軒の号で活躍した。
- 51 1855-1930。官僚、政治家、男爵。台湾総督、大臣、枢密顧問官等を勤めた。
- 52 1874-1944。政治家、子爵。旧上野七日市藩13代当主。
- 53 鎌倉末の越中御服庄(現富山市五福とされる)の刀工。古刀最上作とされ、国宝1振、重要文化財8振がある。石碑にされた則重銘の太刀は、長さ69.7cmで、1889年田草雲が鏝阿寺(栃木県足利市)に奉納したもの。未指定。嘉暦3年は西暦1328年。
- 54 「陰徳有れば必ず陽報有り」。出典「淮南子」人間訓。
- 55 1864-1940。官僚、政治家。衆議院議員、文部大臣を勤めた。
- 56 1882-1945。富山県新保村生まれ。慶應義塾大学卒。軍人・学者・発明家。1910年無限軌道を発明し、1916年英国が第一次大戦にこれを応用した無限軌道戦車を使用し、その後日本軍や全世界で採用された。詳細は注57参照。
- 57 1884-1965。内務・警察官僚。1926~27年富山県知事。
- 58 平井一雄2020「無限軌道発明者「高松梅治」と建立石碑・文献資料」『大山の歴史と民俗』第23号 大山歴史民俗研究会。林毅陸については、佃隆一郎「愛知大学初代学長・林毅陸氏関連調査スタート」『同文書院記念報』第20号 愛知大学東亜同文書院大学記念センター2012 に詳しい。「一誠以貫百行」の書が慶應義塾福澤研究センターに所蔵されていることを記述している。
- 59 柳瀬村史編集委員会編 2000 『柳瀬村史』。仙台石製との記載がある。
- 60 勝山敏一『明治・行き当たりレンズ』桂書房2015、尾田武雄「兵隊像」『北陸石仏の会研究紀要』第12号2019
- 61 ねずてつや『狛犬学事始』ナカニシヤ出版1994
- 62 上杉千郷『日本全国獅子・狛犬ものがたり』戎光祥出版2008
- 63 貫和捨次郎は、1870年から1929年まで4点の刻銘品・1点の推定品を確認している。社標・狛犬の神社石造物を製作した。新庄町石工との共作品も1点ある。
- 64 砺波市教育委員会編 2022『砺波市神殿狛犬調査報告』(WEB)
- 65 毛卍文は、唐獅子の巻き毛を凶案化したもので、三日月形を放射状に並べた円形文様。獅子毛とも通称するが、獅子毛には他に渦巻文も多いため、ここでは毛卍文と呼ぶ。
- 66 この文様を現代では波文様と理解しているが、花頭形の凹凸をデフォルメした文様と理解する。
- 67 大正13年1月26日皇太子裕仁親王と良子女王との御結婚をさす。
- 68 大正13年の行幸とは、昭和天皇が皇太子時代に福井・石川・富山の3県に11月陸軍特別大演習のため来県れたことをさす。厳密には行啓である。富山県民に親しまれている「立山の御歌」はこの時小矢部で作られた。
- 69 1869-1942。内務官僚・政治家。1908-1910年に13代富山県知事、のち東京府知事、満州国国務顧問、貴族院勅撰議員などを勤めた。
- 70 池上悟による近世墓石分類による。池上2007『石造供養塔論攷』ニューサイエンス社170頁
- 71 「米田茂子之墓」とある。米田茂子は米田甚太郎夫人である。甚太郎は岩瀬出身で、法律家・警察

- 幹部をへて朝鮮道知事を勤めた。鹿熊保雄 1990「立志伝中の人 米田甚太郎氏—岩瀬荻浦町出身—」『東岩瀬郷土史会会報』No.38 東岩瀬郷土史会
- 72 祐屋山浄蓮寺は本願寺派。開基は祐源法師（延元2年（1337）没）。中村太一路 1963『富南の歴史』「富南の歴史」刊行会
- 73 『往生要集』大文第二「欣求浄土門」に説示される、浄土に往生した者が受ける10種の快樂の一つ、聖衆俱会樂。多くの聖者たちと浄土で会うことができるという意。
- 74 千手観音の持物については「千手千眼観世音菩薩廣大円満無礙大悲心陀羅尼經」に掲載があるが、左右で異なるものもある。本例では持物自体は正しいが経典の典型とやや異なる。
- 75 常願寺川左岸に分布する笠付円盤形石仏には、縁帯に光明真言梵字を彫るものが多数ある（滝本靖士 1994「富山県の庚申塔の形態と像容による分類」『とやま民俗』No.45 富山民俗の会）。
- 76 野菊の会編『野仏の里』2000。73頁調査番号④-3。
- 77 尾田武雄 1999「富山県内の「石工銘の石造物」一覧（新規追加（補遺）2）」『北陸石仏の会研究紀要』第3号 北陸石仏の会及び筆者の調査による。
- 78 山室駅は、1914年富山軽便鉄道開業時に停留場であった。以後富山鉄道、富南鉄道、富山電気鉄道、富山地方鉄道に引き継がれ、1958年不二越駅に改称した。
- 79 磁化の強さと磁場の強さの比のことであり、磁化率ともいう。岩石では、磁鉄鉱など磁性鉱物の含有の程度により値が変化する。花崗岩は、 $4 \times 10^{-3}$ SI Unit 以下のチタン鉄鉱系花崗岩、 $5 \sim 20 \times 10^{-3}$ SI Unit 以上の磁鉄鉱系花崗岩に大別される。先山徹 2013「花崗岩の識別と帯磁率による産地同定」『御影石と中世の流通—石材識別と石造物の形態・分布—』高志書院。富山県産花崗岩のほとんどは磁鉄鉱系花崗岩である。
- 80 各岩石の帯磁率測定値は、古川知明 2015「岩石帯磁率による近世地域石材の分類（予察）」『富山市内石造物調査報告書Ⅳ』富山市教育委員会埋蔵文化財センター、長秋雄 2015「富山城石垣・高岡城石垣・金沢城石垣の帯磁率」『日本地質学会第122年学術大会講演要旨』による。
- 81 西井龍儀・久々忠義・古川知明 2012「越中における中・近世地域石材」『北陸の石造物—研究の現状と課題—』石造物研究会
- 82 古川知明 2016『富山藩主前田家墓所長岡御廟所石造物調査報告書』富山市教育委員会埋蔵文化財センター、長秋雄 2017「富山藩主前田家墓所長岡御廟所石造物使用石材の採石地比定」『論集 富山城研究』第1号 富山城研究会
- 83 庄川上流部支流利賀川に面する南砺市（利賀）脇谷周辺から産出する砂岩。庄川河川敷で転石とし獲得できる。『利賀村史』に紹介されている。古川知明 2015「岩石帯磁率による近世地域石材の分類（予察）」『富山市内石造物調査報告書Ⅳ』富山市教育委員会埋蔵文化財センターにおいて「庄川右岸産砂岩」として指摘されたものに該当する。脇谷石の詳細は注63参照。
- 84 大野 究 2012「越中西部の中世石造物」『北陸の石造物—研究の現状と課題—』石造物研究会
- 85 総曲輪校下歴史研究サークル編 2004『昭和20年空襲前の総曲輪校下』地図
- 86 富山市婦中町広田万藝寺奥様のご教示による。

石造物一覧(表 1-1, 1-2)掲載文献番号

番号	編著者名	発行年	論文報告名・書名	掲載書名	発行者
1	五百石区域小学校長会郷土史研究部	1935	五百石地方郷土史要		五百石区域小学校長会
2	京田良志・民俗サークル	1976	富山市石仏・石塔等調査中間報告書第1冊		富山市教育委員会
3	京田良志・民俗サークル	1978	富山市石仏・石塔等調査中間報告書第2冊		富山市教育委員会
4	京田良志・民俗サークル	1979	富山市石仏・石塔等調査中間報告書第3冊		富山市教育委員会
5	宮川村誌編纂委員会	1981	宮川村誌 通史編 上		宮川村
6	宮川村誌編纂委員会	1981	宮川村誌 通史編 下		宮川村
7	砺波市夫人ボランティア活動講座	1983	砺波市の石碑		砺波市教育委員会
8	太田郷土史編集委員会	1987	太田郷土史		太田自治振興会
9	婦中町婦人ボランティア講座ふるさと愛護教室	1989	ふるさと碑(ひ、いしぶみ)と拓本		婦中町教育委員会
10	清水幸一	1990	岩瀬の石碑	東岩瀬郷土史会会報別冊No.6	東岩瀬郷土史会
11	梅谷源三	1991	郷土の文化	五福郷土史	五福校下ふるさとづくり推進協議会
12	小杉町女性ボランティア講座いしぶみコース	1993	小杉町のいしぶみ 第二集		小杉町教育委員会
13	神明校下富山市合併五〇周年記念誌編集委員会	1994	神明郷土史		神明校下自振興会
14	山田村教育委員会	1996	復刻山田村郷土史		山田村教育委員会
15	富山県書道連盟	1997	富山県の石碑-各地区別・10種目区分による-		富山県書道連盟
16	尾田武雄	1998	富山県内の「石工銘の石造物」一覧補遺 1	北陸石仏の会研究紀要 第2号	北陸石仏の会
17	尾田武雄	1999	富山県の野にある狛犬	北陸石仏の会研究紀要 第3号	北陸石仏の会
18	広田開村三百年記念編纂委員会	2000	広田村史		広田村
19	柳瀬村史編集委員会	2000	柳瀬村史		柳瀬村史刊行委員会
20	豊田校下自治振興会	2003	豊田郷土史		豊田校下自治振興会
21	砺波市庄川町ボランティアたんぼぼグループ	2012	庄川町の石碑		砺波市庄川町ボランティアたんぼぼグループ
22	小林高範	2016	富山市南部の神社における参道狛犬について(1)	大山の歴史と民俗 第19号	大山歴史民俗研究会
23	小林高範	2017	富山市南部の神社における参道狛犬について(2)	大山の歴史と民俗 第20号	大山歴史民俗研究会
24	古川知明	2018	富山藩主前田家墓所長岡御廟所室子墓石造物調査報告書		富山石文化研究所
25	平井一雄	2020	無限軌道発明者「高松梅治」と建立石碑・文獻資料	大山の歴史と民俗 第23号	大山歴史民俗研究会
26	勝山敏一	2015	明治・行き当たりレンズ		桂書房
27	尾田武雄	2019	兵隊地藏	北陸石仏の会研究紀要 第12号	北陸石仏の会
28	砺波市教育委員会編		砺波市内神殿狛犬調査報告		砺波市教育委員会

表 1-1 桑原亀太郎在銘石造物一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記	共作者	石材	文献	備考
1	明治11	1878	石碑	自然石型	半割石	富山市岩瀬荒木町	桑原亀太郎	富山市	安山岩	3,10	「勝岡竹吉塚」顕彰碑。海蔵寺境内
2	明治12	1879	石碑	自然石型	半割石	富山市稲荷町4丁目	石亀	外惣曲輪	花崗岩	2	「常盤津文字末吉」顕彰碑
3	明治14	1881	石碑	自然石型	半割石	富山市塩	石亀	富山石工	花崗岩		名号塔。矢穴（江戸期？）あり
4	明治14	1881	石碑	駒型		富山市五福4区	桑原亀太郎	外惣曲輪	安山岩		「竹本田組太夫」顕彰碑
5	明治18	1883	石碑	自然石型	半割石	富山市八ヶ山	桑原亀太郎	富山惣曲輪	花崗岩		記念碑。真国寺参道入口
6	明治21	1888	石碑	自然石型	半割石	富山市岩瀬荒木町	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	3,10	「豊沢団寿」顕彰碑。海蔵寺境内
7	明治22	1889	狛犬			富山市婦中町中名	桑原亀太郎	富山石工	砂岩（猪谷石）		熊野神社境内
8	明治23	1890	石碑	自然石型	礪石	富山市八尾町三田	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩系		筆塚碑。神通川産？
9	明治25	1892	狛犬			富山市上袋	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩（猪谷石）		神明宮境内
10	明治26	1893	狛犬			富山市本郷中部	桑原亀太郎	石工	砂岩（来待石？）	17	二上神社境内。平成2年取替消滅
11	明治27	1894	狛犬			富山市八尾町武道原	桑原亀太郎	富山惣曲輪	砂岩（来待石）	22	春日社命題
12	明治28	1895	石碑	自然石型	礪石	富山市婦中町長沢	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩	15	戦没碑。稲荷社境内
13	明治28	1895	石碑	四角型		富山市町袋	桑原亀太郎	富山石工	安山岩	3	個人戦没碑
14	明治28	1895	石碑	自然石型	礪石	富山市山田湯	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩	14	個人戦没碑
15	明治29	1896	石碑	四角型		富山市海岸通	桑原亀太郎	富山市総曲輪	花崗岩		個人戦没碑。16が付属
16	明治29	1896	花立	六角柱形		富山市海岸通	石亀		安山岩		15に付属
17	明治29	1896	狛犬			立山町沢端	桑原亀太郎	富山市総曲輪	砂岩（猪谷石）		神明社境内
18	明治30	1897	石仏	笠付円盤形	聖観音菩薩	富山市城川原	桑原亀太郎	卜山	安川勇輔	20	笠は欠失
19	明治30	1897	石碑	自然石型	半割石	富山市太郎丸本町	桑原亀太郎	富山市石工	大熊山花崗閃緑岩		土宮神社境内。「征清軍人姓名名碑」従軍碑
20	明治30	1897	社標	自然石型	半割石	富山市八尾町三田	桑原亀太郎	富山市惣曲輪石工	安山岩？		白鳥神社境内
21	明治31	1898	狛犬			富山市八尾町下新町	桑原亀太郎	富山市惣曲輪	花崗岩		八幡社境内
22	明治31	1898	石碑	自然石型	礪石	富山市婦中町上井沢	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩（神通川石）		個人戦没碑。共同墓地
23	明治32	1899	石碑	自然石型	礪石	上市町新屋	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩		「越中志士萩中雲峯君苗名碑」顕彰碑
24	明治35	1902	石碑	自然石型	半割石	富山市境野新	石亀	富山石工	安山岩		戦没碑
25	明治35	1902	石碑	自然石型	板状	富山市婦中町笠倉	桑原亀太郎		不明		浅野家墓地内
26	明治36	1903	狛犬			富山市上袋	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩（猪谷石）		上袋神明社境内
27	明治37以降	1904	石碑	四角型		富山市婦中町小倉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		個人戦没碑
28	明治38以降	1905	石碑	四角型		富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		個人戦没碑
29	明治38以降	1905	石碑	四角型		富山市金屋	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		個人戦没碑
30	明治38以降	1905	石碑	四角型		富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		個人戦没碑
31	明治38	1905	燈籠	八角形		富山市岩瀬白山町	桑原亀太郎	富山市惣曲輪	花崗岩		常夜灯。諏訪神社境内
32	明治39	1906	石碑	四角型		富山市針原中町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	3	個人戦没碑
33	明治39	1906	石碑	四角型		富山市婦中町下色	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	15	日清・日露戦争2人戦没碑
34	明治39	1906	石碑	四角型		富山市四方	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		個人戦没碑
35	明治39	1906	石碑	四角型		上市町中江上	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		戦没碑。石工銘の前に「文字」
36	明治40	1907	石碑	自然石型	半割石	富山市婦中町広田	(桑原亀太郎)		砂岩（猪谷石）	18	34と一組、義勇奉公碑群、「庭師由川健太郎」
37	明治40	1907	石碑	自然石型	礪石	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩（猪谷石）	15,18	33と一組、義勇奉公碑群、（庭師由川健太郎）
38	明治40	1907	石碑	四角型		立山町湖上	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		顕彰碑。桂林寺横
39	明治40	1907	石碑	四角型		射水市戸破	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）	12	戦没碑。兜山公園
40	明治40	1907	狛犬			富山市婦中町外輪野	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
41	明治40	1907	狛犬			富山市岩瀬入船町	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩（鍛田石）		恵比寿社境内。銘草書体
42	明治41	1908	狛犬			富山市中老田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		加茂社境内
43	明治41	1908	狛犬			富山市太郎丸本町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		土宮神社境内
44	明治41	1908	石碑	方柱型		富山市八尾町城山	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	15	戦没碑。城山公園内
45	明治41	1908	社標			富山市泉町2丁目	桑原亀太郎	石工	花崗岩		金刀比羅社境内
46	明治41	1908	狛犬			射水市作道	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		道神社境内
47	明治41	1908	石碑	四角型		富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）	9,15,18	万聖寺境内
48	明治42	1909	石碑	自然石型	半割石	富山市八ヶ山	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩（猪谷石）	24	長岡御廟建鳥碑
49	明治42	1909	社標	方柱型		富山市四方	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		四方神社境内
50	明治42	1909	狛犬			富山市婦中町道島	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		牛嶽社境内
51	明治42	1909	石碑	縦板型		富山市婦中町羽根	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）	15	古里社境内、耕地整理記念碑
52	明治44	1911	石碑	四角型		富山市太田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		太田小学校敷地内。戦役記念
53	明治44	1911	石碑	方柱型		富山市太田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）	15	太田小学校敷地内。戦役忠魂碑
54	明治44	1911	石碑	四角型		立山町日中上野	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩（六甲御影）	1	顕彰碑
55	明治44	1911	狛犬			富山市大泉本町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		本泉社境内
56	明治44	1911	狛犬			砺波市東保	桑原亀太郎	富山市石工	緑色凝灰岩（笏谷石）	28	五社社境内
57	大正2	1913	鳥居	神明型		富山市上袋	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
58	大正2	1913	墓石	縦板型		富山市岩瀬天神町	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩（稲井石）		共同墓地
59	大正2	1913	石碑	縦板型		富山市磯部町	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩（稲井石）		富山県護国神社境内
60	大正3	1914	狛犬			富山市下堀	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩（八川石）		下堀八幡神社
61	大正3	1914	墓石			富山市岩瀬天神町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		共同墓地
62	大正4	1915	狛犬			富山市長附	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩（八川石）		神明宮境内
63	大正4	1915	燈籠	四角型		富山市婦中町朝日	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		朝日滝神社境内
64	大正4	1915	鳥居	明神型		舟橋村海老江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		熊野神社境内
65	大正4	1915	狛犬			富山市山王町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩（六甲御影）		日枝社境内。基礎は魚津町石工貫和隆次郎が製作
66	大正4	1915	鳥居	明神型		富山市婦中町安田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡社境内
67	大正4	1915	手水鉢			富山市八幡	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡社境内

表 1-1 桑原亀太郎在銘石造物一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記	共作者	石材	文献	備考
68	大正4	1915	手水鉢			富山市若瀬白山町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		諏訪社境内
69	大正4	1915	鳥居	神明型		富山市古沢	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
70	大正4	1915	石碑	縦板型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	15, 18	神明宮境内、耕地整理完工記念碑
71	大正5	1916	墓石	舟形	聖観音菩薩	富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩・花崗岩		安田安川塚墓地
72	大正5	1916	狛犬			富山市中町中田屋	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩(八川石)		杉原社境内
73	大正5	1916	鳥居	神明型		滑川市下柳尺	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		加積郷神社
74	大正5	1916	狛犬			高岡市上麻生	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		八幡社境内
75	大正6	1917	狛犬			富山市小黒	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		神明社境内
76	大正6	1917	狛犬			富山市中川原	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		神明社境内
77	大正6	1917	狛犬			射水市七美中野	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		神明社境内
78	大正6	1917	狛犬			立山町ニッ塚	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		神明社境内
79	大正6	1917	鳥居	神明型		立山町腹主坊	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		刀尾社境内
80	大正6	1917	石碑	縦板型		富山市黒崎	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		顕彰碑
81	大正6	1917	社標			富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡社境内
82	大正6	1917	石碑	縦板型		富山市太田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	8	の場の清水由来碑
83	大正6	1917	石碑	縦板型		立山町池田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	1	御大典記念
84	大正6	1917	石碑	縦板型		上市町眼目	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		墓碑
85	大正6	1917	石碑	縦板型		飛騨市宮川町桑野	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	5, 6	熊野社境内 追悼碑
86	大正7	1918	社標			富山市中町中田屋	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		杉原社境内
87	大正7	1918	狛犬			富山市八尾町福島	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		蔵王社境内
88	大正7	1918	鳥居	神明型		富山市吉作	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		貴船社境内
89	大正7	1918	狛犬			富山市粟島	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)	16	神明社境内
90	大正7	1918	鳥居	神明型		富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
91	大正7	1918	鳥居			富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	角閃石安山岩		神明社境内
92	大正7	1918	社標			富山市水橋開発	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		日吉社境内
93	大正7	1918	手水鉢			富山市中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	赤玉石		越乃社境内
94	大正7	1918	墓石			富山市上熊野	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		浄蓮寺住職墓
95	大正8	1919	狛犬			富山市町村	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		八室社境内
96	大正8	1919	狛犬			富山市杉谷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		八幡社境内
97	大正8	1919	鳥居	神明型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		天満宮境内
98	大正8	1919	石碑	縦板型	功勞碑	滑川市加島町	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	15	加積雪島神社境内
99	大正8	1919	社標	方柱型		滑川市下柳尺	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		加積郷神社境内
100	大正8	1919	石碑	自然石型	蹟石	滑川市下小泉町	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩	15	歌碑、寺家八坂社境内
101	大正8	1919	鳥居	神明型		富山市文殊寺	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		武部社境内
102	大正8	1919	鳥居	神明型		立山町虫谷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡宮境内
103	大正8	1919	鳥居	神明型		富山市窪本町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	16	八幡社境内
104	大正8	1919	石碑	縦板型		立山町上末	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	1	耕地整理記念
105	大正9	1920	燈籠	四角型		富山市杉谷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡社境内
106	大正9	1920	狛犬			富山市宮保	桑原亀太郎	富山市石工	安山岩(八川石)		熊野社境内
107	大正9	1920	石碑	縦板型		富山市有沢	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	11	有沢神明宮
108	大正9	1920	社標	方柱型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
109	大正9	1920	狛犬			富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		神明社境内
110	大正9	1920	狛犬			上市町女川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		薬師社境内、中型品
111	大正9	1920	社標	方柱型		富山市安養坊	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八幡社境内
112	大正10	1921	鳥居	神明型		富山市中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		越乃社境内
113	大正10	1921	社標	方柱型		富山市八尾町福島	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		蔵王社境内
114	大正10	1921	鳥居			射水市加茂	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)	17	加茂社境内
115	大正10	1921	石碑	縦板型		滑川市上島	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	15	顕彰碑
116	大正11	1922	狛犬			富山市町出	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		貴船社境内
117	大正11	1922	狛犬			富山市西二俣	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩(猪谷石)		日枝社境内、台座花崗岩
118	大正11	1922	狛犬			富山市八尾町石戸	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩(猪谷石)	22	
119	大正11	1922	狛犬			射水市殿村	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		殿村神社
120	大正11	1922	社標			富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
121	大正11	1922	手水鉢			富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
122	大正11	1922	石碑	方柱型		富山市四方	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		第1回国勢調査記念
123	大正11	1922	狛犬			砺波市東石丸	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		東石丸社境内
124	大正11	1922	石碑	縦板型		立山町大石原	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		戦没碑
125	大正12	1923	狛犬			立山町高原	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩(六甲御影)		天満宮境内
126	大正12	1923	鳥居	神明型		富山市山王町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		日枝社境内 鹿嶋神社
127	大正12	1923	石碑	縦板型		富山市八尾町杉田	桑原亀太郎	石匠	粘板岩(稲井石)		銀内用水記念碑
128	大正12	1923	石碑	縦板型		富山市下大久保	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		志魂碑
129	大正12	1923	石碑	縦板型		富山市中町中田屋	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		「大浦滋次郎碑」戦没碑
130	大正12	1923	石碑	縦板型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)	15, 18	万藝寺境内
131	大正13	1924	狛犬			富山市久郷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		日枝神社
132	大正13	1924	鳥居	神明型		富山市久郷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		日枝神社
133	大正13	1924	鳥居	神明型		立山町ニッ塚	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
134	大正13	1924	鳥居	神明型		富山市八尾町大杉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社参道、円柱型
135	大正13	1924	手水鉢			射水市殿村	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		殿村神社
136	大正13	1924	石碑	縦板型		富山市太田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		刀尾社参道入口
137	大正14	1925	石碑	縦板型		富山市八尾井田	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩(稲井石)		
138	大正14	1925	石碑	縦板型		富山市中町中田	桑原亀太郎	石工	粘板岩(稲井石)		
139	大正14	1925	社標			富山市奥田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	16	奥田社境内
140	大正14	1925	鳥居	神明型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明宮境内
141	大正14	1925	鳥居	神明型		富山市中町中田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		熊野社境内
142	大正14	1925	手水鉢			富山市片掛	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		八坂社境内
143	大正14	1925	鳥居	神明型		富山市上赤江2丁目	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		三川社境内

表 1-1 桑原亀太郎在銘石造物一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記	共作者	石材	文献	備考
144	大正15	1926	鳥居	明神型		富山市八尾町井田	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩		白山社境内
145	大正15	1926	社標			富山市八尾町井田	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩		白山社境内
146	大正15	1926	石碑	縦板型		富山市古沢	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩（稲井石）		記念碑。神明社境内。
147	大正15	1926	狛犬			上市町西種	桑原亀太郎	富山市鑄工	花崗岩（六甲御影）		白山神社
148	昭和2	1927	石碑	縦板型		富山市八尾町石戸	桑原亀太郎	富山市石匠	粘板岩（稲井石）		記念碑。八坂社
149	昭和3	1928	石碑	造形型	刀形浮彫	富山市安養坊	桑原亀山（亀は象形字形）		花崗岩（六甲御影）		「刀工則重碑」記念碑。旧地から移転
150	昭和3	1928	石碑	縦板型		富山市岩瀬天神町	石亀	石工	粘板岩（稲井石）	10	共同墓地。「竹本鶴登代」記念碑
151	昭和3	1928	社標	方柱型		富山市西宮	桑原亀太郎	工匠	花崗岩		西宮神社境内
152	昭和3	1928	手水鉢			富山市婦中町小泉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩		神明社境内
153	昭和3	1928	鳥居	神明型		富山市八尾町新田	桑原亀山	石匠	花崗岩		神明社境内
154	昭和5	1930	石碑	縦板型		富山市南栗山	桑原亀山	石匠	粘板岩（稲井石）	25	「高松梅治碑」記念碑
155	昭和6	1931	鳥居	神明型		富山市岩瀬荒木町	桑原亀山（亀は象形字形）	富山石工	花崗岩		琴平神社境内
156	不明	1905以降	石碑	縦板型		砺波市柳瀬	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩（稲井石）	7, 19	忠魂碑（大）。比売神社。追刻あり
157	不明	1905以降	石碑	縦板型		砺波市柳瀬	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩（稲井石）	7, 19	忠魂碑（小）。比売神社
158	不明		狛犬			富山市婦中町笹倉	桑原亀太郎	富山石工	砂岩（猪谷石）	17	笹倉神社

表 1-2 桑原亀太郎推定石造物一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石材	文献	備考
159	明治8	1875	手水鉢			富山市岩瀬荒木町	花崗岩		琴平神社境内
160	明治12	1879	狛犬			富山市岩瀬荒木町	砂岩・花崗岩		琴平神社境内
161	明治22	1889	燈籠	四角型		富山市婦中町中名	安山岩		熊野神社境内
162	明治28	1895	石碑	自然石型	半割石	砺波市庄川町金屋	安山岩	18	神明宮境内、戦没碑
163	明治38	1905	狛犬			立山町座主坊	花崗岩		刀尾社境内
164	明治39	1906	狛犬			富山市経田	安山岩		八幡社境内
165	明治39	1906	石碑	四角型		富山市高島	花崗岩	3	戦没碑
166	明治39	1906	石碑	四角型		富山市金屋	花崗岩		戦没碑
167	明治39	1906	石碑	四角型		富山市金屋	花崗岩		戦没碑
168	明治39	1906	石碑	四角型		富山市羽根	花崗岩		戦没碑
169	明治39	1906	石碑	舟形	兵士像	富山市婦中町田島	本体安山岩（立山天狗山石）・副碑安山岩	26・27	戦没碑
170	明治39	1906	石碑	丸彫	兵士像	富山市婦中町田島	本体砂岩（猪谷石）・副碑花崗岩	26・27	戦没碑
171	明治40	1907	石碑	四角型		富山市町袋	花崗岩	3	戦没碑（2人）
172	明治40	1907	狛犬			富山市婦中町安田	安山岩		八幡社境内
173	明治41	1908	石仏	舟形	地藏菩薩	富山市古沢	安山岩		
174	明治42	1909	手水鉢			富山市婦中町笹倉	花崗岩		笹倉神社境内
175	明治42	1909	狛犬	小型		富山市婦中町下嚮田	緑色凝灰岩（笏谷石）		八幡宮本殿前奉納品
176	明治43	1910	狛犬			富山市黒瀬	安山岩		日宮社境内
177	明治44	1911	燈籠			富山市友杉	安山岩		八幡社境内
178	明治45	1912	狛犬	小型		富山市布尻	緑色凝灰岩（笏谷石）	20	布尻神社境内
179	大正3	1914	狛犬			富山市吉岡	安山岩		梅尾社境内
180	大正4	1915	狛犬			富山市五福	花崗岩		熊野神社境内
181	大正9	1920	狛犬	中型		富山市婦中町板倉	安山岩		八幡宮境内
182	大正12	1923	狛犬			射水市浄土寺	花崗岩		八幡社境内
183	大正13	1924	社標			高岡市戸出岡御所	花崗岩		岡部神社境内
184	大正13	1924	狛犬			高岡市戸出岡御所	花崗岩		岡部神社境内
185	大正13	1924	手水鉢			高岡市戸出岡御所	花崗岩		岡部神社境内
186	大正13	1924	手水鉢	自然石型	忠魂碑	富山市下大久保	安山岩		日露戦争従軍者
187	大正14	1925	狛犬			富山市婦中町速星	花崗岩	22	坪野神明社境内
188	大正15	1926	手水鉢	自然石型		富山市高屋敷	安山岩		神明宮境内
189	昭和3	1928	狛犬			滑川市上小泉	花崗岩		白山社境内
190	昭和3	1928	竿立			砺波市東石丸	花崗岩		東石丸社境内
191	不明		石仏	丸彫地藏		富山市大泉3丁目	安山岩		高源禪寺門前
192	不明		石仏	舟形地藏		射水市北二ツ屋	安山岩		
193	不明		石仏	丸彫地藏		射水市青井谷	砂岩（猪谷石）		
194	不明		手水鉢	自然石		富山市婦中町広田	砂岩（猪谷石）		神明宮境内
195	不明		手水鉢	自然石		富山市八尾町石戸	安山岩		八坂社境内
196	不明		手水鉢			射水市作道	花崗岩		道神社
197	不明		狛犬			富山市吉倉	安山岩？		吉倉八幡社本殿前

表 1-3 石碑【自然石型・駒型】一覧

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
1	明治11	1878	石碑	自然石型	半割石	富山市岩瀬荒木町	桑原亀太郎	富山市	安山岩		八川石	「勝岡竹吉塚」顕彰碑。海蔵寺境内
2	明治12	1879	石碑	自然石型	半割石	富山市稲荷町4丁目	石亀	外惣曲輪	花崗岩	8.76	早月川花崗岩	「常盤津文字末吉」顕彰碑
3	明治14	1881	石碑	自然石型	半割石	富山市塩	石亀	富山石工	花崗岩			名号塔。矢穴あり
4	明治14	1881	石碑	駒型		富山市五福4区	桑原亀太郎	外惣曲輪	安山岩		八川石	「竹本組太夫」顕彰碑
5	明治16	1883	石碑	自然石型	半割石	富山市八ヶ山	桑原亀太郎	富山惣曲輪	花崗岩	9.73	早月川花崗岩	「聖澤先生碑」顕彰碑。真国寺参道入口
6	明治21	1888	石碑	自然石型	半割石	富山市岩瀬荒木町	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	8.74	早月川花崗岩	「豊沢田寿」顕彰碑。海蔵寺境内
8	明治23	1890	石碑	自然石型	礫石	富山市八尾町三田	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩系			筆塚碑。神通川産？
12	明治28	1895	石碑	自然石型	礫石	富山市婦中町長沢	桑原亀太郎	富山石工	安山岩			戦没碑。稲荷社境内
14	明治28	1895	石碑	自然石型	礫石	富山市山田湯	桑原亀太郎	富山石工	安山岩			戦没碑
19	明治30	1897	石碑	自然石型	半割石	富山市太郎丸本町	桑原亀太郎	富山石工	閃緑岩	0.45	大熊山花崗閃緑岩	土宮神社境内。「征清軍人姓名碑」従軍碑
22	明治31	1898	石碑	自然石型	礫石	富山市婦中町上井沢	桑原亀太郎	富山石工	安山岩		神通川石	戦没碑。共同墓地
23	明治32	1899	石碑	自然石型	礫石	富山市境野新	桑原亀太郎	富山石工	安山岩			戦没碑
24	明治35	1902	石碑	自然石型	半割石	富山市境野新	石亀	富山石工	安山岩			戦没碑
36	明治40	1907	石碑	自然石型	半割石	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山石工	砂岩	2.3	猪谷石	義勇奉公碑群。庭師由川健太郎
37	明治40	1907	石碑	自然石型	礫石	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山石工	砂岩	1.6	猪谷石	義勇奉公碑群。庭師由川健太郎
48	明治42	1909	石碑	自然石型	半割石	富山市八ヶ山	桑原亀太郎	富山石工	砂岩		猪谷石	長岡御建鳥居碑
100	大正8	1919	石碑	自然石型	礫石	滑川市下小泉町	桑原亀太郎	富山石工	安山岩			歌碑。寺家八坂社境内
推定品												
162	明治28	1895	石碑	自然石型	半割石	砺波市庄川町金屋			安山岩			神明宮境内。戦没碑

表 1-4 石碑【四角型】一覧

番号	和暦	西暦	種別	形態1	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
13	明治28	1895	石碑	四角型	富山市町袋	桑原亀太郎	富山石工	安山岩	20.28	八川石	戦没碑
15	明治29	1896	石碑	四角型	富山市海岸通	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	9.9	早月川花崗岩	戦没碑
27	明治37以降	1904	石碑	四角型	富山市婦中町小倉	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	0.15	六甲御影石	戦没碑
28	明治38以降	1905	石碑	四角型	富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	1.01/8.2	六甲御影石、早月川花崗岩	戦没碑
29	明治38以降	1905	石碑	四角型	富山市金屋	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	10.03	早月川花崗岩	戦没碑
30	明治38以降	1905	石碑	四角型	富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	10.4	早月川花崗岩	戦没碑
32	明治39	1906	石碑	四角型	富山市針原中町	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	8.28/1.27	早月川花崗岩、六甲御影石	戦没碑
33	明治39	1906	石碑	四角型	富山市婦中町下邑	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	1.15	六甲御影石	戦没碑
34	明治39	1906	石碑	四角型	富山市四方	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	9.88	早月川花崗岩	戦没碑
35	明治39	1906	石碑	四角型	上市町中江上	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	10.35	早月川花崗岩	戦没碑。石工銘の前に「文字」
38	明治40	1907	石碑	四角型	立山町測上	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	7.75	早月川花崗岩	頌徳碑。桂林寺横
39	明治40	1907	石碑	四角型	射水市戸破	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	0.19	六甲御影石	戦没碑。兜山公園内
47	明治41	1908	石碑	四角型	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	1.14	六甲御影石	清水巧雲氏頌徳碑。万藝寺境内
52	明治44	1911	石碑	四角型	富山市太田	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	0.12	六甲御影石	太田小学校敷地内。戦没碑
54	明治44	1911	石碑	四角型	立山町日中上野	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	1.08	六甲御影石	「土肥翁壽塚」顕彰碑
推定品											
165	明治39	1906	石碑	四角型	富山市高島			花崗岩	8.35	早月川花崗岩	戦没碑
166	明治39	1906	石碑	四角型	富山市金屋			花崗岩		早月川花崗岩	戦没碑
167	明治39	1906	石碑	四角型	富山市金屋			花崗岩		早月川花崗岩	戦没碑
168	明治39	1906	石碑	四角型	富山市羽根			花崗岩	8.58	早月川花崗岩	戦没碑
171	明治40	1907	石碑	四角型	富山市町袋			花崗岩	10.16	早月川花崗岩	戦没碑

表 1-5 石碑【方柱型】一覧

番号	和暦	西暦	種別	形態1	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
44	明治41	1908	石碑	方柱型	富山市八尾町城山	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	0.14	六甲御影石	戦没碑。城山公園内
53	明治44	1911	石碑	方柱型	富山市太田	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	1.5	六甲御影石	太田小学校敷地内。忠魂碑
122	大正11	1922	石碑	方柱型	富山市四方	桑原亀太郎	富山石工	花崗岩	0.29	六甲御影石	第1回国勢調査記念碑

表 1-6 石碑【板状型・縦板型】一覧

番号	和暦	西暦	種別	形態1	所在地	石工銘表記		石材	判定	備考
25	明治35	1902	石碑	板状型	富山市婦中町笹倉	桑原亀太郎		不明		浅野家墓地内
51	明治42	1909	石碑	縦板型	富山市婦中町羽根	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	古里神社境内。耕地整理記念碑
59	大正2	1913	石碑	縦板型	富山市磯部町	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	富山県護国神社境内
70	大正4	1915	石碑	縦板型	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	神明宮境内。耕地整理完工記念碑
80	大正6	1917	石碑	縦板型	富山市浜黒崎	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	「吉田鉄一郎先生謝恩碑」
82	大正6	1917	石碑	縦板型	富山市太田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	的場の清水由来碑
83	大正6	1917	石碑	縦板型	立山町池田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	御大典記念
84	大正6	1917	石碑	縦板型	上市町眼目	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	墓碑
85	大正6	1917	石碑	縦板型	飛騨市宮川町桑野	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	熊野神社境内 戦没碑
98	大正8	1919	石碑	縦板型	滑川市加島町	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	檜坂栄一氏顕彰碑。加積雪島神社境内
104	大正8	1919	石碑	縦板型	立山町上末	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	耕地整理記念碑
107	大正9	1920	石碑	縦板型	富山市有沢	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	「有沢神明社靈太之記」碑
115	大正10	1921	石碑	縦板型	滑川市上島	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	「中川勘太郎翁碑」頌徳碑
124	大正11	1922	石碑	縦板型	立山町大石原	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	戦没碑
127	大正12	1923	石碑	縦板型	富山市八尾町杉田	桑原亀太郎	石匠	粘板岩	稲井石	銀納用水記念碑
128	大正12	1923	石碑	縦板型	富山市下大久保	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	忠魂碑
129	大正12	1923	石碑	縦板型	富山市婦中町田屋	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	戦没碑
130	大正12	1923	石碑	縦板型	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	清水巧庵氏表彰碑。万藝寺境内
136	大正13	1924	石碑	縦板型	富山市太田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	刀尾神社「合婚記念碑」。参道入口
137	大正14	1925	石碑	縦板型	富山市八尾井田	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	記念碑
138	大正14	1925	石碑	縦板型	富山市婦中町砂子田	桑原亀太郎	石工	粘板岩	稲井石	耕地整理記念碑
146	大正15	1926	石碑	縦板型	富山市古沢	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	古沢用水記念碑。神明社境内。
148	昭和2	1927	石碑	縦板型	富山市八尾町石戸	桑原亀太郎	富山石匠	粘板岩	稲井石	耕地整理記念碑。八坂社境内
150	昭和3	1928	石碑	縦板型	富山市岩瀬天神町	石亀	石工	粘板岩	稲井石	共同墓地。「竹本鶴登代」顕彰碑
153	昭和5	1930	石碑	縦板型	富山市南栗山	桑原亀太郎	石匠	粘板岩	稲井石	「高松梅治碑」顕彰碑
156	不明	1905以降	石碑	縦板型	砺波市柳瀬	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	忠魂碑(大)。比賣神社。追刻あり
157	不明	1905以降	石碑	縦板型	砺波市柳瀬	桑原亀太郎	富山石工	粘板岩	稲井石	忠魂碑(小)。比賣神社。追刻あり

表 1-7 石碑【造形型】一覧

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記	石材	帯磁率	判定	備考
149	昭和3	1928	石碑	造形型	刀形浮彫	富山市安養坊	桑原亀山(亀は象形字形)	花崗岩	0.05	六甲御影石	「刀工則重碑」記念碑。旧地から移転
168	明治39	1906	石碑	舟形	兵士像	富山市婦中町田島		本体安山岩・副碑安山岩		本体立山天狗山石	戦没碑
169	明治39	1906	石碑	丸彫	兵士像	富山市婦中町田島		本体砂岩・副碑花崗岩		本体猪谷石	戦没碑

表 1-8 狛犬一覧

番号	和暦	西暦	種別	所在地	石工銘表記	石材	帯磁率	判定	備考		
7	明治22	1889	狛犬	富山市婦中町中名	桑原亀太郎	富山石工		0.38	猪谷石	熊野神社境内	
9	明治25	1892	狛犬	富山市上柴	桑原亀太郎			0.16	猪谷石	神明宮	
10	明治26	1893	狛犬	富山市本郷中部	桑原亀太郎	石工				二上神社境内。平成2年取替消滅	
11	明治27	1894	狛犬	富山市八尾町武道原	桑原亀太郎	富山惣曲輪		25.7	来待石	春日社境内	
17	明治29	1896	狛犬	立山町沢端	桑原亀太郎	富山市総曲輪		0.13	猪谷石	神明社境内	
21	明治31	1898	狛犬	富山市八尾町下新町	桑原亀太郎	富山市惣曲輪		9.2	早月川花崗岩	八幡社境内	
26	明治36	1903	狛犬	富山市上袋	桑原亀太郎	富山市石工		0.27	猪谷石	上袋神明社境内	
40	明治40	1907	狛犬	富山市婦中町外輪野	桑原亀太郎	富山市石工		1.3	六甲御影石	神明社境内	
41	明治40	1907	狛犬	富山市岩瀬入船町	桑原亀太郎	富山市石工		0.09	藪田石	恵比寿社境内、銘草書体	
42	明治41	1908	狛犬	富山市中老田	桑原亀太郎	富山市石工		1.24	六甲御影石	加茂社境内	
43	明治41	1908	狛犬	富山市太郎丸本町	桑原亀太郎	富山市石工		0.18	六甲御影石	土宮神社境内	
46	明治41	1908	狛犬	射水市作道	桑原亀太郎	富山市石工		0.09	六甲御影石	道神社境内	
50	明治42	1909	狛犬	富山市婦中町道島	桑原亀太郎	富山市石工		0.82	六甲御影石	牛嶽社境内	
55	明治44	1911	狛犬	富山市大泉本町	桑原亀太郎	富山市石工		0.11	六甲御影石	本泉神社境内	
56	明治44	1911	狛犬	砺波市東保	桑原亀太郎	富山市石工		4.6, 5.3	笏谷石	五社神社	
60	大正3	1914	狛犬	富山市下堀	桑原亀太郎	富山市石工			八川石	下堀八幡神社	
62	大正4	1915	狛犬	富山市長附	桑原亀太郎	富山市石匠			八川石	神明宮境内	
65	大正4	1915	狛犬	富山市山王町	桑原亀太郎	富山市石工		0.14	六甲御影石、早月川花崗岩	日枝社境内、基礎は魚津町石工貫和捨次郎が製作	
72	大正5	1916	狛犬	富山市婦中町田屋	桑原亀太郎	富山市石工			八川石	杉原神社境内	
74	大正5	1916	狛犬	高岡市上麻生	桑原亀太郎	富山市石工		0.14	六甲御影石	八幡社境内	
75	大正6	1917	狛犬	富山市小黒	桑原亀太郎	富山市石工		0.18	六甲御影石	神明社境内	
76	大正6	1917	狛犬	富山市中川原	桑原亀太郎	富山市石工		0.2	六甲御影石	神明社境内	
77	大正6	1917	狛犬	射水市七美中野	桑原亀太郎	富山市石工		0.45	六甲御影石	神明社境内	
78	大正6	1917	狛犬	立山町二ッ塚	桑原亀太郎	富山市石工		0.16	六甲御影石	神明社境内	
87	大正7	1918	狛犬	富山市八尾町福島	桑原亀太郎	富山市石工		0.39	六甲御影石	蔵王社境内	
89	大正7	1918	狛犬	富山市粟島	桑原亀太郎	富山市石工		0.14	六甲御影石	神明社境内	
91	大正7	1918	狛犬	富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工			角閃石安山岩	神明社境内	
95	大正8	1919	狛犬	富山市町村	桑原亀太郎	富山市石工		0.13	六甲御影石	山室神社境内	
96	大正8	1919	狛犬	富山市杉谷	桑原亀太郎	富山市石工		0.17	六甲御影石	八幡社境内	
106	大正9	1920	狛犬	富山市宮保	桑原亀太郎	富山市石工			八川石	熊野神社境内	
109	大正9	1920	狛犬	富山市婦中町小泉	桑原亀太郎	富山市石工		0.14	六甲御影石	神明社境内	
110	大正9	1920	狛犬	上市町女川	桑原亀太郎	富山市石工		0.01	六甲御影石	薬師神社境内、小型品	
114	大正10	1921	狛犬	射水市加茂	桑原亀太郎	富山市石工		0.2	六甲御影石	加茂社境内	
116	大正11	1922	狛犬	富山市打出	桑原亀太郎	富山市石工		0.1	六甲御影石	貴船社境内	
117	大正11	1922	狛犬	富山市西二俣	桑原亀太郎	富山市石工		0.08	猪谷石	日枝社境内、台座花崗岩	
118	大正11	1922	狛犬	富山市八尾町石戸	桑原亀太郎	富山市石工		0.08	猪谷石	八坂社境内	
119	大正11	1922	狛犬	射水市殿村	桑原亀太郎	富山市石工		0.82	六甲御影石	殿村社境内	
123	大正11	1922	狛犬	砺波市東石丸	桑原亀太郎	富山市石工		0.08	六甲御影石	東石丸社境内	
125	大正12	1923	狛犬	立山町高原	桑原亀太郎	富山市石工		0.1	六甲御影石	天満宮境内	
131	大正13	1924	狛犬	富山市久郷	桑原亀太郎	富山市石工		0.34	六甲御影石	日枝社境内	
147	大正15	1926	狛犬	上市町西種	桑原亀太郎	富山市鑄工		0.16	六甲御影石	白山社境内	
158	不明		狛犬	富山市婦中町笹倉	桑原亀太郎	富山石工		0.32	猪谷石	笹倉社境内	
<b>推定品</b>											
160	明治12	1879	狛犬	富山市岩瀬荒木町				0.31	六甲御影石	琴平社境内	
163	明治38	1905	狛犬	立山町座主坊				17.3	早月川花崗岩	刀尾宮境内	
164	明治39	1906	狛犬	富山市経田					安山岩	立山天狗山石、八川石	
172	明治40	1907	狛犬	富山市婦中町安田					安山岩	八川石	
175	明治42	1909	狛犬	富山市下嚮田				6.52	笏谷石	八幡宮本殿前	
176	明治43	1910	狛犬	富山市黒瀬					安山岩	日宮社境内	
178	明治45	1912	狛犬	富山市布尻				7.2	笏谷石	布尻神社本殿前	
179	大正3	1914	狛犬	富山市吉岡					安山岩	梅尾社境内	
180	大正4	1915	狛犬	富山市五福				0.43	六甲御影石	熊野神社境内	
181	大正9	1920	狛犬	富山市婦中町板倉					安山岩	八川石	
182	大正12	1923	狛犬	射水市浄土寺				0.06	六甲御影石	八幡社境内	
184	大正13	1924	狛犬	高岡市戸出岡所				0.13	六甲御影石	岡部社境内	
187	大正14	1925	狛犬	富山市婦中町速星				0.34	六甲御影石	坪野神社	
189	昭和3	1928	狛犬	滑川市上小泉				0.15	六甲御影石	白山社境内	
197	不明		狛犬	富山市吉倉					安山岩?	吉倉八幡宮本殿	

表 1-9 鳥居一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	扁額(縁文様)	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
57	大正2	1913	鳥居	神明	—	富山市上袋	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩	0.15	六甲御影石	神明社境内
64	大正4	1915	鳥居	神明	—	舟橋村海老江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.27	六甲御影石	熊野神社境内
66	大正4	1915	鳥居	神明	変形花頭形	富山市婦中町安田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.15	六甲御影石	八幡社境内
69	大正4	1915	鳥居	神明	—	富山市古沢	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.55	六甲御影石	神明社境内
73	大正5	1916	鳥居	神明	花頭形	滑川市下梅沢	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.18	六甲御影石	加積郷神社境内
79	大正6	1917	鳥居	神明	花頭形	立山町座主坊	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.16	六甲御影石	刀尾宮境内
88	大正7	1918	鳥居	神明	変形花頭形	富山市吉作	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.15	六甲御影石	貴船神社境内
90	大正7	1918	鳥居	神明	—	富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.15	六甲御影石	神明社境内
97	大正8	1919	鳥居	神明	—	富山市婦中町余川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.11	六甲御影石	天満宮境内
101	大正8	1919	鳥居	神明	花頭形	富山市文珠寺	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.09	六甲御影石	武部神社境内
102	大正8	1919	鳥居	神明	花頭形	立山町虫谷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.12	六甲御影石	八幡宮境内
103	大正8	1919	鳥居	神明	花頭形	富山市窪本町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.11	六甲御影石	八幡社境内
112	大正10	1921	鳥居	神明	変形花頭形	富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.1	六甲御影石	越乃神社境内
126	大正12	1923	鳥居	神明	花頭形	富山市山王町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.12	六甲御影石	日枝社境内 鹿香神社境内
132	大正13	1924	鳥居	神明	花頭形【銅製】	富山市久郷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.14	六甲御影石	日枝社境内
133	大正13	1924	鳥居	神明	—	立山町二ッ塚	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.35	六甲御影石	神明社境内
134	大正13	1924	鳥居	神明	—	富山市八尾町大杉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.1	六甲御影石	神明社参道、円柱型
140	大正14	1925	鳥居	神明	—	富山市婦中町広田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.43	六甲御影石	神明宮境内
141	大正14	1925	鳥居	神明	変形花頭形	富山市婦中町中名	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.11	六甲御影石	熊野神社境内
143	大正14	1925	鳥居	神明	—	富山市上赤江2丁目	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.21	六甲御影石	三川社境内
144	大正15	1926	鳥居	神明	—	富山市八尾町井田	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩	0.16	六甲御影石	白山社境内
153	昭和3	1928	鳥居	神明	—	富山市八尾町新田	桑原亀山 石匠	富山市石工	花崗岩	1.17	六甲御影石	神明社境内
155	昭和6	1931	鳥居	神明	変形花頭形	富山市岩瀬荒木町	桑原亀山(亀は象形字形)	富山石工	花崗岩	0.04	六甲御影石	琴平神社境内

表 1-10 社標一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
20	明治30	1897	社標	自然石型	半割石	富山市八尾町三田	桑原亀太郎	富山市惣曲輪石工	安山岩?	43		白鳥神社
45	明治41	1908	社標	方柱型		富山市泉町2丁目	桑原亀太郎	石工	花崗岩	0.24	六甲御影石	金刀比羅神社境内
49	明治42	1909	社標	方柱型	138°	富山市四方	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	1.42	六甲御影石	四方社境内
81	大正6	1917	社標	方柱型	130°	富山市婦中町安田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.18	六甲御影石	八幡社境内
86	大正7	1918	社標	方柱型	140°	富山市婦中町田屋	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.14	六甲御影石	杉原神社境内
92	大正7	1918	社標	方柱型	135°	富山市水橋開発	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.2	六甲御影石	目吉神社境内
99	大正8	1919	社標	方柱型	140°	滑川市下梅沢	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	1.41	六甲御影石	加積郷神社境内
108	大正9	1920	社標	方柱型	140°	富山市婦中町小泉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.17	六甲御影石	神明社境内
111	大正9	1920	社標	方柱型	145°	富山市安養坊	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.08	六甲御影石	八幡社境内
113	大正10	1921	社標	方柱型	155°	富山市八尾町福島	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.14	六甲御影石	蔵王社境内
120	大正11	1922	社標	方柱型	140°	富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.13	六甲御影石	神明社境内
139	大正14	1925	社標	方柱型	150°	富山市奥田	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	2.8	六甲御影石	奥田神社境内
145	大正15	1926	社標	方柱型	140°	富山市八尾町井田	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩	0.1	六甲御影石	白山社境内
151	昭和3	1928	社標	方柱型	145°	富山市西宮	桑原亀太郎	工匠	花崗岩	0.86	六甲御影石	西宮神社境内

推定品

183	大正13	1924	社標	方柱型		高岡市戸出岡御所			花崗岩	0.14	六甲御影石	岡部神社境内
-----	------	------	----	-----	--	----------	--	--	-----	------	-------	--------

表 1-11 手水鉢一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
67	大正4	1915	手水鉢	箱形		富山市八幡	桑原亀太郎	富山市石匠	花崗岩	0.24	六甲御影石	八幡社境内
68	大正4	1915	手水鉢	箱形		富山市岩瀬白山町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.25	六甲御影石	諏訪社境内
93	大正7	1918	手水鉢	自然石		富山市婦中町下吉川	桑原亀太郎	富山市石工	赤玉石			越乃社境内
121	大正11	1922	手水鉢	箱形		富山市下赤江	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.1	六甲御影石	神明社境内
135	大正13	1924	手水鉢	箱形		射水市殿村	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.11	六甲御影石	殿村神社境内
142	大正14	1925	手水鉢	箱形		富山市片掛	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.25	六甲御影石	八坂社境内
152	昭和3	1928	手水鉢	箱形		富山市小泉	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.25	六甲御影石	神明社境内

推定品

159	明治8	1875	手水鉢	箱形		富山市岩瀬荒木町			花崗岩	0.24	六甲御影石	琴平神社境内
174	明治42	1909	手水鉢	箱形		富山市婦中町笹倉			花崗岩	0.15	六甲御影石	笹倉神社境内
185	大正13	1924	手水鉢	箱形		高岡市戸出岡御所			花崗岩	0.12	六甲御影石	岡部神社境内
186	大正13	1924	手水鉢	自然石	忠魂碑付属	富山市下大久保			安山岩			日露戦争従軍者
188	大正15	1926	手水鉢	自然石		富山市高屋敷			安山岩			神明宮境内
194	不明		手水鉢	自然石		富山市婦中町広田			砂岩	0.17	猪谷石	神明宮境内
195	不明		手水鉢	自然石		富山市八尾町石戸			安山岩			八坂社境内
196	不明		手水鉢	箱形		射水市作道			花崗岩	0.11	六甲御影石	道神社境内

表 1-12 燈籠一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
31	明治38	1905	燈籠	八角形		富山市岩瀬白山町	桑原亀太郎	富山市惣曲輪	花崗岩	0.16	六甲御影石	諏訪社境内。常夜灯
63	大正4	1915	燈籠	四角型	神明形	富山市婦中町朝日	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	1.2	六甲御影石	朝日庵社境内
105	大正9	1920	燈籠	四角型	神明形	富山市杉谷	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.17	六甲御影石	八幡社境内

推定品

161	明治22	1889	燈籠	四角型	神明形	富山市婦中町中名			安山岩		八川石	熊野神社境内
177	明治44	1911	燈籠	四角型	神明形	富山市友杉			安山岩		八川石	八幡社境内

表 1-13 墓石一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
58	大正2	1913	墓石	縦板型		富山市岩瀬天神町	桑原亀太郎	富山市石工	粘板岩		稲井石	共同墓地
61	大正3	1914	墓石			富山市岩瀬天神町	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.3	六甲御影石	共同墓地
71	大正5	1916	墓石	舟形	聖観音	富山市婦中町安田	桑原亀太郎	富山市石工	砂岩/花崗岩	0.12/1.5	猪谷石/六甲御影石	安田安川家墓地
64	大正7	1918	墓石	無縫塔		富山市上熊野	桑原亀太郎	富山市石工	花崗岩	0.15	美濃産?	浄蓮寺境内住職墓

表 1-14 石仏一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	形態2	所在地	石工銘表記		石材	帯磁率	判定	備考
18	明治30	1897	石仏	笠付円盤形	聖観音菩薩	富山市城川原	桑原亀太郎・安川勇輔		卜山	砂岩	0.05	猪谷石 笠は欠失
推定品												
173	明治41	1908	石仏	舟形	地藏菩薩	富山市古沢				安山岩		八川石
191	不明		石仏	丸彫	地藏菩薩	富山市大泉3丁目				安山岩		八川石 高源禅寺門前
192	不明		石仏	舟形	地藏菩薩	射水市北二ツ屋				安山岩		八川石
193	不明		石仏	丸彫	地藏菩薩	射水市青井谷				砂岩		猪谷石

表 1-15 花立・竿立一覽

番号	和暦	西暦	種別	形態1	所在地	石工銘表記	石材	帯磁率	判定	備考
16	明治29	1896	花立	六角柱形	富山市海岸通	石亀	安山岩		八川石	15に付属
189	不明		竿立	四角形	砺波市東石丸		花崗岩	0.03	六甲御影石	一對。東石丸神社境内

## Abstract

"Kuwahara Kametaro", who lived in Toyama City, Toyama Prefecture, Japan, is a mason who has been producing for over 50 years between the early Meiji era and the early Showa era.

The production studio was owned by Sogawa in the city of Toyama and also served as a store. The store name was "Ishigame". He gave himself a pseudonym as "Kameyama" in his later years.

He created 193 stone structures. Of these, 155 have masonry inscriptions.

There are 10 types of stone structures such as stone monuments, guardian dogs at Shinto shrine, torii gates, lanterns, tombstones, and stone Buddha statues.

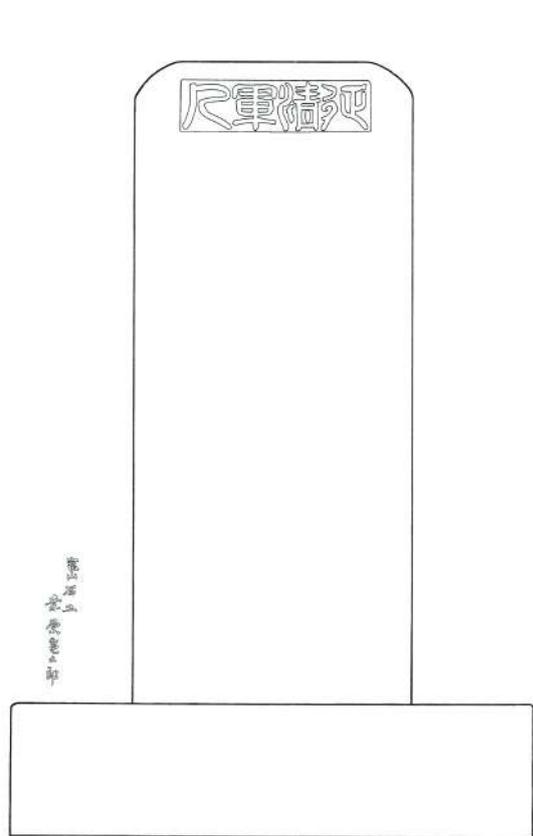
What he is most good at is the various stone structures set up in the shrine's precincts. Among them, the guardian dog has a muscular physique, and that face and tail show his unique characteristics.

He also made various forms of monuments, such as memorials to soldiers who died in the war and honoring monuments to celebrities who have made achievements. Among them, the rectangular plate-shaped monument shows his unique sculptural beauty.

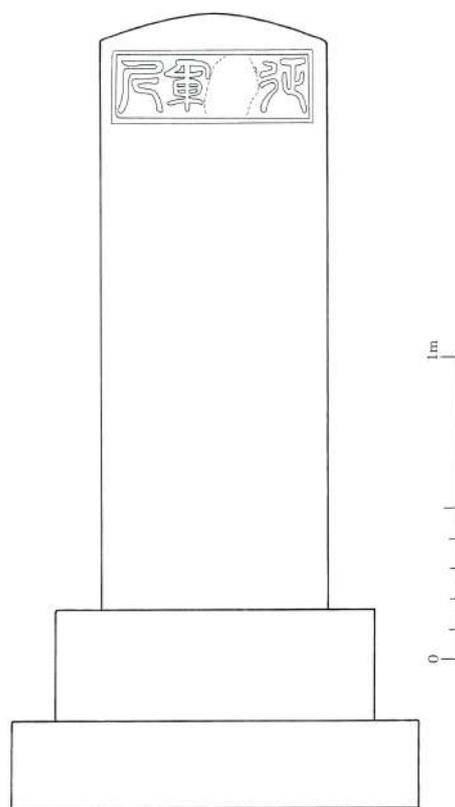
As for the stone material, he used the most granite from Mt. Rokko. Next, he used Inai stone from Miyagi prefecture, and andesite and granite from Toyama prefecture.

During his active career, there were about 110 masons in Toyama City. Of these, he produced the most stone structures and was the most skilled and aesthetically pleasing mason.

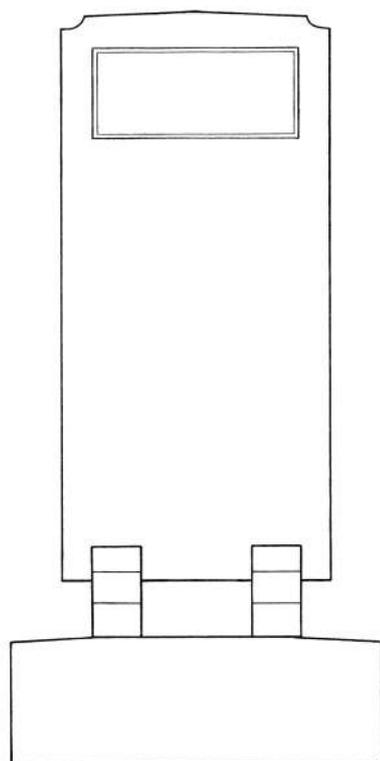
図2 石碑実測図



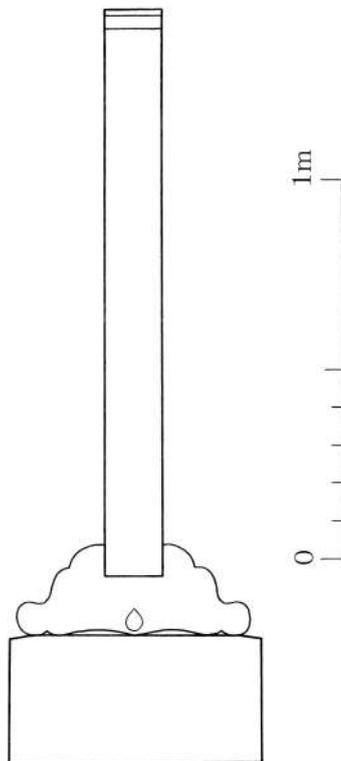
13町袋 1895 (1:25)

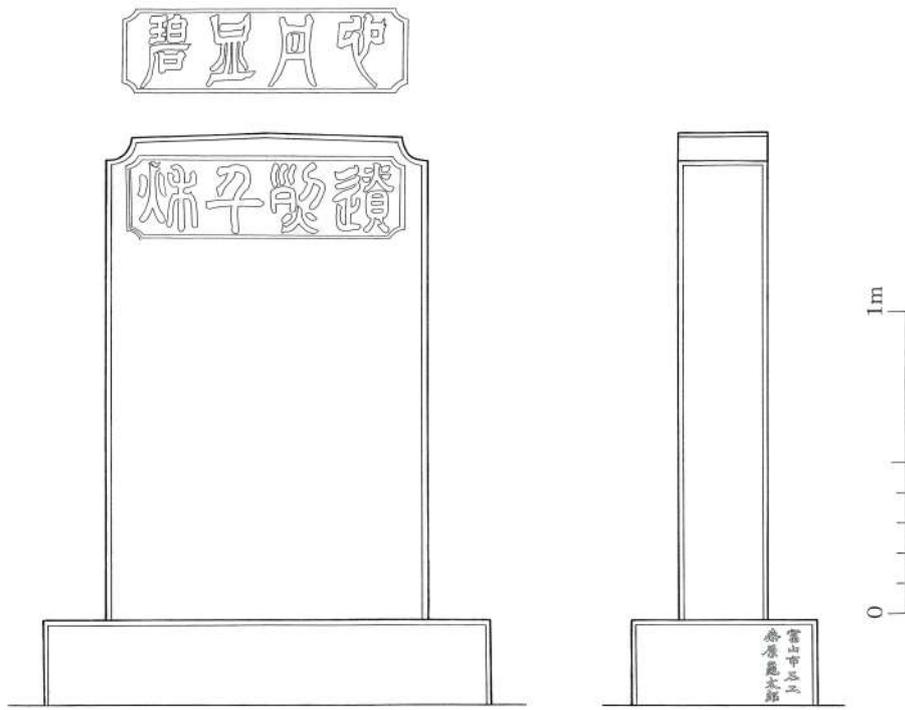


171町袋 1907 (1:25)

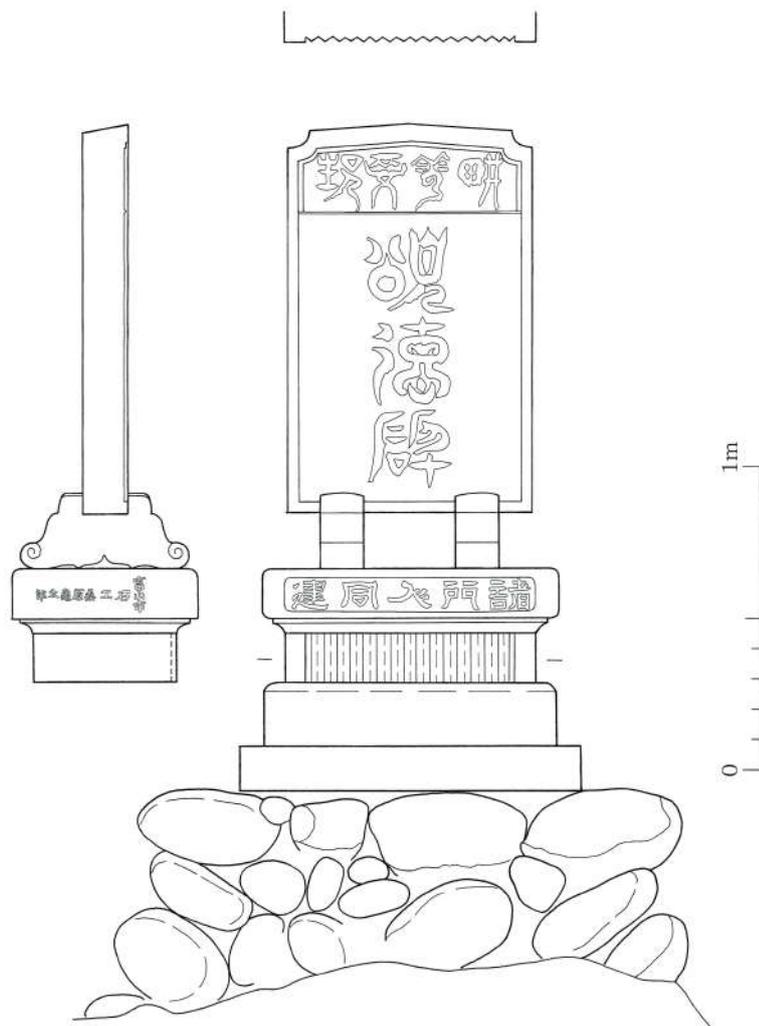


32針原中町 1906 (1:20)

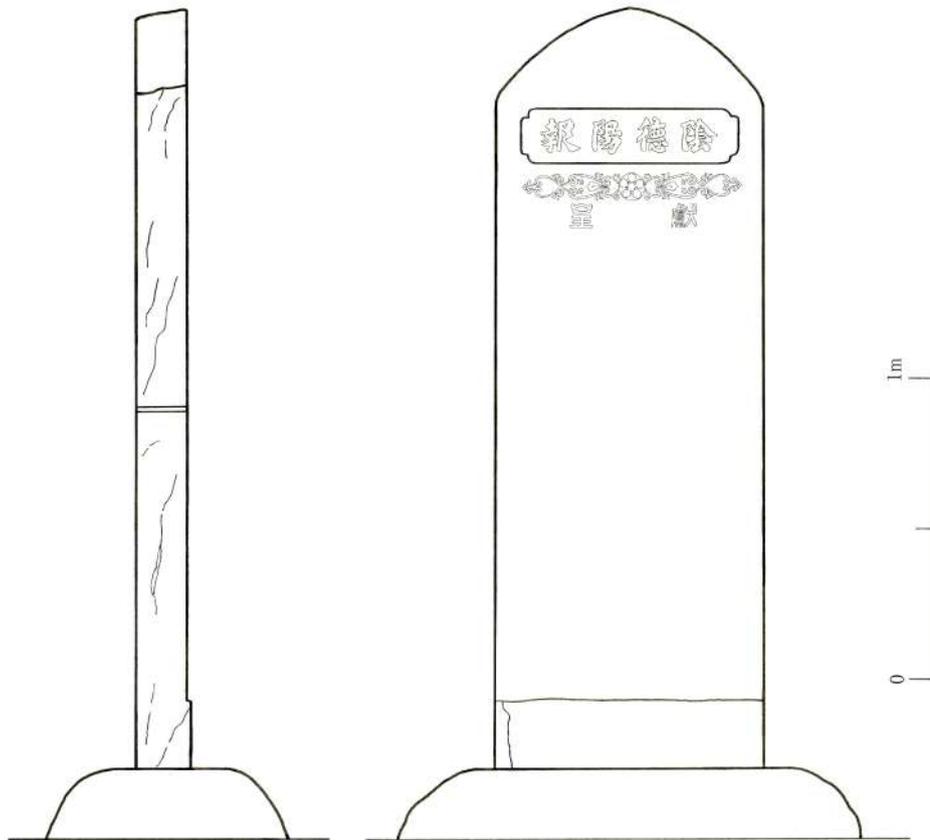




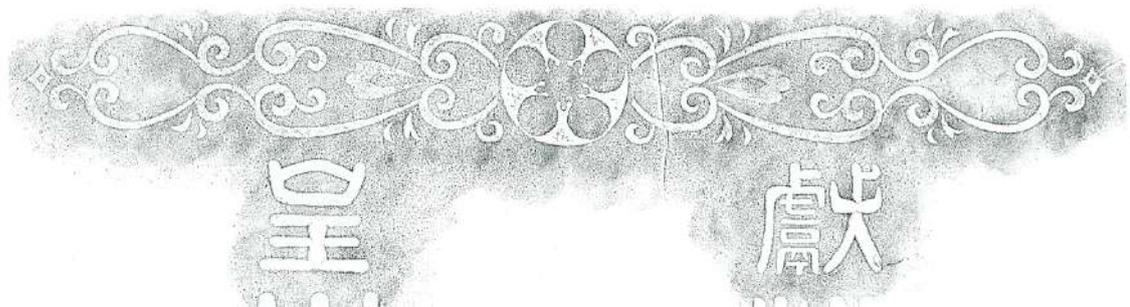
39 射水市戸破 1907 (1:25)



47 婦中町広田 1908 (1:25)



154 南栗山 1930 (1:25)

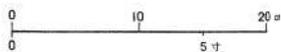
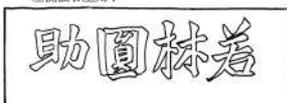


154 南栗山 1930 線刻文様拓影 (1:10)

图3 狛犬実測図



左側面台座刻字

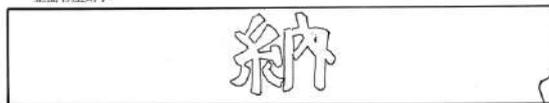


背面台座刻字

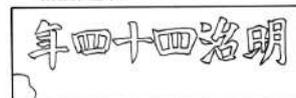


【阿形台座】

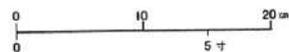
正面台座刻字



右側面台座刻字



背面台座刻字



【咩形台座】

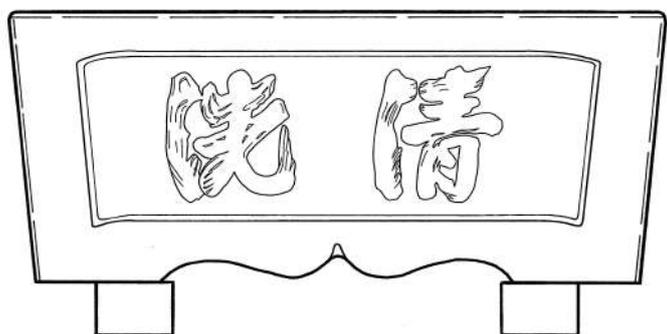
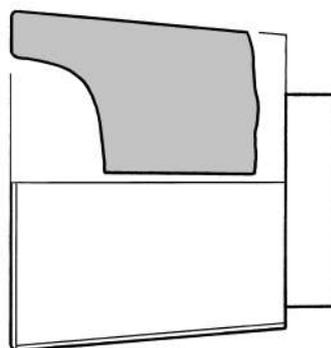
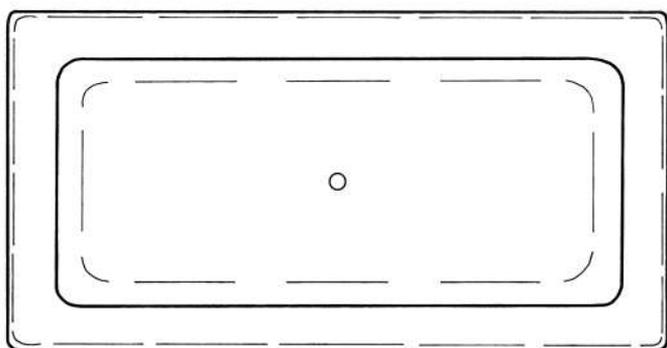


【拓影】

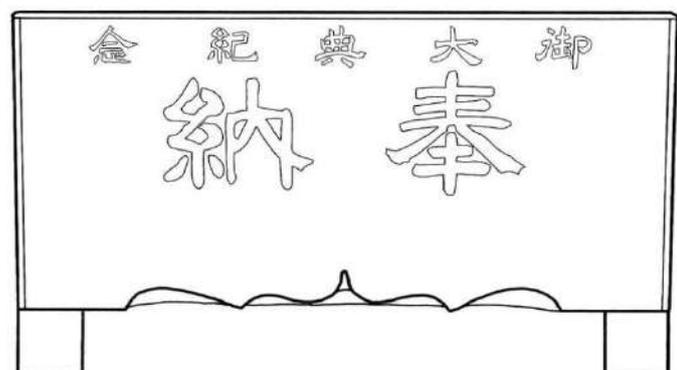
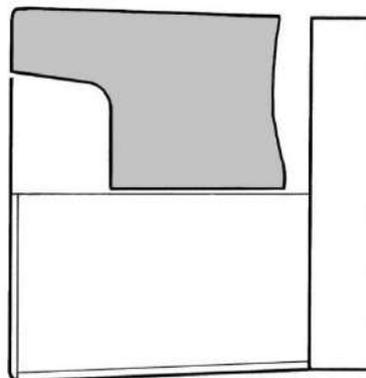
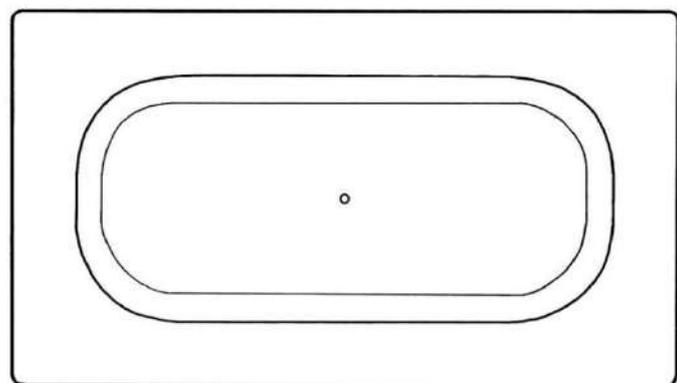
56 砺波市東保 1911 (1:10) 【阿形】

実測図は西井龍儀氏提供による

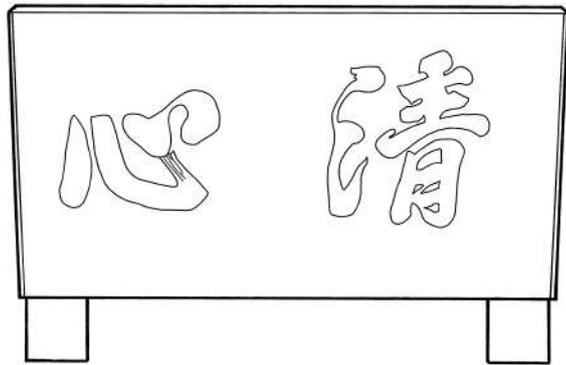
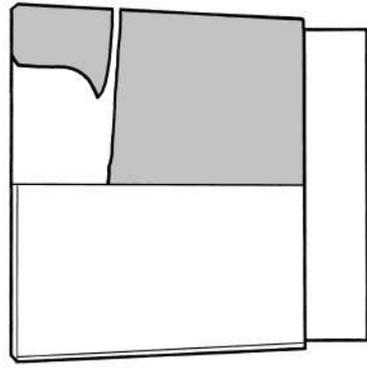
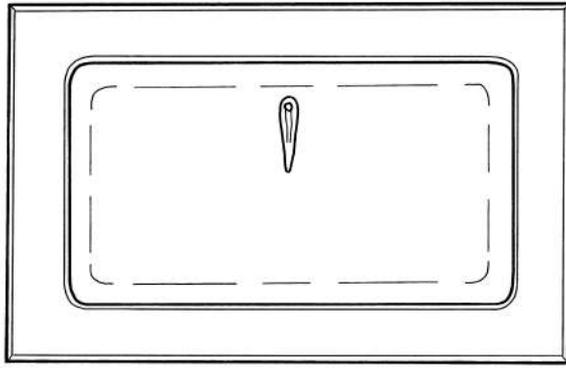
图4 手水鉢実測図



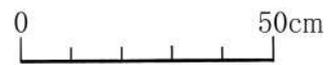
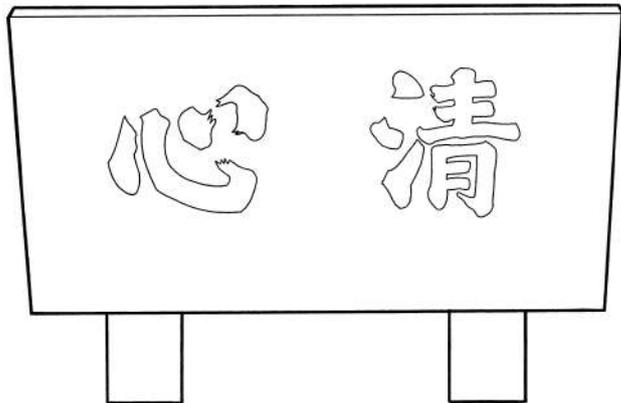
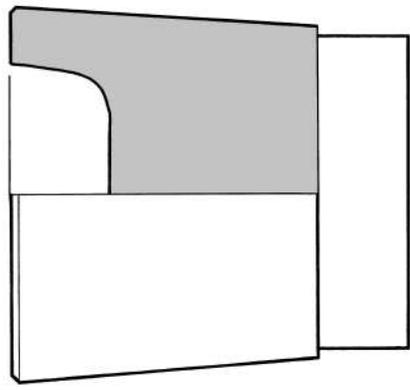
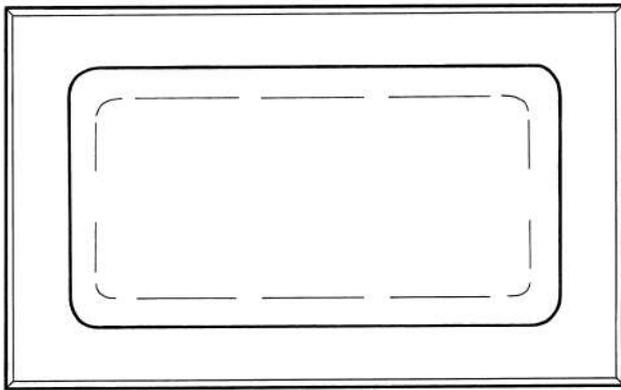
67 八幡 1915 (1:15)



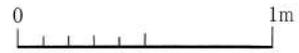
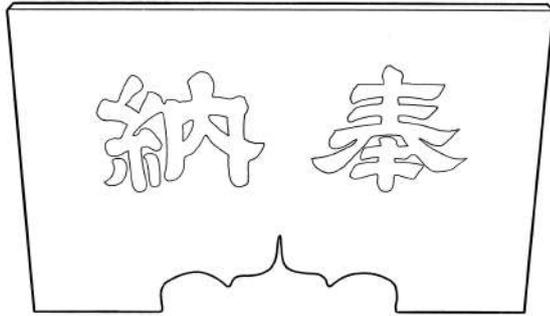
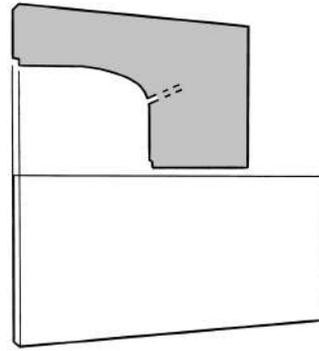
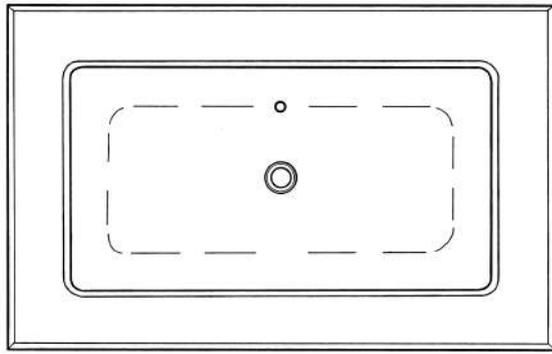
68 岩瀬白山町 1915 (1:15)



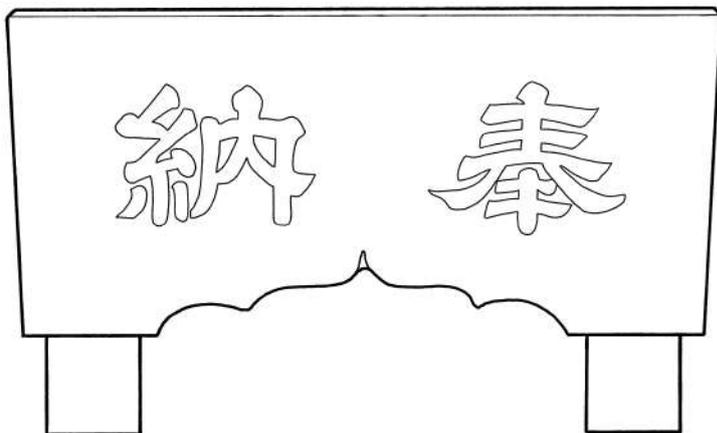
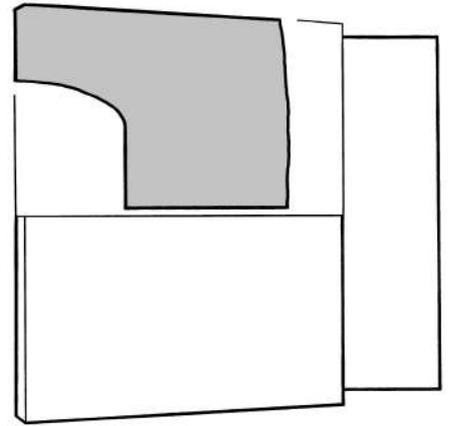
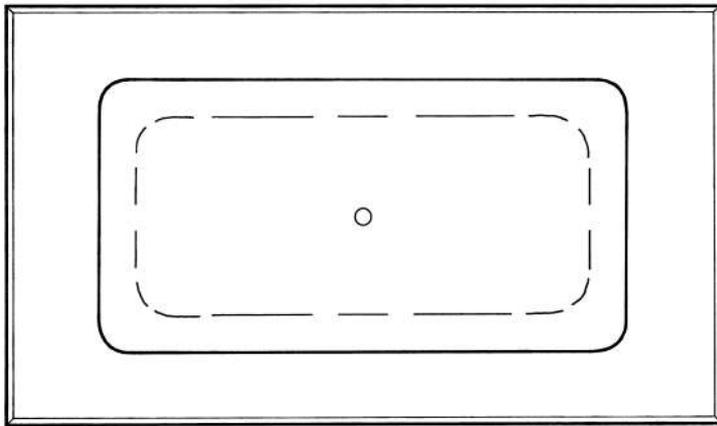
121 下赤江 1922 (1:15)



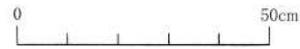
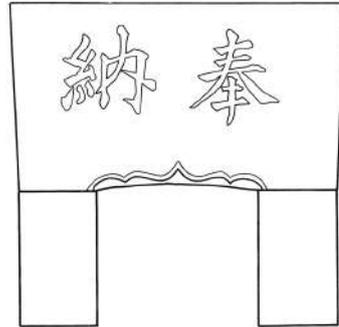
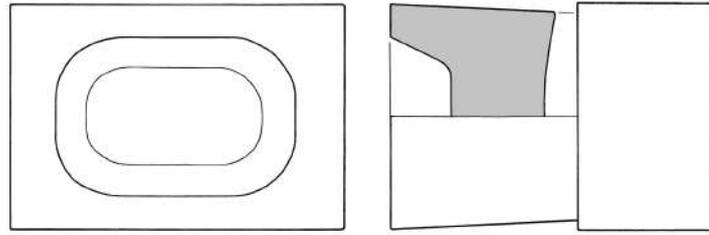
135 射水市殿村 1924 (1:15)



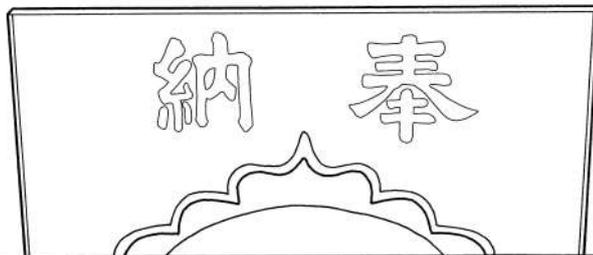
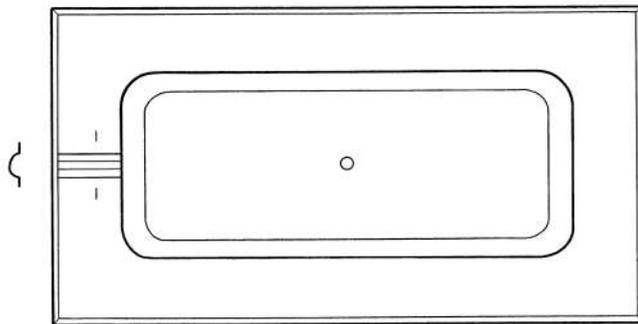
142 片掛 1925 (1:30)



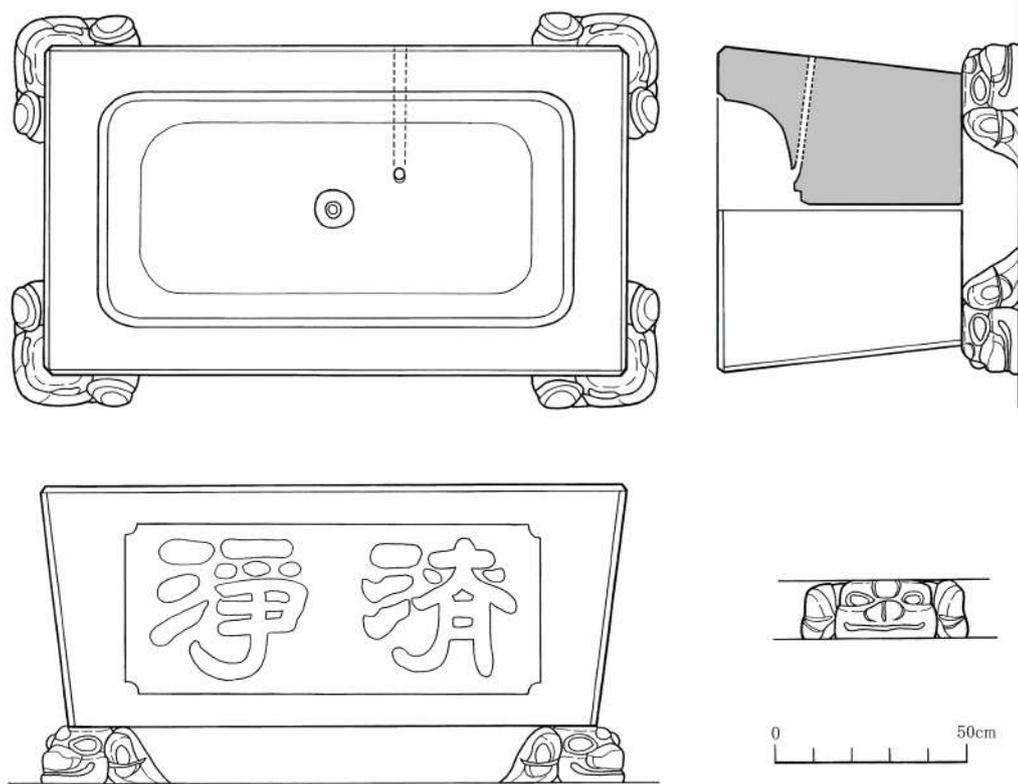
152 婦中町小泉 1928 (1:15)



159 岩瀬荒木町 1879 推定 (1:15)

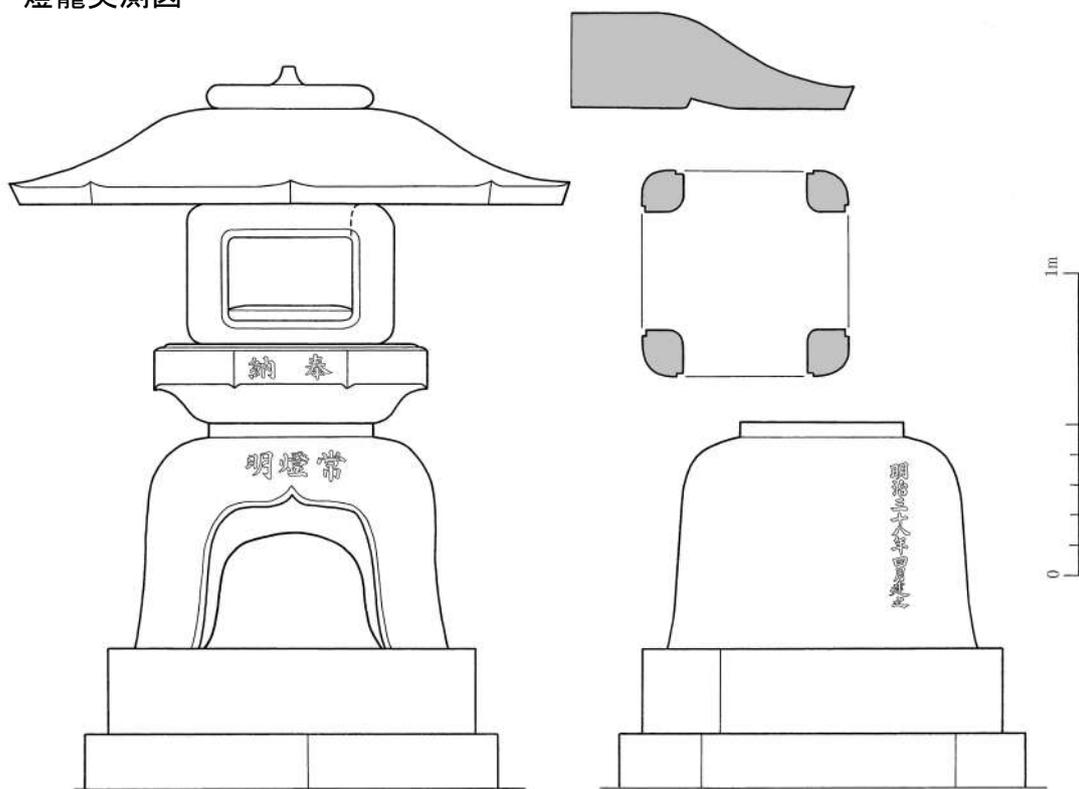


174 婦中町笹倉 1909 推定 (1:20)

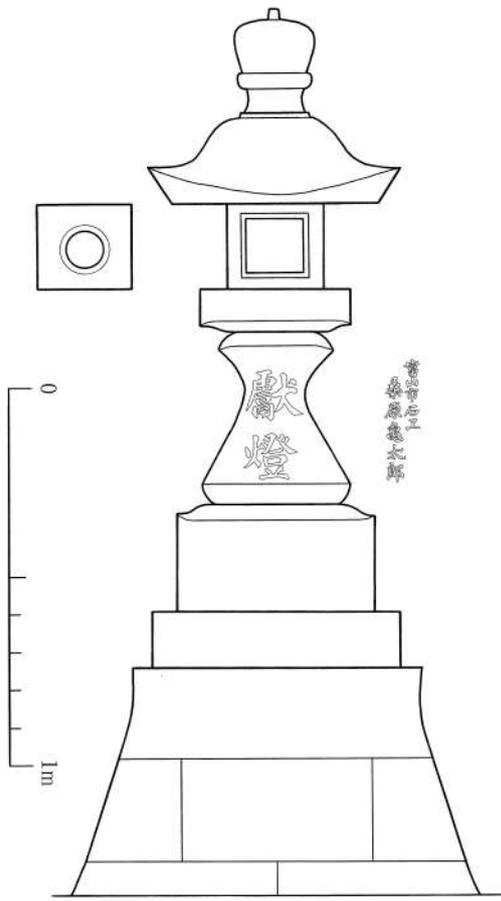


196 射水市作道 年代不明 推定 (1 : 20)

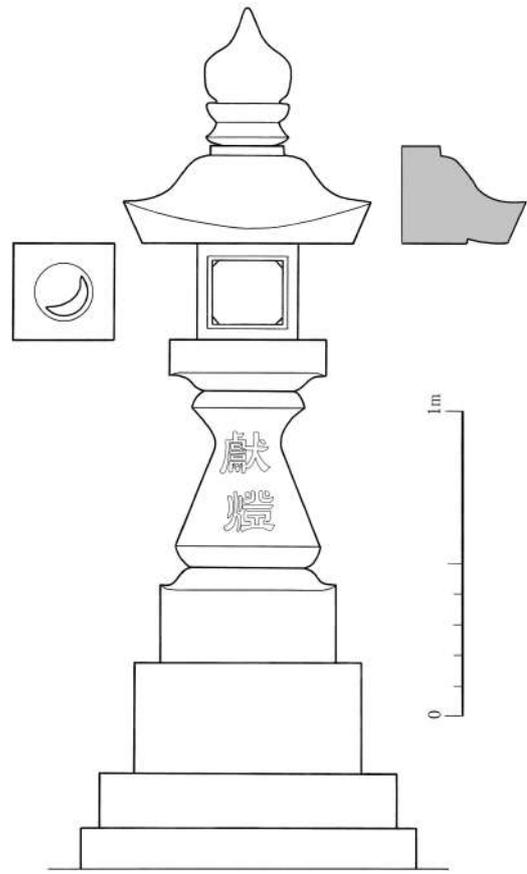
図5 燈籠実測図



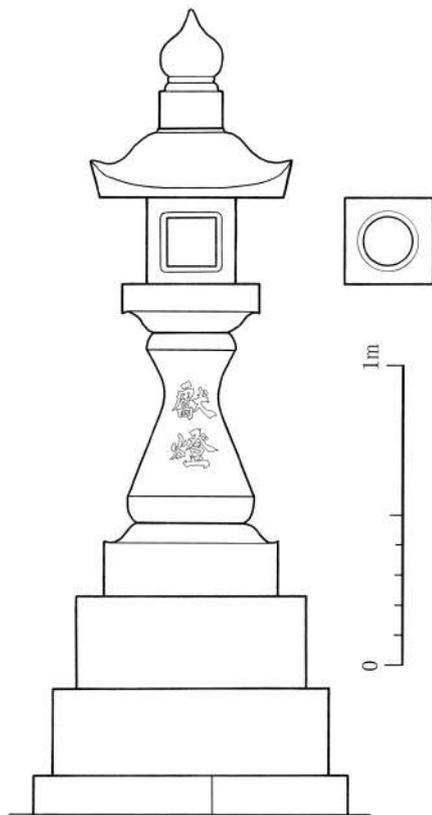
31 岩瀬白山町 1905 (1 : 25)



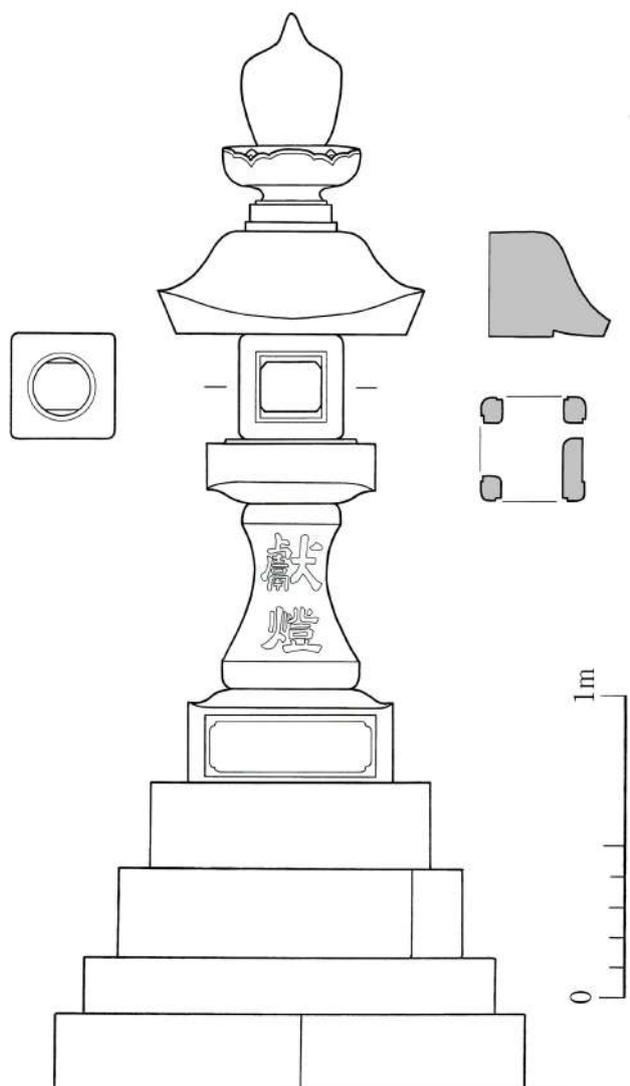
63 婦中町朝日 1915 (1 : 20)



105 杉谷 1920 (1 : 25)

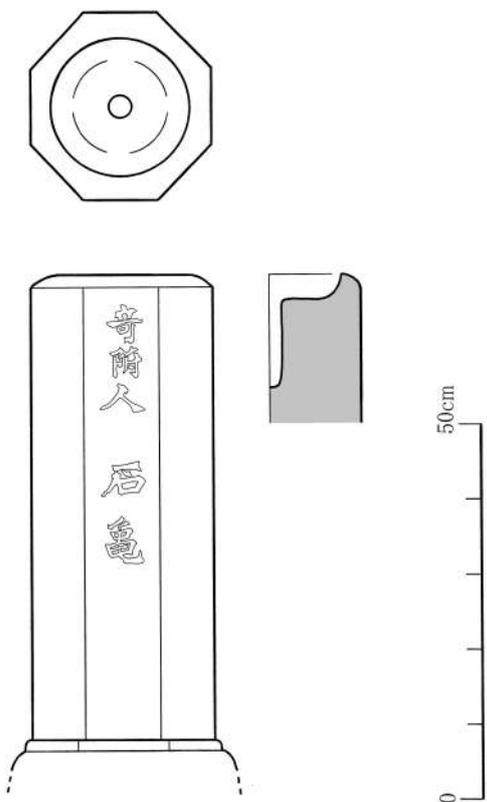


161 婦中町中名 1889 推定 (1 : 25)

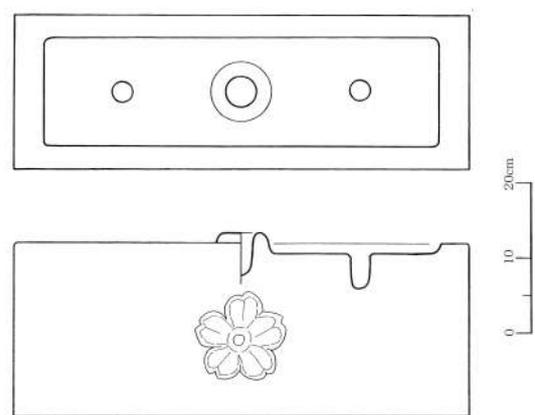


177 友杉 1911 推定 (1 : 25)

图 6 花立実測図



16 海岸通 1896 (1 : 10)



39 奉献花立 (1:10)

石碑【自然石型・駒型】



1 岩瀬荒木町 1878



1 側面



2 稲荷町 1879



2 側面



3 塩 1881



3 側面



5 八ヶ山 1883



5 側面



6 岩瀬荒木町 1888



6 側面



4 五福 1881



4 側面



8 八尾町三田 1890



12 婦中町長沢 1895



14 山田湯 1895



19 太郎丸本町 1897



19 側面



22 婦中町上井沢 1898



23 上市町新屋 1899



24 境野新 1902



36 婦中町広田 1907



37 婦中町広田 1907



48 八ヶ山 1909

石碑【四角型】



100 滑川市下小泉町  
1919



162 砺波市庄川町  
金屋 1895 推定



13 町袋 1895



15 海岸通 1895



27 婦中町小倉 1904 以降



27 側面



28 婦中町下吉川 1905  
以降



29 金屋 1905 以降



30 婦中町下吉川  
1905 以降



32 針原中町 1906



33 婦中町下邑 1906



34 四方 1906



35 上市町中江上 1906



38 立山町渚上 1907



39 射水市戸破 1907



47 婦中町広田 1908



52 太田 1911



54 立山町日中上野 1911



165 高島 1906 推定



166 金屋 1906 推定



167 金屋 1906 推定



168 羽根 1906 推定



171 町袋 1907 推定

石碑【方柱型】



44 八尾町城山 1908



53 太田 1911



122 四方 1922



70 婦中町広田 1915

石碑【板状型・縦板型】



25 婦中町笹倉 1902



51 婦中町羽根 1909



59 磯部町 1913



80 浜黒崎 1917



82 太田 1917



83 立山町池田 1917



84 上市町眼目 1917



85 飛騨市宮川町桑野  
1917



98 滑川市加島町 1919



104 立山町上末 1919



107 有沢 1920



115 滑川市上島 1921



124 立山町大石原 1922



127 八尾町杉田 1923



128 下大久保 1923



129 婦中町田屋 1923



130 婦中町広田 1923



136 太田 1924



137 八尾町井田 1925



138 婦中町砂子田 1925



146 古沢 1926



148 八尾町石戸 1927



150 岩瀬天神町 1928



154 南栗山 1930



154 側面



156 砺波市柳瀬 1905 以降



157 砺波市柳瀬 1905 以降

### 石碑【造形型】



(左)169・(右)170 婦中町田島 1906



149 安養坊 1928

【狛犬】



7 婦中町中名 1889



9 上栄 1892



11 八尾町武道原 1894



17 立山町沢端 1896



21 八尾町下新町 1898



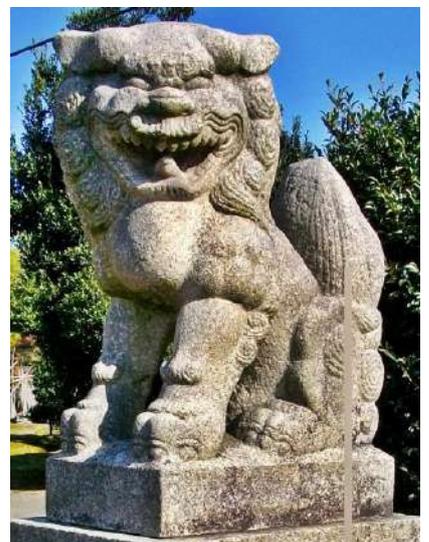
26 上袋 1903



40 婦中町外輪野 1907



41 岩瀬入船町 1907



42 中老田 1908



43 太郎丸本町 1908



46 射水市作道 1908



50 婦中町道島 1909



55 大泉本町 1911



56 砺波市東保 1911



60 下堀 1914



62 長附 1915



65 山王町 1915



72 婦中町田屋 1916



74 高岡市上麻生 1916



75 小黒 1917



76 中川原 1917



77 射水市七美中野 1917



78 立山町二ッ塚 1917



87 八尾町福島 1918



89 粟島 1918



91 下赤江 1918



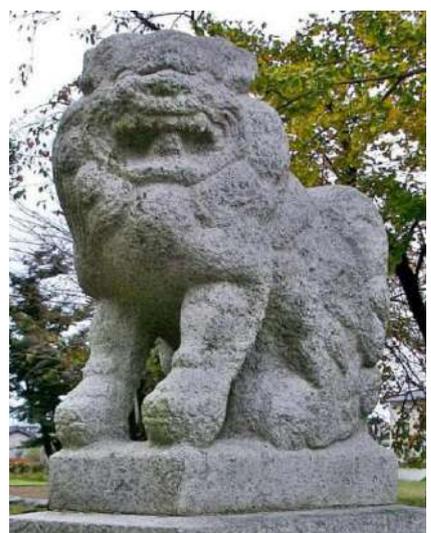
95 町村 1919



96 杉谷 1919



106 宮保 1920



109 婦中町小泉 1920



110 上市町女川 1920



114 射水市加茂 1921



116 打出 1922



117 西二俣 1922



118 八尾町石戸 1922



119 射水市殿村 1922



123 砺波市東石丸 1922



125 立山町高原 1923



131 久郷 1924



147 上市町西種 1926



158 婦中町笹倉



160 岩瀬荒木町 1879 推定



163 立山町座主坊 1905 推定



164 経田 1906 推定



172 婦中町安田 1907 推定



175 婦中町下轡田 1909 推定



176 黒瀬 1910 推定



178 布尻 1912 推定



179 吉岡 1914 推定



180 五福 1915 推定



181 婦中町板倉 1920 推定



182 射水市浄土寺 1923 推定



184 高岡市戸出岡御所 1924 推定



187 婦中町速星 1925 推定



189 滑川市上小泉 1928 推定



197 吉倉推定



65 山王町 1915 阿形基礎・基壇

【狛犬尾部】



7 婦中町中名 1889



9 上栄 1892



11 八尾町武道原 1894



17 立山町沢端 1896



21 八尾町下新町 1898



26 上袋 1903



40 婦中町外輪野 1907



41 岩瀬入船町 1907



42 中老田 1908



43 太郎丸本町 1908



46 射水市作道 1908



50 婦中町道島 1909



55 大泉本町 1911



56 砺波市東保 1911



60 下堀 1914



62 長附 1915



65 山王町 1915



72 婦中町田屋 1916



74 高岡市上麻生 1916



75 小黒 1917



76 中川原 1917



77 射水市七美中野



78 立山町二ツ塚 1917



87 八尾町福島 1918



89 栗嶋 1918



91 下赤江 1918



95 町村 1919



96 杉谷 1919



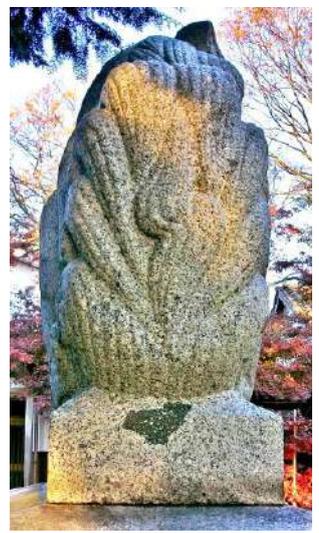
106 宮保 1920



109 婦中町小泉 1920



110 上市町女川 1920



114 射水市加茂 1921



116 打出 1922



117 西二俣 1922



118 八尾町石戸 1922



119 射水殿村 1922



123 砺波東石丸 1922



125 立山町高原 1923



131 久郷 1924



147 上市町西種 1926



158 婦中町笹倉



160 岩瀬荒木町 1879  
推定



163 立山町座主坊 1905  
推定



164 経田 1906 推定



172 安田 1907 推定



175 婦中町下轡田  
1909 推定



176 黒瀬 1910 推定



178 布尻 1912 推定



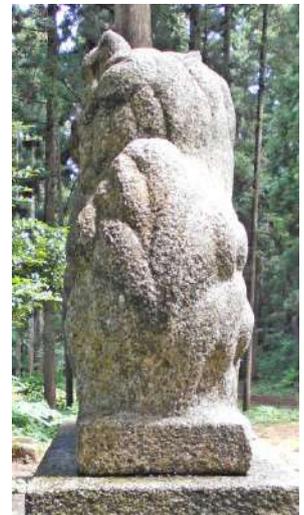
179 吉岡 1914 推定



180 五福 1915 推定



181 婦中町板倉 1920  
推定



182 射水市浄土寺 1923  
推定



184 高岡市戸出岡御所  
1924 推定



187 婦中町速星 1925  
推定



189 滑川市上小泉 1928  
推定

【鳥居】



57 上袋 1913



64 舟橋村海老江 1915



66 婦中町安田 1915



69 古沢 1915



73 滑川市下梅沢 1916



79 立山町座主坊 1917



88 吉作 1918



90 下赤江 1918



97 婦中町余川 1919



101 文珠寺 1919



102 立山町虫谷 1919



103 窪本町 1919



112 婦中町下吉川 1921



126 山王町 1923



132 久郷 1924



133 立山町二ツ塚 1924



134 八尾町大杉 1924



140 婦中町広田 1925



141 婦中町中名 1925



143 上赤江 1925



144 八尾町井田 1926



153 八尾町新田 1928



155 岩瀬荒木町 1931

【社標】 自然石型



20 八尾町三田 1897

【社標】方柱型



45 泉町 1908



49 四方 1909



81 婦中町安田 1917



86 婦中町田屋  
1918



92 水橋開発  
1918



99 滑川市下梅沢  
1919



108 婦中町  
小泉 1920



111 安養坊 1920



113 八尾町福島  
1921



120 下赤江 1922



139 奥田 1925



145 八尾町井田 1926



151 西宮 1928



181 高岡市戸出岡御所 1924 推定

【手水鉢】



67 八幡 1915



68 岩瀬白山町 1915



93 婦中町下吉川 1918



121 下赤江 1922



135 射水市殿村 1924



142 片掛 1925



152 婦中町小泉 1928



159 岩瀬荒木町 1875 推定



159 岩瀬荒木町 1875



174 婦中町笹倉 1909 推定



185 高岡市戸出岡御所 1924 推定



186 下大久保 1924 推定



188 高屋敷 1926 推定



194 婦中町広田 推定



195 八尾町石戸 推定



196 射水市作道 推定



196 射水市作道 獅子頭台石

【燈籠】



31 岩瀬白山町 1905



63 婦中町朝日 1915



105 杉谷 1920



161 婦中町中名 1889 推定



177 友杉 1911 推定



71 婦中町安田 1916

【墓石】



58 岩瀬天神町 1913



61 岩瀬天神町 1914



94 上熊野 1918



71 顔

【石仏】



18 城川原 1897 (共作)



18 顔



173 古沢 1908 推定



173 顔



191 大泉 3 丁目 推定



191 顔



192 射水市北二ツ屋推



192 顔

【竿立】

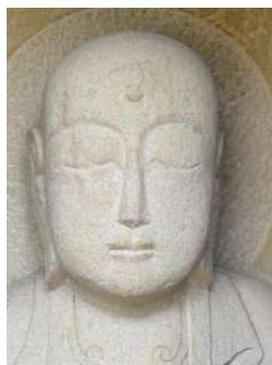


190 砺波市東石丸 推定

【花立】



193 射水市青井谷推定



193 顔



16 海岸通 1986



16 海岸通 上面

図 10 石工名刻銘 拓影・実測図

見出し番号は表 1 と一致する。  
縮尺は、(1:数字) の表記がないものは 1:5 である。



1 岩瀬荒木町  
1878



1 同左



2 稲荷町 1879



2 同左



3 塩 1881



3 同左



6 岩瀬荒木町  
1888 (1:6)



6 同左 (1:6)



4 五福 1881



4 同左



5 八ヶ山 1883



5 同左



7 婦中町中名 1889



7 同左



8 八尾町三田  
1890



8 同左



9 上栄



9 同上



11 八尾町武道原 1894



12 婦中町長 沢 1895 (1:10)



13 町袋 1895 (1:8)



15 同左 (1:8)



16 山田湯 1895



17 同左



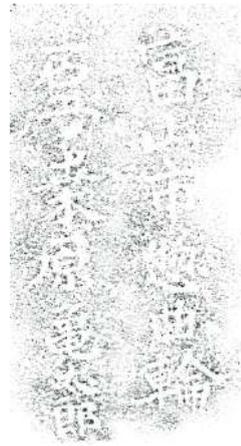
18 同上



19 海岸通 1896 (1:8)



20 同左 (1:8)



21 立山町沢端 1896



22 同左



23 海岸通 1896



24 同左



25 太郎丸本町 1897



26 同左



27 八尾町三田 1897



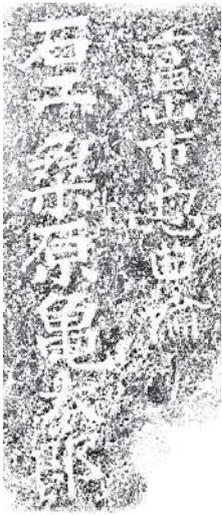
28 城川原 1897



29 同左



30 同左



21 八尾町下新町  
1898

富山市惣曲繪  
石工桑原龜太郎

21 同左



22 婦中町  
上井沢  
1898

富山市石工  
桑原龜太郎

22 同左

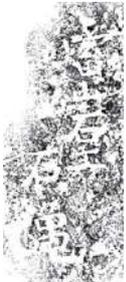


23 上市町新屋  
1899 (1:8)

富山市石工

桑原龜太郎

23 同左 (1:8)



24 境野新  
1902

富山市石工  
桑原龜太郎

24 同左



25 婦中町笹倉  
1902(1:3)

桑原龜太郎刻

25 同左  
(1:3)



26 上袋 1903

富山市石工  
桑原龜太郎

26 同左



27 婦中町  
小倉 1904  
94

富山市石工  
桑原龜太郎

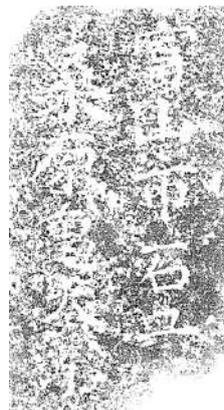
27 同左



28 金屋 1905 以降

富山市石工  
桑原龜太郎

28 同左



29 婦中町下吉川  
1905 以降

富山市石工  
桑原龜太郎

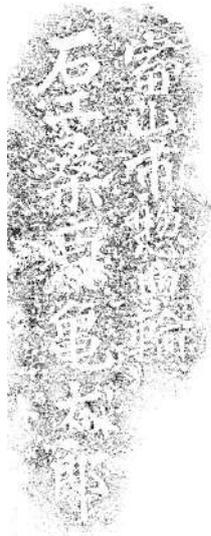
29 同左



30 婦中町下吉川  
1905 頃



30 同左



31 岩瀬白山町  
1905



31 同左



32 針原中町 1906 (1:6)  
32 同左 (1:6)



33 婦中町下邑 1906 (1:6)  
33 同左 (1:6)



34 四方 1906



34 同左



35 上市町中江上  
1906



35 同左



37 婦中町広田  
1907 (1:8)



37 同左 (1:8)



38 立山町渕  
上 1907



38 同左



39 射水市戸破  
1907



39 同左



40 婦中町外輪野  
1907



40 同左



41 岩瀬入船町



41 同左



43 太郎丸本町  
1908



42 中老田 1908



42 同左



44 八町尾城山 1908 (1:6)



44 同左 (1:6)



43 同左



45 泉町 1908



45 同左



46 射水市作道 1907



46 同左



47 婦中町広田 1908



47 同左



47 婦中町広田 1908 (1:6) 1:5



47 同上 (1:5)



48 八ヶ山 1909



48 同左



49 四方 1909 (1:8)



49 同左 (1:8)



50 婦中町道島 1909



50 同左



51 婦中町 羽根 1909



51 同左



52 太田 1911 (1:6)



52 同左 (1:6)



53 太田 1911 (1:6)



53 同左 (1:6)



54 立山町 日中上野 1911



54 同左



55 大泉本町 1911



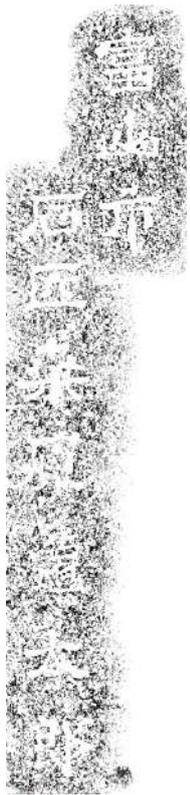
55 同左



56 砺波市東保 1911



56 同左



57 上袋 1913

富山市  
石匠 桑原 龜太郎

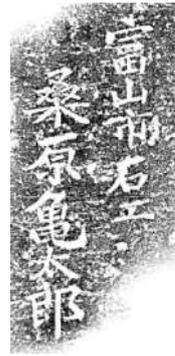
57 同左



58 岩瀬天神町 1913

富山市  
石匠 桑原 龜太郎

58 同左



60 下堀 1914

富山市石匠  
桑原 龜太郎

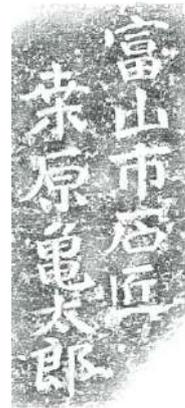
60 同左



61 岩瀬天神町 1914

富山市石匠  
桑原 龜太郎

61 同左



62 長附 1915

富山市石匠  
桑原 龜太郎

62 同左



63 婦中町朝日 1915 (1:6)

富山市石匠  
桑原 龜太郎

63 同左 (1:6)



64 舟橋村海老江 1915 (1:6)

富山市石匠  
桑原 龜太郎

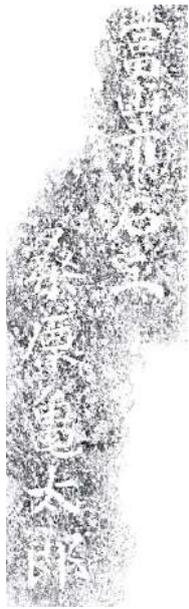
64 同左 (1:6)



65 山王町 1915 (1:8)

富山市  
石匠 桑原 龜太郎

65 同左 (1:8)



66 婦中町安田  
1915 (1:6)

富山市石工  
桑原龜太郎

66 同左 (1:6)



67 八幡 1915  
(1:8)

富山市  
石匠 桑原龜太郎

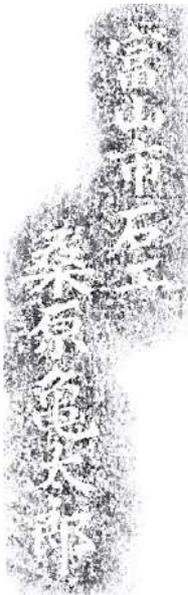
67 同左 (1:8)



68 岩瀬白山町  
1915

富山市石工  
桑原龜太郎

68 同左



69 古沢 1915  
(1:6)

富山市石工  
桑原龜太郎

69 同左 (1:6)



70 婦中町広田  
1915

富山市石工  
桑原龜太郎

70 同左



71 婦中町安田  
1916

富山市石工  
桑原龜太郎

71 同左



72 婦中町田屋  
1916

富山市石工  
桑原龜太郎

72 同左



73 滑川市下  
梅沢 1916

富山市石工  
桑原龜太郎

73 同左



74 高岡市上麻生  
1916

富山市石工  
桑原龜太郎

74 同左



75 小黒 1917



75 同左



76 中川原 1917



76 同左



77 射水市七美中野 1917 (1:6)



77 同左 (1:6)



78 立山町二ツ塚 1917



78 同左



79 立山町座主坊 1917



79 立山町座主坊 1917



80 浜黒崎 1917



80 同左



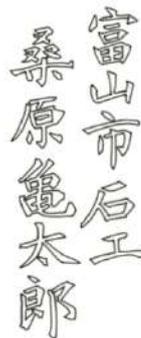
81 婦中町安田 1917



81 同左



82 太田 1917



82 同左



83 立山町池田 1917



83 同左



84 上市町眼目 1917 (1:6)



84 同左 (1:6)



85 神岡町桑野 1917 裏 (1:6)



85 同左裏 (1:6)



86 婦中町田屋 1918



86 同左



88 吉作 1918 (1:6)



88 同左 (1:6)



89 栗島 1920



89 同左



87 八尾町福島 1918 (1:6)



87 同左 (1:6)



91 下赤江 1918 (1:6)



91 同左 (1:6)



90 下赤江 1918 (1:6)



90 同左 (1:6)



富山市石工桑原龜太郎



93 婦中町下吉川 1918



93 同左



94 上熊野 1918



94 同左

92 水橋開發 1918 (1:10)

92 同左 (1:10)



95 町村 1919 (1:6)



95 同左 (1:6)



96 杉谷 1919



96 同左



99 滑川下梅沢 1919 (1:6)



100 滑川市下小泉町 1919 102



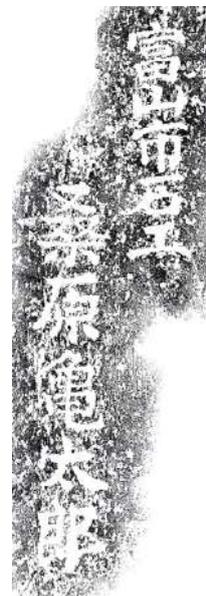
100 同左



102 立山町虫谷 1919 (1:6)



102 同左 (1:6)



101 文珠寺 1919 (1:6)



101 同左 (1:6)



103 杉谷 1920



103 同左



104 立山町上末  
1919



104 同左



105 窪本町  
1919 (1:6)



105 同左



106 宮保 1920



106 同左



107 有沢  
1920



107 同左



108 婦中町小泉  
1920 (1:6)



108 同左 (1:6)



109 婦中町小泉 1920



109 同左



110 上市女  
川 1920



110 同左



111 安養坊  
1920 (1:6)



111 同左 (1:6)



112 婦中町下吉川 1921 (1:6)



112 同左 (1:6)



113 八尾町福島 1921



113 同左



114 射水市加茂 1921 (1:6)



114 同左 (1:6)



115 滑川市上島 1921 (1:6)



115 同左 (1:6)



116 打出 1922



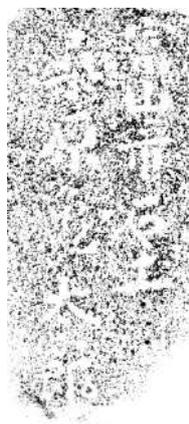
116 同左



117 西二俣 1922



117 同左



118 八尾町石戸 1922



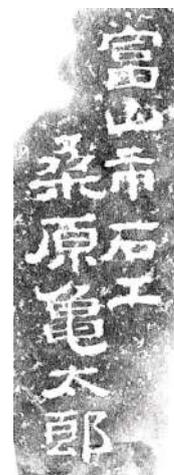
118 同左



119 射水市殿村 1922 (1:6)



119 同左 (1:6)



121 下赤江 1922



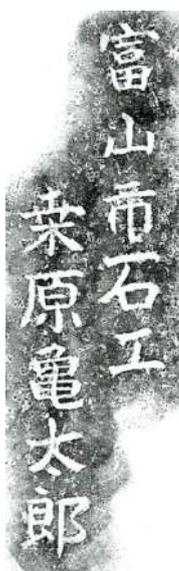
121 同左



120 下赤江 1922



120 同左



122 四方 1922  
以降



122 同左



124 立山  
町大石原  
1922



124 同左



123 砺波東石丸  
1922 (1:6)



123 同左 (1:6)



125 立山町高原  
1923 (1:6)



125 同左 (1:6)



126 山王町  
1923 (1:8)



126 同左  
(1:8)



127 八尾町  
杉田 1923



127 同左



131 久郷 1924 (1:6)



131 同左 (1:6)



132 久郷 1924  
(1:6)



132 同左 (1:6)



128 下大久保 1923 (1:8)



128 同左 (1:8)



129 婦中町田屋 1923 (1:6)



129 同左 (1:6)



130 婦中町広田 (1:6)



1309 同左 (1:6)



133 立山町二ツ塚 1924 (1:6)



133 同左 (1:6)



134 八尾町大杉 1924 (1:10)



134 同左 (1:10)



135 射水市殿村 1924 (1:6)



135 同左 (1:6)



136 太田 1924 (1:8)



136 同左 (1:8)



138 婦中町砂子田 1925



138 同左



137 八尾町井田 1925



137 同左



139 奥田 1925



139 同左



140 婦中町広田 1925 (1:8)



140 同左 (1:8)





141 婦中町中名 1925 (1:8)



141 同左 (1:8)



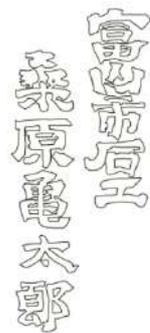
142 片掛 1925 (1:6)



142 同左 (1:6)



143 上赤江 1925 (1:8)



143 同左 (1:8)



144 八尾町井田 1926 (1:6)



144 同左 (1:6)



145 八尾町井田 1926



145 同左



146 古沢 1926



146 同左



147 上市町西種 1926 (1:6)



147 同左 (1:6)



148 八尾町石戸 1927 (1:6)



148 同左 (1:6)



149 安養坊 1928



149 同上



150 岩瀬天神町 1928



150 同上



151 西宮 1928 (1:6)



151 同左 (1:6)



152 婦中町小泉 1928 (1:6)



152 同左 (1:6)



153 八尾町 新田 1928



153 同左



154 南栗山 1930



154 同左



155 岩瀬荒木 町 1931 (1:8)



155 同左 (1:8)



156 砺波市 柳瀬 1906 以降 (1:6)



156 同左 (1:6)



157 砺波市柳瀬 1906 以降 (1:6)



157 同左 (1:6)



158 婦中町笹倉



158 同左

石工名刻銘 写真 見出し番号は表1と一致する。



1 岩瀬荒木町 1878



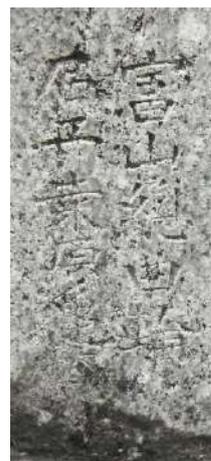
2 稲荷町 1879



3 塩 1881



4 五福 1881



5 八ヶ山 1883



7 婦中町中名 1889



8 八尾町三田 1890



11 八尾町武道原 1894



6 岩瀬荒木町 1888



12 婦中町長沢 1895



9 上栄



14 山田湯 1895



13 町袋 1895



15 海岸通 1896



16 海岸通 1896



17 立山町沢端



18 城川原 1897



19 太郎丸本町  
1897



20 八尾町三田  
1897



21 八尾町下新町  
1898



22 婦中町上井沢  
1898



23 上市町新  
屋 1899



24 境野新  
1902



26 上袋 1903



25 婦中町  
笹倉 1904



27 婦中町  
小倉 1904  
以降



28 金屋  
1905 以降



29 婦中町下吉川  
1905 以降



30 婦中町下吉川  
1905 以降



31 岩瀬白山町  
1905



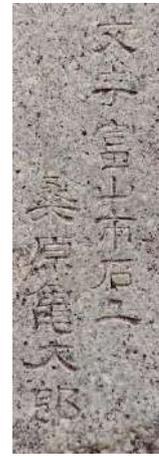
32 針原中町  
1906



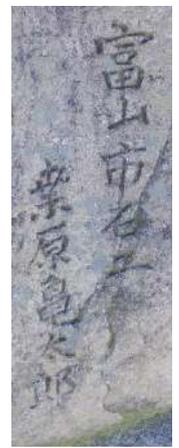
33 婦中町下  
邑 1906



34 四方 1906



35 上市町中  
江上 1906



37 婦中町広  
田 1907



38 立山町  
湧上 1907



39 射水市戸破  
1907



40 婦中町外輪野  
1907



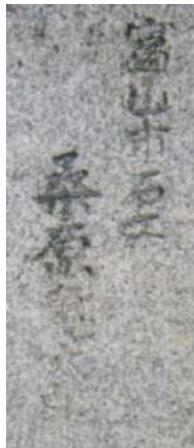
41 岩瀬入船町



42 中老田 1908



43 太郎丸本町  
1908



44 八尾町城山  
1908



45 泉町 1908



46 射水市野村  
1907



48 八ヶ山 1909



49 四方 1909



47 婦中町広田 1908



50 婦中町道島  
1909



51 婦中町  
羽根 1909



54 立山町  
日中上野  
1911



52 太田 1911



53 太田 1911



55 大泉本町 1911  
111



56 砺波市東保 1911 阿形



56 同上 吽形



58 岩瀬天神町 1913



57 上袋 1913



60 下堀 1914



61 岩瀬天神町 1914



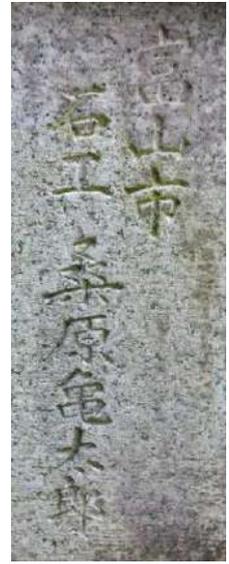
59 磯部 1913



63 婦中町朝日 1915



62 長附 1915



65 山王町 1915



64 舟橋村海老江 1915



66 婦中町安田 1915



67 八幡 1915



68 岩瀬白山町 1915



69 古沢 1915



70 婦中町広田 1915



71 婦中町安田  
1916



72 婦中町田屋 1916



73 滑川市下梅沢  
1916



74 高岡市上麻生  
1916



75 小黒 1917



76 中川原 1917



77 射水市七美中野  
1917



78 立山町二ツ塚  
1917



79 立山町座主坊  
1917



80 浜黒崎 1917



81 婦中町安田 1917



82 太田 1917



83 立山町池田  
1917



85 飛騨市神岡  
町桑野 1917



80 同左 1917  
113



84 上市町眼目  
1917



86 婦中町田屋  
1918



87 八尾町福島 1918



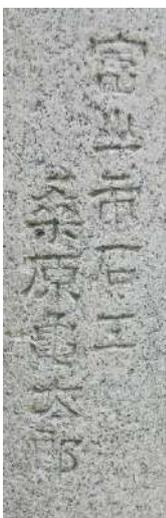
88 吉作 1918



89 粟島 1920



92 水橋開発  
1918



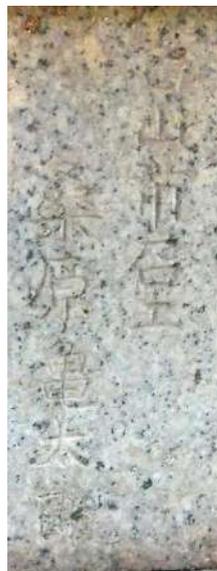
90 下赤江  
1918



91 下赤江 1918



93 婦中町下吉川  
1918



95 町村 1919



97 婦中町余川  
1919



99 滑川市下梅沢  
1919



98 滑川市加  
島町 1919



100 滑川市下小泉町  
1919



94 上熊野 1918



96 杉谷 1919



101 文珠寺 1919



102 立山町  
虫谷 1919



107 有沢 1920



103 窪本町 1919



104 立山町上末 1919



105 杉谷 1920



106 宮保 1920



108 婦中町小泉  
1920



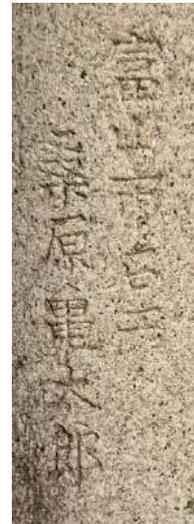
109 婦中町小泉 1920



110 上市町女川  
1920



115 滑川市上島  
1921



112 婦中町下吉川  
1921



113 八尾町福島  
1921



114 射水市加茂  
1921



111 安養坊 1920



117 西二俣 1922



116 打出 1922



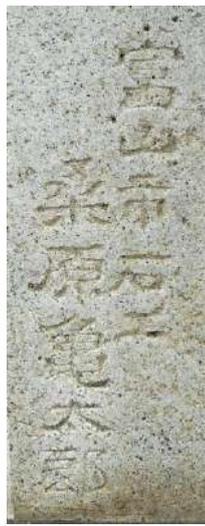
118 八尾町石戸  
1922



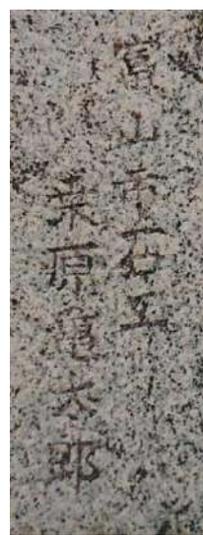
119 射水市殿村  
1922



120 下赤江 1922



121 下赤江 1922



122 四方 1922



123 砺波市東石丸  
1922



124 立山町  
大石原 1922



125 立山町高原  
1923



126 山王町 1923



127 八尾杉田  
1923



128 下大保  
1923



129 婦中町田屋  
1923



130 婦中町広田  
1923



131 久郷 1924



132 久郷 1924



133 立山ニッ塚鳥居 1924



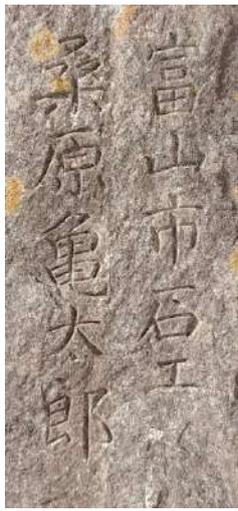
134 八尾町大杉 1924



135 射水市殿村 1924



136 太田 1924



137 八尾町井田 1925



138 婦中町 砂子田 1925



139 奥田 1925



140 婦中町 広田 1925



141 婦中町中名 1925



142 片掛 1925



143 上赤江 1925



144 八尾町 井田 1926



145 八尾町 井田 1926



146 古沢 1926



147 上市町西種 1926



148 八尾町石 戸 1927



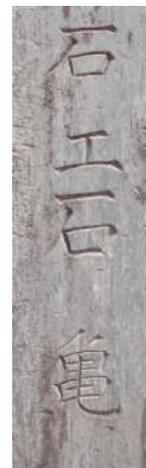
154 南栗山 1930



151 西宮 1928



149 安養坊 1928



150 岩瀬天神 町 1928



152 婦中町小泉 1928



153 八尾町  
新田 1928



155 岩瀬荒木町  
1931



156 砺波市柳瀬  
1906 以降



157 砺波市柳瀬  
1906 以降



158 婦中町笹倉

富山石文化研究所調査研究報告 13

Report13 of archaeological and Historical Research at TSCL

## 富山市石工桑原亀太郎石造物調査報告書

Investigative report of stone work of Kuwahara Kametaro at city Toyama.

発行日 2023（令和5）年12月27日

編集発行機関 富山石文化研究所  
Toyama Stone Culture Laboratory  
（代表 古川知明）

〒939-8072

富山県富山市堀川町 378-3-605

E-mail : [hakutuyasan@gmail.com](mailto:hakutuyasan@gmail.com)

HP : <http://tscl.jp/>

©2023Furukawa Tomoaki, TSCL